

分布調査報告書(18)

1991年

山形県教育委員会

分布調査報告書 (18)

平成2年度以降農林土木事業他関係遺跡

国営農地開発事業鳥海南麓地区関係遺跡

東北縦断自動車道酒田線関係遺跡

埋蔵文化財包蔵地基礎調査

平成3年3月

山形県教育委員会

序

本書は山形県教育委員会が平成2年度に実施した、遺跡詳細分布調査の結果をまとめたものです。

近年の開発事業の増加に伴い、地下に埋もれた埋蔵文化財との関わりも増加する傾向にあります。

埋蔵文化財は本来土地に密着したものであり、貴重な国民的財産であります。保護にあたっては国民がその特性を十分認識し、周到な注意をもって対処することに努めなければなりません。

山形県教育委員会では、「心広くたくましい県民の育成」と地域文化の環境作りという立場から、今後とも県民福祉の向上を目的とした地域社会の整備と調整をはかりながら、埋蔵文化財の保護に努力を続けていく所存であります。

本書が埋蔵文化財に対する保護思想の普及もかねまして、皆様のご理解の一助となれば幸いと存じます。

最後になりましたが、調査においてご協力をいただきました関係各位をはじめ地元のかたがたに心から感謝申し上げます。

平成3年3月

山形県教育委員会
教育長 木場清耕

例 言

- 1 本書は、平成2年度に山形県教育委員会が国庫補助を受けて実施した、平成2年度以降農林土木事業関係遺跡他に関する遺跡詳細分布調査の報告書である。
- 2 調査及び報告書の作成は、山形県教育庁文化課の佐々木洋治(埋蔵文化財専門員)・佐藤庄一(埋蔵文化財主査)・野尻 侃(埋蔵文化財係長)・佐藤正俊(主任技師)・名和達朗(主任技師)・渋谷孝雄(主任技師)・阿部明彦(技師)・長橋 至(技師)・安部 実(技師)・斉藤主税(嘱託)・須賀井新人(嘱託)・眞壁 建(嘱託)・の12名が担当した。
- 3 本書の編集は、渋谷孝雄、安部 実が担当し、全体については佐々木洋治が総括した。
- 4 第1章に遺跡一覧、第2章に個々の遺跡の内容を記した。新規発見遺跡、抹消遺跡、範囲、位置、名称の変更については、本書の発行をもって周知されたものとみなす。
- 5 挿図の縮尺は不統一であり、その都度各々にスケールを示した。遺跡位置図は国土地理院発行の2万5千分の1の地図を使用し、第II章2以下については、これをさらに縮尺して使用した。遺跡地名表の番号は当該事業内の位置図の番号に一致する。
図版内の遺物は2分の1、3分の1とした。
挿図、及び文中の記号は、黒丸、T、TT、TP—試掘地点、赤丸—遺構・遺物検出地点、RP—土器、ST—竪穴住居跡、SK—土壌、SD—溝、SP、EP—柱穴、SX—落込み、SG—旧河川跡を示す。土器実測図で断面白ヌキは土師器、陶器、点描は赤焼土器、黒ヌリは須恵器を示す。
- 6 調査にあたっては、各関係機関、市町村教育委員会及び地元関係者のご協力を得た。ここに記して感謝申し上げる。

目 次

I 調査の目的、方法と経過

- 1 調査の目的、方法…………… 1
- 2 調査の経過…………… 1

II 調査の概要

1 調査遺跡地名表

- (1) 県営ほ場整備事業関係遺跡 …… 6
- (2) 農道整備事業等関係遺跡 ……12
- (3) 国営農地開発事業(烏海南麓地区)関係遺跡 ……20
- (4) 国道改良事業関係遺跡 ……26
- (5) 県道改良事業関係遺跡 ……28
- (6) 河川改修、砂防事業関係遺跡 ……32
- (7) 新庄地区基礎調査 ……34
- (8) 西川地区基礎調査 ……34
- (9) 上山・山形・天童・東根地区基礎調査 ……34
- (10) 小国地区基礎調査 ……48

2 試掘調査の概要

- (1) 富沢 I 遺跡 ……54
- (2) 後田遺跡 ……56
- (3) 大道下遺跡 ……58
- (4) 畑田遺跡 ……60
- (5) 中野遺跡 ……62
- (6) 松原遺跡 ……64
- (7) 金俣 I 遺跡 ……66
- (8) 金俣K遺跡 ……68
- (9) 山楯 2～8 遺跡 ……70
- (10) 三田遺跡 ……76
- (11) 袋冷遺跡 ……78
- (12) 宮田楯跡 ……80
- (13) 古屋敷遺跡 ……82
- (14) 水原遺跡 ……84

(15)熊手島遺跡	86
(16)西海渚遺跡	88
(17)船見沢遺跡	90
(18)蕨山遺跡	92
(19)横山遺跡	94
(20)押切遺跡	96
(21)古井戸遺跡	98
(22)平野山古窯跡群第12地点遺跡	100
(23)高島城跡	104
(24)堤田遺跡	106
(25)烏川1～5遺跡	108
(26)渋江遺跡	118
3 記録保存調査、立会い調査の概要	
(1)猪野沢横台遺跡	120
(2)玉川D遺跡	124
(3)東田遺跡	128
(4)山辺北条里遺跡	138
(5)野瀬遺跡	142
(6)平根遺跡	146
(7)入道畑遺跡	148
(8)木戸遺跡	150
III まとめ	
1 新規発見遺跡	156
2 抹消遺跡	157
3 統合遺跡	157
4 範囲、位置、名称の訂正を要する遺跡	157
附表一1 調査工程表	2
附表一2 平成2年度分布調査遺跡一覧	3

挿図目次

第1図	県営ほ場整備関係位置図(1).....	6
第2図	県営ほ場整備関係位置図(2).....	7
第3図	県営ほ場整備関係位置図(3).....	8
第4図	農道整備事業等関係遺跡位置図(1).....	14
第5図	農道整備事業等関係遺跡位置図(2).....	15
第6図	農道整備事業等関係遺跡位置図(3).....	16
第7図	国営農地開発事業(烏海南麓地区)関係遺跡位置図(1).....	22
第8図	国営農地開発事業(烏海南麓地区)関係遺跡位置図(2).....	23
第9図	国道改良事業関係遺跡位置図(1).....	26
第10図	国道改良事業関係遺跡位置図(2).....	27
第11図	県道改良事業関係遺跡位置図(1).....	28
第12図	県道改良事業関係遺跡位置図(2).....	29
第13図	県道改良事業関係遺跡位置図(3).....	30
第14図	河川改修、砂防事業関係遺跡.....	32
第15図	新庄地区基礎調査遺跡位置図.....	34
第16図	西川地区基礎調査遺跡位置図.....	35
第17図	上山・山形・天童・東根地区基礎調査遺跡位置図(1).....	38
第18図	上山・山形・天童・東根地区基礎調査遺跡位置図(2).....	39
第19図	上山・山形・天童・東根地区基礎調査遺跡位置図(3).....	40
第20図	上山・山形・天童・東根地区基礎調査遺跡位置図(4).....	41
第21図	上山・山形・天童・東根地区基礎調査遺跡位置図(5).....	42
第22図	上山・山形・天童・東根地区基礎調査遺跡位置図(6).....	43
第23図	小国地区基礎調査遺跡位置図(1).....	50
第24図	小国地区基礎調査遺跡位置図(2).....	51
第25図	富沢I遺跡概要図.....	54
第26図	後田遺跡概要図.....	56
第27図	大道下遺跡概要図.....	58
第28図	畑田遺跡概要図.....	60
第29図	中野遺跡概要図.....	62
第30図	松原遺跡概要図.....	64

第31図	金俣 I 遺跡概要図	66
第32図	金俣 K 遺跡概要図	68
第33図	山楯 2 ～ 8 遺跡概要図	72
第34図	三田遺跡概要図	76
第35図	袋冷遺跡概要図	78
第36図	宮田楯跡概要図	80
第37図	古屋敷遺跡概要図	82
第38図	水原遺跡概要図	84
第39図	熊手島遺跡概要図	86
第40図	西海渕遺跡概要図	88
第41図	船見沢遺跡概要図	90
第42図	蕨山遺跡概要図	92
第43図	横山遺跡概要図	94
第44図	押切遺跡概要図	96
第45図	古井戸遺跡概要図	98
第46図	平野山古窯跡群第12地点遺跡概要図	100
第47図	平野山古窯跡群第12地点遺跡遺構概略図、土層柱状図	101
第48図	高島城跡概要図	104
第49図	堤田遺跡概要図	106
第50図	烏川遺跡群位置図	108
第51図	烏川遺跡群全体図	109
第52図	烏川 1 遺跡概要図	110
第53図	烏川 2 遺跡概要図	112
第54図	烏川 3 遺跡概要図	113
第55図	烏川 4 遺跡概要図	115
第56図	烏川 5 遺跡概要図	116
第57図	渋江遺跡概要図	118
第58図	猪野沢横台遺跡概要図	120
第59図	猪野沢横台遺跡土層柱状図	121
第60図	猪野沢横台遺跡拓影・実測図	123
第61図	玉川 D 遺跡概要図	124
第62図	玉川 D 遺跡検出遺構	125

第63図	東田遺跡概要図(S = 1:5,000)	129
第64図	東田遺跡トレンチ実測図(1)	130
第65図	東田遺跡トレンチ実測図(2)	131
第66図	東田遺跡トレンチ実測図(3)	132
第67図	東田遺跡出土遺物(1)	133
第68図	東田遺跡出土遺物(2)	134
第69図	東田遺跡出土遺物(3)	135
第70図	山辺北条里位置図	138
第71図	山辺北条里概要図	139
第72図	B・Dトレンチ土層断面図	140
第73図	野瀬遺跡概要図	142
第74図	野瀬遺跡遺構概略図	143
第75図	平根遺跡概要図	146
第76図	入道畑遺跡概要図	148
第77図	木戸遺跡概要図	151
第78図	木戸遺跡遺構配置図	153

図版目次

図版 1	県営ほ場整備関係遺跡(1).....	9
図版 2	県営ほ場整備関係遺跡(2).....	10
図版 3	県営ほ場整備関係遺跡(3).....	11
図版 4	農道整備事業等関係遺跡(1).....	17
図版 5	農道整備事業等関係遺跡(2).....	18
図版 6	農道整備事業等関係遺跡(3).....	19
図版 7	国営農地開発事業(烏海南麓地区)関係遺跡(1).....	23
図版 8	国営農地開発事業(烏海南麓地区)関係遺跡(2).....	24
図版 9	国営農地開発事業(烏海南麓地区)関係遺跡(3).....	25
図版10	国道改良事業関係遺跡(1).....	27
図版11	国道改良事業関係遺跡(2).....	28
図版12	国道改良事業関係遺跡(3).....	29
図版13	県道改良事業関係遺跡(1).....	30
図版14	県道改良事業関係遺跡(2).....	31
図版15	河川改修事業関係遺跡.....	32
図版16	砂防事業関係遺跡.....	33
図版17	新庄・西川地区基礎調査.....	34
図版18	西川地区基礎調査.....	35
図版19	上山・山形・天童・東根地区基礎調査(1).....	44
図版20	上山・山形・天童・東根地区基礎調査(2).....	45
図版21	上山・山形・天童・東根地区基礎調査(3).....	46
図版22	上山・山形・天童・東根地区基礎調査(4).....	47
図版23	小国地区基礎調査(1).....	48
図版24	小国地区基礎調査(2).....	49
図版25	小国地区基礎調査(3).....	52
図版26	小国地区基礎調査(4).....	53
図版27	富沢遺跡.....	55
図版28	後田遺跡.....	57
図版29	大道下遺跡.....	59
図版30	畑田遺跡.....	61

図版31	中野遺跡	63
図版32	松原遺跡	65
図版33	金俣 I 遺跡	67
図版34	金俣 K 遺跡	69
図版35	山楯 2 遺跡	70
図版36	山楯 3・4 遺跡	73
図版37	山楯 5・6 遺跡	74
図版38	山楯 7・8 遺跡	75
図版39	三田遺跡	77
図版40	袋冷遺跡	79
図版41	宮田楯跡	81
図版42	古屋敷遺跡	83
図版43	水原遺跡	85
図版44	熊手島遺跡	87
図版45	西海淵遺跡	89
図版46	船見沢遺跡	91
図版47	蕨山遺跡	93
図版48	横山遺跡	95
図版49	押切遺跡	97
図版50	古井戸遺跡	99
図版51	平野山古窯跡群第12地点遺跡(1)	102
図版52	平野山古窯跡群第12地点遺跡(2)	103
図版53	高島城跡遺跡	105
図版54	堤田遺跡	107
図版55	烏川 1 遺跡	111
図版56	烏川 2 遺跡(1)	112
図版57	烏川 2 遺跡(2)	113
図版58	烏川 3 遺跡	114
図版59	烏川 4 遺跡(1)	115
図版60	烏川 4 遺跡(2)	116
図版61	烏川 5 遺跡	117
図版62	渋江遺跡	119

図版63	猪野沢横台遺跡(1)	121
図版64	猪野沢横台遺跡(2)	123
図版65	玉川D遺跡(1)	126
図版66	玉川D遺跡(2)	127
図版67	東田遺跡(1)	136
図版68	東田遺跡(2)	137
図版69	山辺北条里遺跡	141
図版70	野瀬遺跡(1)	144
図版71	野瀬遺跡(2)	145
図版72	平根遺跡	147
図版73	入道畑遺跡	149
図版74	木戸遺跡(1)	152
図版75	木戸遺跡(2)	154
図版76	木戸遺跡(3)	155

I 調査の目的、方法と経過

1 調査の目的、方法

本調査は、平成3年度以降に実施予定となる開発計画等に先行して、埋蔵文化財包蔵地(遺跡)の詳細な分布調査を行い、遺跡の所在、範囲、性格を明らかにし、開発計画との調整をとって、遺跡の保護を図ることを目的とした。なお、一部、前年度、あるいは今年度の調査結果に基づき、記録保存のための小規模な発掘調査と立会い調査も実施した。

調査は、その目的によって、以下の方法で実施した。

(1) A調査(現地確認調査・表面踏査)

開発事業計画範囲内の表面踏査を行い、遺跡の範囲と事業実施計画区域の平面的な関係を確認し、遺跡の保護を図ることを目的とする。

(2) B調査(試掘調査)

坪掘りやトレンチ掘りを行って遺構や遺物の平面的な分布範囲や、遺構確認面までの深さ等を把握して、開発事業計画との調整をとって遺跡の保護を図ることを目的とする。

(3) C調査(記録保存のための発掘調査)

A・B調査の結果、遺跡の保存状況が良好でない場合や、開発事業に係る面積が狭い場合や接する場合に、必要に応じて実施する記録保存の調査。方法は発掘調査に準ずる。

(4)立会い調査

開発事業による遺跡への影響が軽微な場合、工事施工に立会って実施する調査。この調査によって、遺構や遺物が発見された場合には記録保存を行う。

(5)埋蔵文化財包蔵地基礎調査

「山形県遺跡地図」(昭和53年版)に登録された遺跡、及びその後に発見・登録された遺跡の内容の補筆を行い、合わせて、遺跡の有無を確認し、将来の各種開発計画に備えることを目的とする調査。調査方法は表面踏査である。

2 調査の経過

山形県教育委員会では、毎年7～8月に開発関係各機関に、今後の事業計画についての照会を行い、その回答を受けて、9月中旬にヒアリングを実施し、事業計画と埋蔵文化財包蔵地との関係について検討している。そして、この結果に基づいて、必要に応じて分布調査を実施し、事業との調整を図っている。そのほか、開発関係各機関から提出された埋蔵文化財分布調査依頼に基づく調査も随時行っている。今年度の調査は、平成2年4月17日から平成3年1月29日まで表-1の工程で、表-2に示した各遺跡の調査を実施した。なお、今年度新規登録した遺跡、位置、範囲、遺跡名の訂正した遺跡はIII章に示した。

表一 調査工程表

調査区分	平成2年												平成3年 1~3月
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
(1) 平成2年度以降 農林土木事業他	A												
	B												
	C・立合												
(2) 国営農地開発事業 鳥海南麓地区	A												
	B												
(3) 東北横断自動車道 酒田線	B												
	A												
(4) 埋蔵文化財包蔵地 基礎調査													
(5) 報告書作成													

表一 2 平成 2 年度 分布調査遺跡一覧

	事業名	事業地区名	遺跡名	調査区分				
				A	B	C	立会い	
1	県営ほ場整備事業	月光川左岸地区	東田遺跡				○	
	〃	〃	宮田楯遺跡	○	○			
	〃	月光川右岸地区	大坪遺跡				○	
	〃	〃	三田遺跡	○	○			
	〃	〃	袋冷遺跡	○	○			
	〃	月光川下流地区	古屋敷遺跡	○	○			
	〃	〃	水原遺跡	○	○			
	〃	高瀬川地区	小山崎遺跡	○				
	〃	〃	舟森遺跡	○				
	〃	〃	笹淵遺跡	○				
	〃	〃	目倉神遺跡	○				
	〃	〃	杵川遺跡	○				
	〃	〃	苦竹原遺跡	○				
	〃	〃	中田浦遺跡	○			○	
	〃	〃	地蔵田遺跡	○				
	2	一般農道整備事業	玉川地区	小出沢 A 遺跡	○	○		
〃		〃	小出沢 B 遺跡	○				
3		農免農道整備事業	飛島地区	船見沢遺跡	○	○		
		〃	〃	葡萄崎遺跡	○	○		
		〃	〃	蕨山遺跡	○	○		
		〃	野沢 2 期	野沢館跡	○			
		〃	〃	竜沢山遺跡	○			
		〃	羽黒南部地区	大桜遺跡	○			
		〃	〃	一本松 A 遺跡	○			
		〃	舟戸地区	名木沢楯跡	○			
4		広域農道整備事業	山辺・中山地区	山辺北条里跡	○			○
		〃	村山東部地区	山崎 C 遺跡	○	○		
		〃	〃	御阿弥陀寮跡	○	○		
		〃	村山東部 II 期	中地蔵遺跡	○			
5		北村山地区	横山遺跡	○	○			
		〃	荒町遺跡	○			○	
6	県営かんがい排水事業	〃	ソリメ A 遺跡	○			○	
	ため池等整備事業	泉谷地ため池	泉谷地寮跡群		○			
	〃	玉川ため池	玉川 D 遺跡		○	○		
7	〃	大和沼ため池	五百刈遺跡	○				
	県営土地改良総合整備事業	十八才地区	三合田遺跡	○				

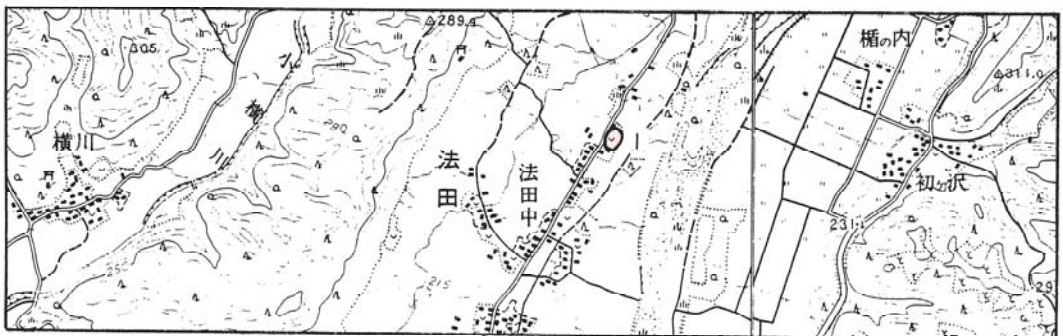
	事業名	事業地区名	遺跡名	調査区分			
				A	B	C	立会い
8	国営農地開発事業(鳥海南麓地区)	金 俣 団 地	金 俣 A 遺 跡	○			
	〃	〃	金 俣 B 遺 跡	○			
	〃	〃	金 俣 D 遺 跡	○			
	〃	〃	金 俣 F 遺 跡	○			
	〃	〃	金 俣 I 遺 跡	○	○		
	〃	〃	金 俣 J 遺 跡	○			
	〃	〃	金 俣 K 遺 跡	○	○		
	〃	〃	懐 の 内 B 遺 跡	○			
	〃	〃	懐 の 内 C 遺 跡	○			
	〃	〃	懐 の 内 E 遺 跡	○			
	〃	下 黒 川 団 地	松 原 遺 跡	○	○		
	〃	〃	館 の 内 遺 跡	○	○		
	〃	泥 沢 団 地	蔵 台 (赤 剝) 遺 跡	○			
	〃	蔵 台 団 地	蔵 台 遺 跡	○			
〃	山 楯 団 地	山 楯 2 ～ 8 遺 跡	○	○			
9	国道 112 号 線 白 岩 道 路		富 沢 I 遺 跡		○		
	国道 287 号 線 道 路 改 良		平 野 山 古 窯 跡 群 第 12 地 点		○		
	〃		東 千 作 遺 跡	○			
	〃		赤 土 場 遺 跡	○			
	国道 345 号 線 道 路 改 良		菅 野 代 A 遺 跡	○			
	〃		温 海 川 経 塚	○			
〃		野 瀬 遺 跡		○		○	
国道 347 号 線 特 改 1 種		深 沢 向 山 遺 跡				○	
国道 399 号 線 特 改 1 種		高 畠 城 跡		○			
10	東北横断自動車道酒田線建設	朝 日 ～ 酒 田 間	後 田 遺 跡		○		
	〃	〃	大 道 下 遺 跡		○		
	〃	〃	畑 田 遺 跡		○		
	〃	〃	中 野 遺 跡		○		
11	一般県道平岡日当線交付金A		平 岡 楯 遺 跡	○			
	一般県道福寿野熊高線凍雪害防止		赤 松 楯 遺 跡	○			
	〃		大 浦 台 遺 跡	○			
	一般県道肘折古口(T)線道路改良		平 根 遺 跡				○
	一般県道田麦野行沢線特改1種		猪 野 沢 横 台 遺 跡			○	
	一般県道田代白岩線特改1種		白 岩 館 跡	○			
	主要地方道山形天童線道路改良		押 切 遺 跡		○		
	〃		古 井 戸 遺 跡		○		
	一般県道金谷置賜(T)線特改1種		金 谷 遺 跡	○			
	一般県道米沢浅川高畠線		大 浦 a 遺 跡	○			
	〃		大 浦 b 遺 跡	○			
	〃		大 浦 c 遺 跡	○			
	一般県道南陽川西線特改1種		植 木 場 一 遺 跡	○			
一般県道下新田土尾線凍雪害防止		入 道 畑 遺 跡				○	
〃		堤 田 遺 跡		○			

II 調査の概要

1 調査遺跡地名表

(1) 県営ほ場整備事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	散布地	新 田	最上郡最上町大字法田字新田	縄文時代	段丘 (229m)	畑地 水田
2	集落跡	飛 鳥	飽海郡平田町大字飛鳥神内	平安時代 鎌倉時代	沖積地 (11.7m)	水田 畑地
3	散布地	小 山 崎	飽海郡遊佐町大字吹浦字柴燈林・ 七曲堰東	縄文時代	山麓 (8m)	杉林 水田
4	散布地	舟 森	飽海郡遊佐町大字直世字舟森・ 五反割	縄文時代 平安時代	平地 (2~3m)	水田
5	散布地	笹 淵	飽海郡遊佐町大字直世字笹淵・山田	縄文時代	山腹 (10m)	宅地 畑地
6	散布地	目 倉 神	飽海郡遊佐町大字直世字目倉神・ 六番割	縄文時代 平安時代	平地 (5m)	水田 畑地
7	散布地	栴 川	飽海郡遊佐町大字直世字付根・ 六番割	平安時代	平地 (8m)	水田
8	散布地	苦 竹 原	飽海郡遊佐町大字当山字苦竹原	平安時代	山麓 (10m)	宅地 畑地
9	散布地	中 田 浦	飽海郡遊佐町大字当山字中田浦	平安時代	平地 (4m)	水田 畑地
10	散布地	地 蔵 田	飽海郡遊佐町大字当山字下地蔵田	平安時代	平地 (5m)	水田 畑地
11	集落跡	宮 ノ 下	飽海郡遊佐町大字北目字宮ノ下	平安時代	平地 (8m)	水田
12	散布地	堂 田	飽海郡遊佐町大字北目字堂田 11・30・31	平安時代	平地 (7m)	水田
13	集落跡	大 坪	飽海郡遊佐町大字野沢字大坪	平安時代	平地 (13m)	水田

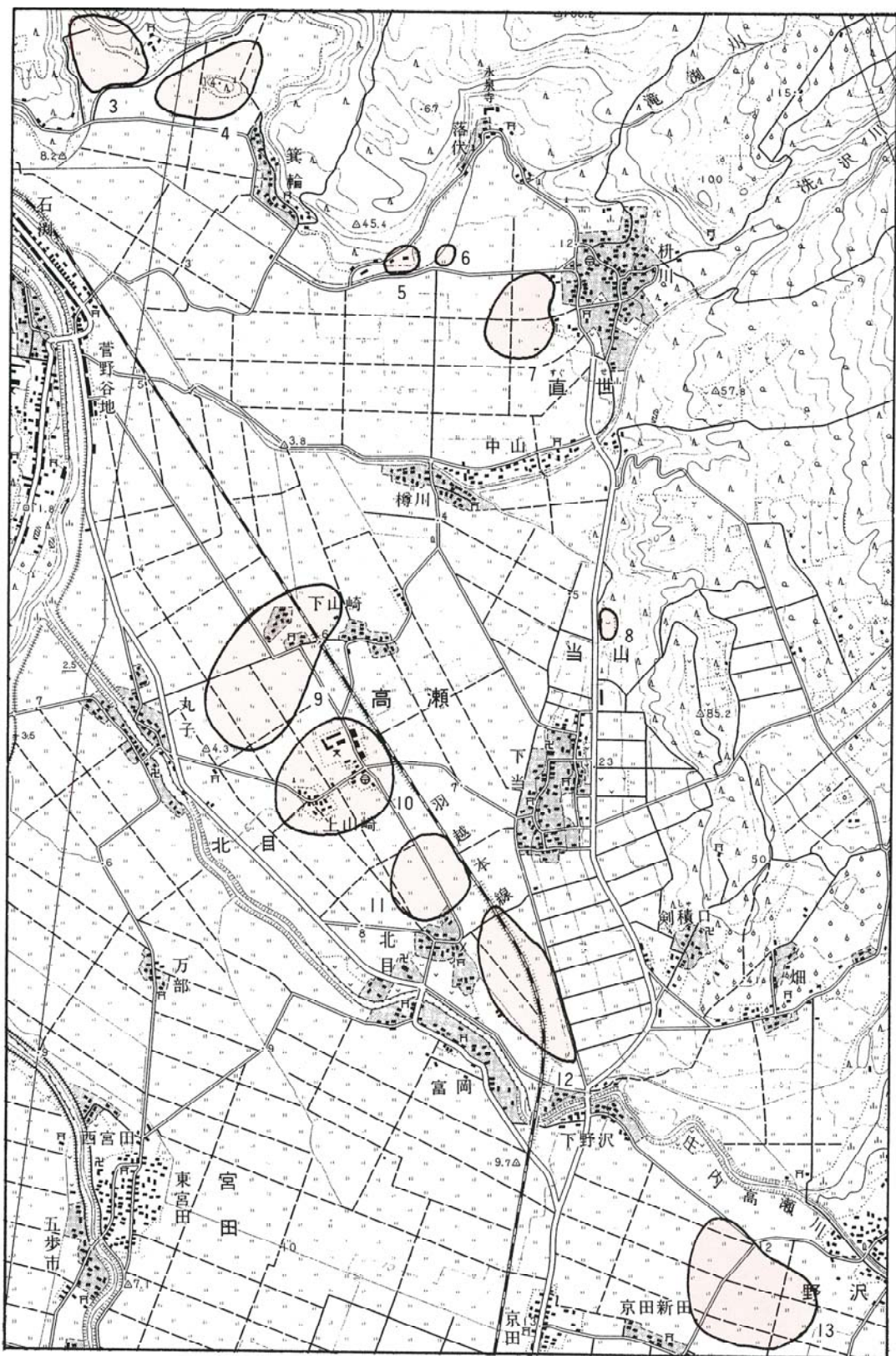


第1図 県営ほ場整備関係位置図(1)

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
白川右岸の段丘上に立地する。後藤勝見氏宅内南側畑地に遺物が散布する。	縄文土器・石鏃・フレイク	No.952
平田町役場の北東部及び町立飛鳥中学校のすぐ北側に位置する。南北にはしる道路を間に、東西2つの範囲に分けられる。	須恵器・赤焼土器・中世陶器	平成元年度登録 平成2年度県教委試掘調査実施。
牛渡川右岸域、鳥海山西麓南側 標高5～10mの張り出し部分に位置するが、西接する谷戸田東西260m・南北250mにも遺物が散布している。	縄文土器・剥片	No.2214 遺跡範囲修正
牛渡川・滝瀨川に挟まれた箕輪集落の北西約100mに位置する。標高14mの小丘陵を中心に東西400m・南北300mに遺物の散布が見られる。	縄文土器・土師器・須恵器 赤焼土器	No.2234 遺跡範囲修正
鳥海山西麓、箕輪橋の所在する丘陵が滝瀨川と南接する標高10mの小張り出し部に位置する。東西130m・南北80mの範囲で、遺物は少ない。	縄文土器	No.2238
滝瀨川と枅川一箕輪を結ぶ道路との交叉点付近に位置し、その範囲は不明である。遺物の散布は極めて少ない。	赤焼土器	No.2239
枅川集落に西接する水田中に位置する。範囲は東西300m・南北350mに広がるものと考えられる。遺物の散布は水路中に多く認められた。	須恵器・赤焼土器	No.2240 遺跡範囲修正
下当集落の北に所在する沢成集落からさらに北約150m、標高10mの低丘陵山腹に位置する。範囲は不明である。かなり削平を受けている。	須恵器	新規(平成2年度)
羽越線西側の下山崎集落周辺の水田中に立地する。遺物は、上山崎・丸子集落付近までかなり広範囲に散布する。	須恵器・赤焼土器	No.2091 遺跡範囲修正。平成2年立会い調査実施。
上山崎集落周辺に位置する。遺物は集落一帯に広範囲に散布する。	須恵器・赤焼土器	No.2092 遺跡範囲修正
北目集落の東側、羽越線の西側に広範囲に遺物が散布する。当初遺跡は羽越線の東側とされていたが、西側にも広がること予想される。	須恵器・赤焼土器	No.2086 遺跡範囲修正
北目集落の北西側水田中に遺物が散布する。さらに周辺にも遺跡が広がる可能性を有するが遺物の散布は希薄である。	須恵器・赤焼土器	No.2085
遊佐駅北東2kmの高瀬川左岸に位置し、自然堤防の微高地上に立地する。これまでの調査により、遺跡範囲東半部の資料が集められた。	内黒土師器・須恵器 赤焼土器	No.2110 県教委平成元年試掘・立会い調査、2年度発掘調査



第2図 県営ほ場整備関係位置図(2)



第3図 県営ほ場整備関係位置図(3)



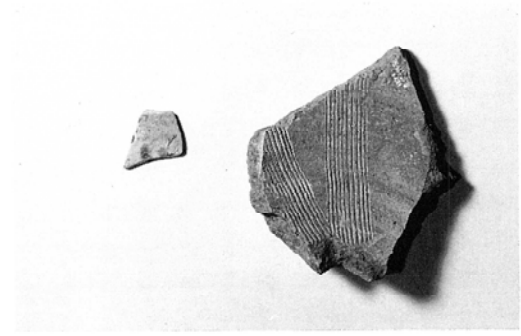
新田遺跡近景（南から）



新田遺跡採集遺物



飛鳥遺跡近景（北西から）



飛鳥遺跡出土遺物



小山崎遺跡採集遺物



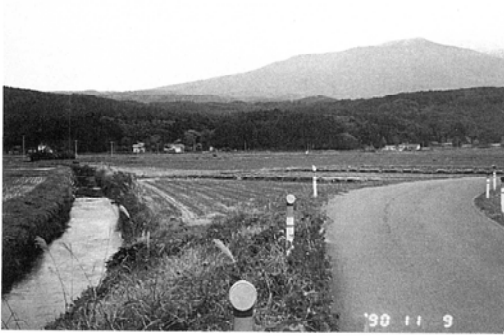
舟森遺跡採集遺物



笹洲遺跡遠景（南から）



笹洲遺跡採集遺物



目倉神遺跡近景（西から）



柘川遺跡遠景（南から）



柘川遺跡採集遺物



苦竹原遺跡遠景（西から）



苦竹原遺跡採集遺物



中田浦遺跡遠景（南から）



中田浦遺跡立会調査状況（南から）



中田浦遺跡採取遺物



地藏田遺跡遠景（南から）



地藏田遺跡採取遺物



宮の下遺跡遠景（北から）



宮の下遺跡採取遺物



堂田遺跡遠景（北から）



堂田遺跡採取遺物



大坪遺跡近景（南西から）

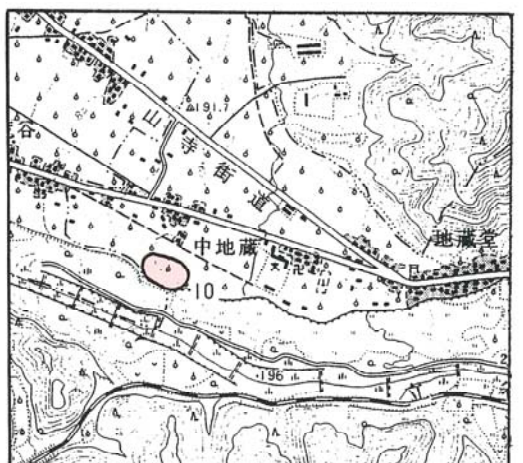
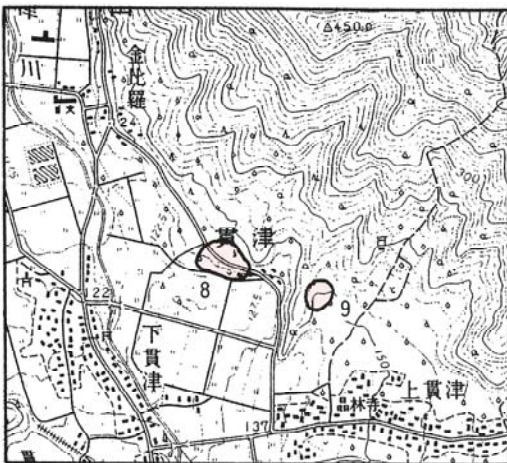
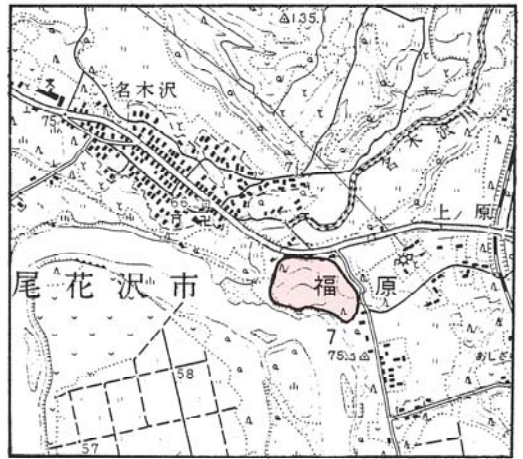
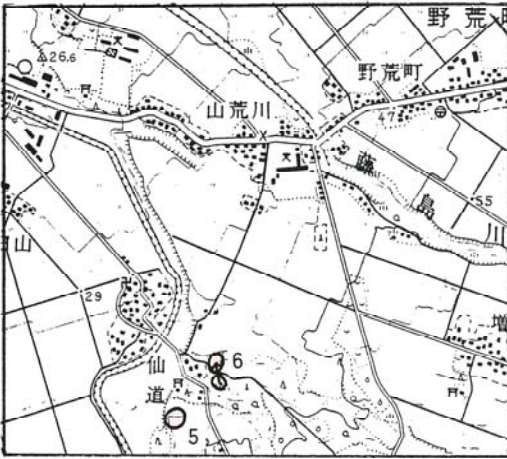
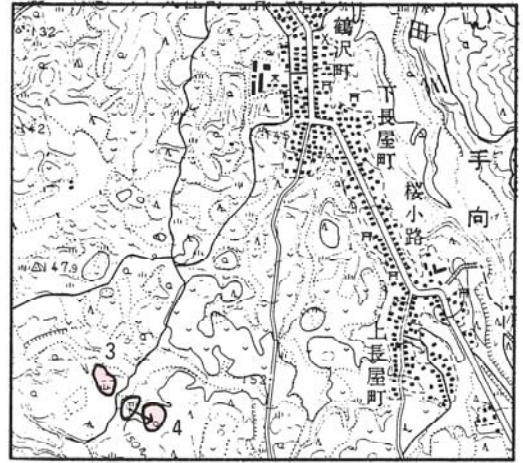
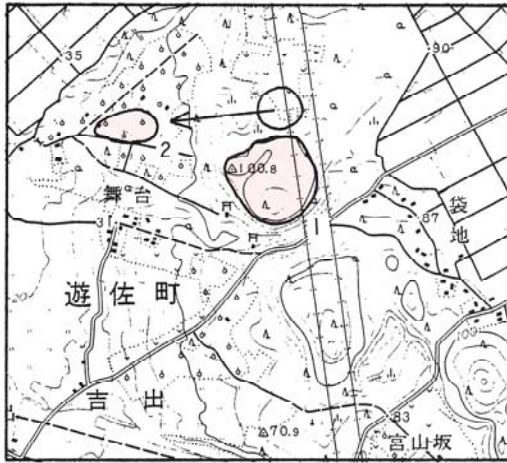


大坪遺跡出土遺物

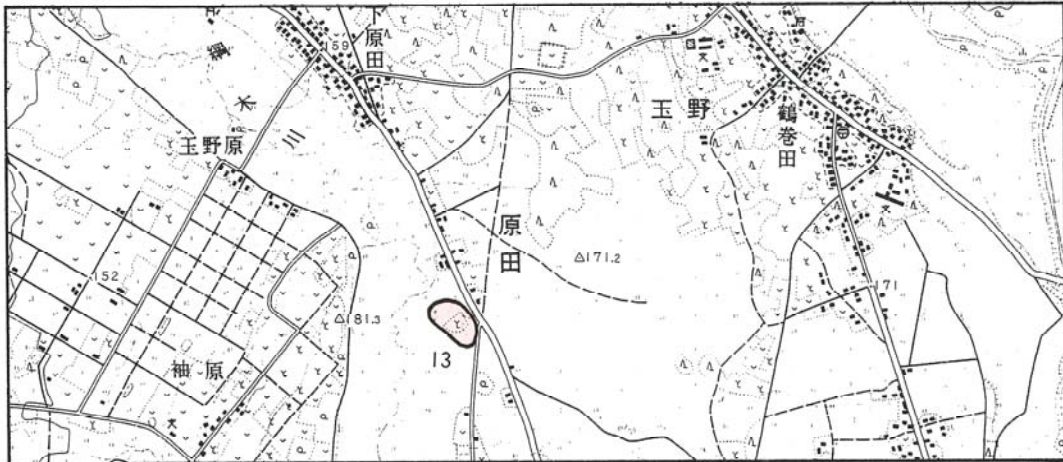
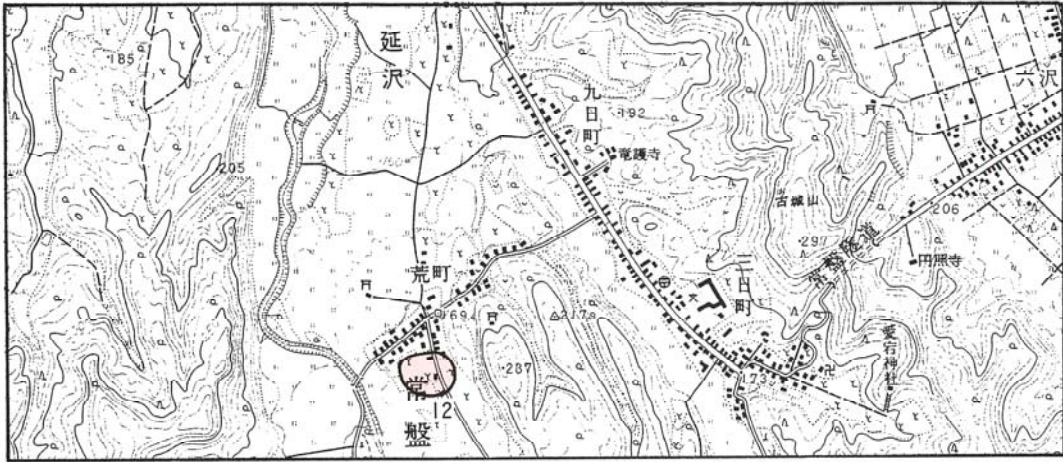
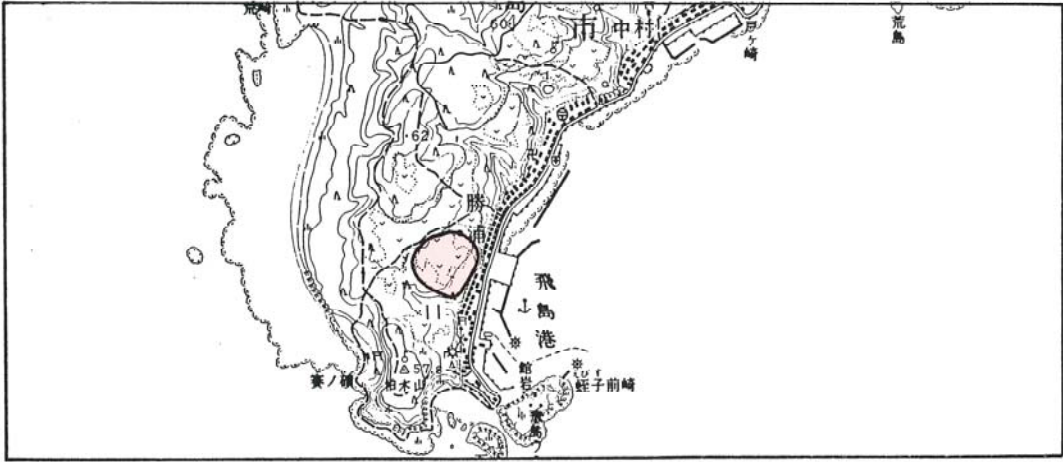
(2) 農道整備事業等関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	城館跡	の野 ざわ だて 野 沢 館	飽海郡遊佐町大字野沢水上55-1	中世	山頂 (100m)	山林 境内
2	散布地	りゅう ざわ やま 竜 沢 山	飽海郡遊佐町大字野沢字水上	縄文時代	山麓 (60m)	畑地 果樹園
3	包蔵地	こ いて きわ A 小 出 沢	東田川郡羽黒町手向字小出沢	縄文時代	台地 (140m)	山林
4	包蔵地	こ いて きわ B 小 出 沢	東田川郡羽黒町手向字小出沢	縄文時代	台地 (150m)	山林
5	散布地	いっ ほん まつ A 一 本 松	東田川郡羽黒町仙道字一本松	縄文時代	段丘 (45m)	水田
6	散布地	おお ざくら 大 桜	東田川郡羽黒町仙道字大櫻	縄文時代	段丘 (40m)	畑地
7	城館跡	な き きわ だて 名 木 沢 橋	尾花沢市名木沢字上ノ原	室町時代	段丘 (75m)	山林
8	集落跡	やま ざき C 山 崎	天童市貫津字山崎	平安時代	山麓 (140m)	畑地
9	窯跡	おん あ み だ か ま あ と 御 阿 弥 陀 窯 跡	天童市貫津字小山下1097 他	平安時代	山麓 (162m)	畑地
10	散布地	なか ち ぞう 中 地 蔵	山形市大字山寺字中地藏	縄文時代 平安時代	段丘 (192m)	畑地 水田
11	集落跡	ぶ とう ざき 葡 萄 崎	酒田市飛鳥字勝浦	縄文時代 (早期・前期・中期)	台地 (45m)	畑地 荒蕪地
12	散布地	あら まち 荒 町	尾花沢市大字延沢字荒町	縄文時代	段丘 (175m)	水田 畑地
13	散布地	ソ リ メ A ソ リ メ	尾花沢市大字原田字ソリメ	縄文時代 (早・前・ 晩期)	段丘 (170m)	水田 畑地
14	窯跡	いずみ や ち 泉 谷 地	酒田市生石字笹山・山林・石沢	平安時代	丘陵 (60m)	ため池 山林
15	散布地	こ びやく がり 五 百 刈	寒河江市中郷字五百刈	縄文時代	山頂 (150m)	果樹園 荒蕪地
16	散布地	きん こう た 三 合 田	西村山郡大江町大字橋上字三合田	縄文時代	山麓 (185m)	畑地 水田

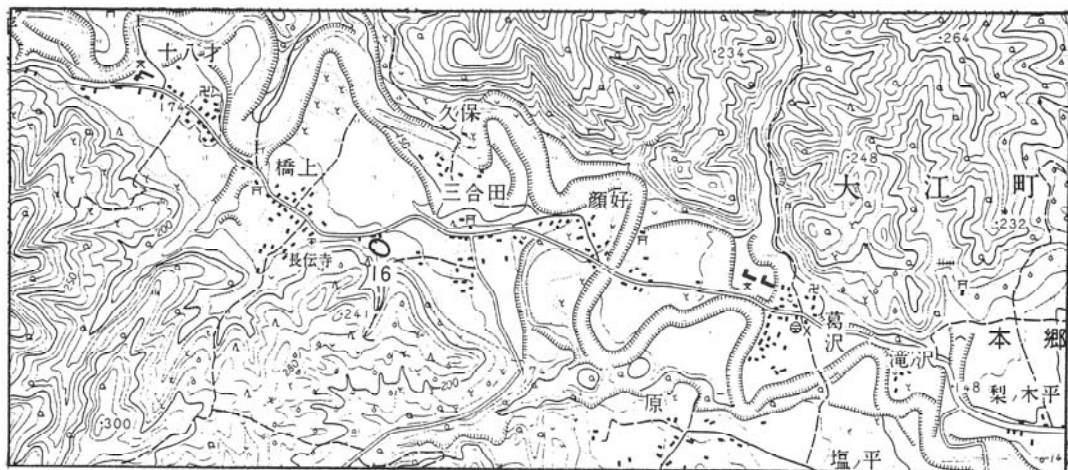
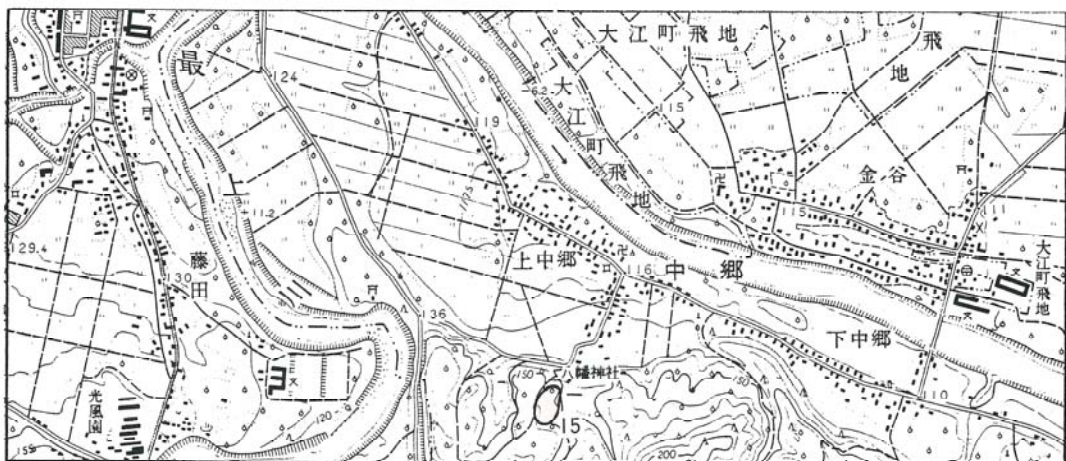
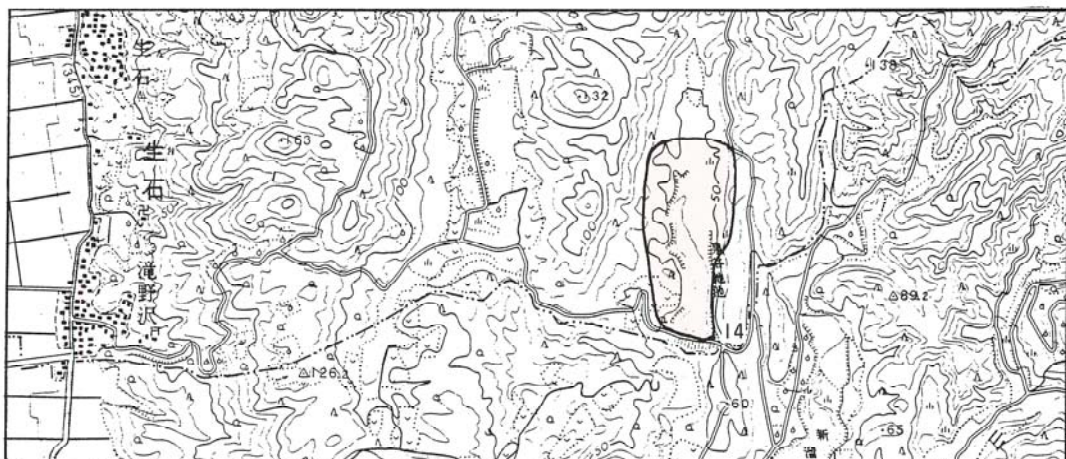
遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
J R羽越本線遊佐駅の北東 約3.3kmの独立丘の山頂に立地する。南面は急峻な自然地形を利用し、北部を土塁・空堀りで限る山城である。	今回は未発見。以前に古瀬戸の水さし、鏡、青鏡が出土している。	No.2116
J R羽越本線遊佐駅の北東約3kmに位置し、野沢館のある丘陵裾の山麓西斜面に立地する。今次調査で遺物の散布を確認できなかった。		No.2117 昭和53年『山形県遺跡地図』位置要訂正
羽黒第一小学校の南西 約1.1kmに位置する。かつて開墾された際に縄文土器・石器等が多数出土したが、植林されて再び山林となっている。	縄文土器	No.1805 遺跡範囲修正
小出沢A遺跡から南北方向の鞍部を隔てた東北200mの台地上に立地する。かつて開墾されたが、現在はカラ松林となっている。	縄文土器	No.1806 昭和53年『山形県遺跡地図』位置要訂正
羽黒第二小学校の南南西約1kmの段丘上に立地する。開田により一部破壊された。今次調査では遺跡の位置確認ができなかった。		No.1846
羽黒第二小学校の南南西約700mに位置し、南東から舌状に張り出す台地の先端部に立地する。畑地内に縄文時代の剥片が若干散布する。	フレイク	No.1845 昭和53年『山形県遺跡地図』位置要訂正
J R奥羽本線芦沢駅の北西800mに位置する。南側は最上川と接し、急峻な自然地形を利用し、南西側を土塁・空堀りで限る山城である。		No.735
津山小学校の東南東に位置し、北東から南西に張り出す山麓斜面上から平地にかけて占拠する。斜面は果樹畑造成により改変が進んでいる。		No.309 平成2年12月3日分布B調査実施
山崎C遺跡に東隣する窯跡と考えられる遺跡である。試掘により須恵器等の遺物若干を検出したが、窯跡かどうかは不明であった。	あかやき土器、須恵器	No.313 平成2年12月4日分布B調査実施
山寺中学校の南西方 約300mの立谷川右岸段丘上に立地する。水田付近にやままとまって遺物の散布が見られる。	縄文土器、石器、土師器(赤焼土器?)	新規(平成2年度)
飛島港の北東 300mの台地上に立地する。東西220m・南北220mの畑地内に石器・縄文土器等が散布している。	縄文土器、石 鏃石匙、石 筈、フレイク	2704 平成2年度県教委試掘調査実施
荒町集落の南側、臈気川右岸の段丘上に立地する。水田部分はすでにほ場整備が終了しており、遺跡が破壊されている可能性が高い。		No.803
下原田集落の南方 約900mに位置する。昭和57年度の分布調査で、西にゆるやかに傾斜する段丘上の畑地より遺物を採取している。	平成3年1月の立会い調査にて凹石・フレイク、縄文時代土器(早・前・晩)、土壇1基検出	昭和57年度登録
平田町山谷新田集落の北方 約1.3kmに位置し、ため池の周堤に沿って16基の窯跡が分布する。今回は窯跡の南東丘陵を試掘したが遺構はない。	試掘地点からは遺物出土せず。ため池内より須恵器坏、蓋、甕片を多数表採。	No.2065
J R左沢線左沢駅の南東 2.2kmに位置し、大和沼西方の山頂部に立地する。地表面が露出するわずかな地点に剥片が散布している。	フレイク	新規(平成2年度)
J R左沢線左沢駅の西方 5.1kmに位置する。山麓の緩斜面にある畑地内に若干の剥片が散布している。水田部分は破壊されている。	フレイク	No.557



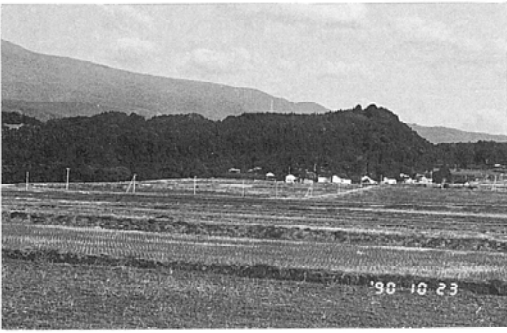
第4図 農道整備事業等関係遺跡位置図(1)



第5図 農道整備事業等関係遺跡位置図(2)



第6図 農道整備事業等関係遺跡位置図(3)



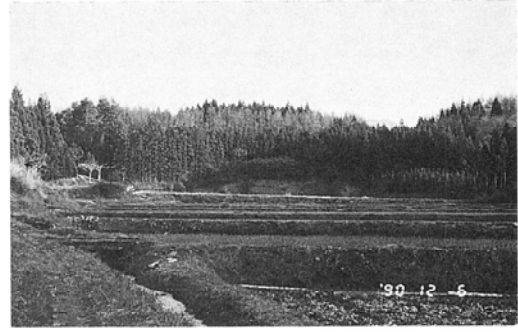
野沢楯跡遠景（南西から）



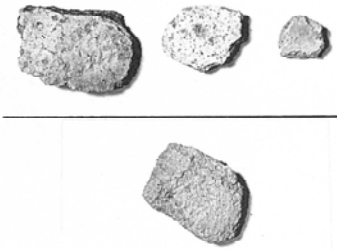
竜沢山遺跡近景（北西から）



小出沢 A 遺跡遠景（北から）



小出沢 B 遺跡遠景（北西から）



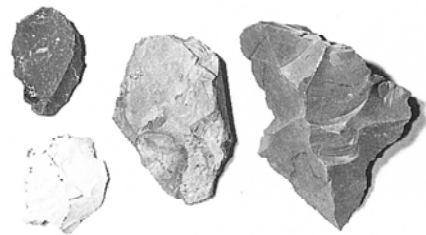
小出沢 A (上段), B (下段) 遺跡採集遺物



一本松 A 遺跡近景（北東から）



大櫻遺跡近景（西から）



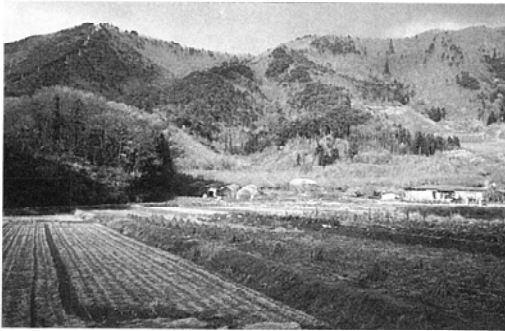
大櫻遺跡採集遺物



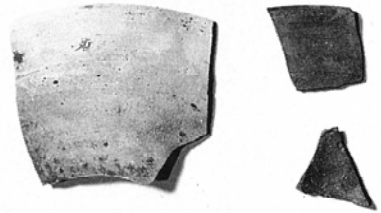
名木次楯跡近景（東から）



山崎C遺跡遠景（南から）



御阿弥陀窯跡遠景（南から）



御阿弥陀窯跡出土遺物



中地藏遺跡近景（南東から）



中地藏遺跡採集遺物



葡萄崎遺跡近景（西から）



葡萄崎遺跡採集遺物



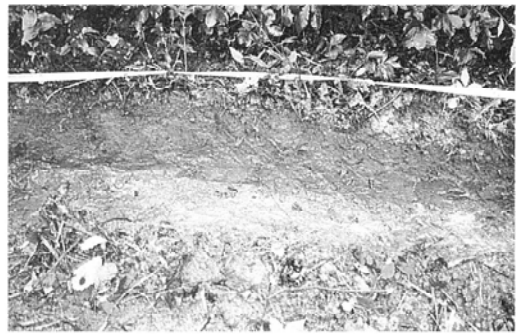
荒町遺跡遠景（南から）



ソリメA遺跡近景（北東から）



泉谷地窯跡遠景（東から）



泉谷地窯跡試掘状況



五百刈遺跡近景（南西から）



五百刈遺跡採集遺物



三合田遺跡遠景（北から）



三合田遺跡採集遺物

(3) 国営農地開発事業(鳥海南麓地区)関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	散布地	かな金 また 侯 A	鮑海郡遊佐町大字吉出字金侯	旧石器時代	山麓 (170m)	山林
2	集落跡	かな金 また 侯 B	鮑海郡遊佐町大字吉出字金侯185 他	縄文時代 (早期・中期)	台地 (160m)	畑地
3	散布地	かな金 また 侯 D	鮑海郡遊佐町大字吉出字金侯	縄文時代 平安時代	台地 (160m)	畑地
4	散布地	かな金 また 侯 F	鮑海郡遊佐町大字吉出字金侯179-5他	旧石器時代 平安時代	山麓 (167m)	原野 山林
5	散布地	かな金 また 侯 J	鮑海郡遊佐町大字吉出字金侯	縄文時代	山麓 (170m)	畑地 原野
6	散布地	かところ 懐 の うち B	鮑海郡遊佐町大字吉出字懐の内	縄文時代	山麓 (167m)	畑地
7	散布地	かところ 懐 の うち C	鮑海郡遊佐町大字吉出字懐の内	縄文時代	山麓 (175m)	畑地
8	散布地	かところ 懐 の うち E	鮑海郡遊佐町大字吉出字懐の内	縄文時代 (早期)	山麓 (180m)	畑地
9	城館跡	たて 館 の うち	鮑海郡八幡町下黒川字松ヶ峰 8-6	中世	台地 (180m)	畑地 山林
10	散布地	わらび だい 台 (赤剝)	鮑海郡八幡町赤剝字前山	縄文時代	山腹 (270m)	荒蕪地
11	包蔵地	わらび だい 台	鮑海郡八幡町下青沢字蕨台1-38 他	縄文時代 (後期)	山地 (177m)	山林

(注)

国営農地開発事業(鳥海南麓地区)は、酒田市、遊佐町、八幡町、平田町の1市4町にまたがる畑地造成事業である。合わせて18団地で合計614haの造成と、それらを結ぶ幹線道路、用水路工等が計画されている。

県教育委員会では昭和60年度の計画策定段階から関連する周知の遺跡の現地確認調査を行い、一部新規遺跡の発見・登録等も行ってきた(『分布調査報告書(13)~(15)』)。

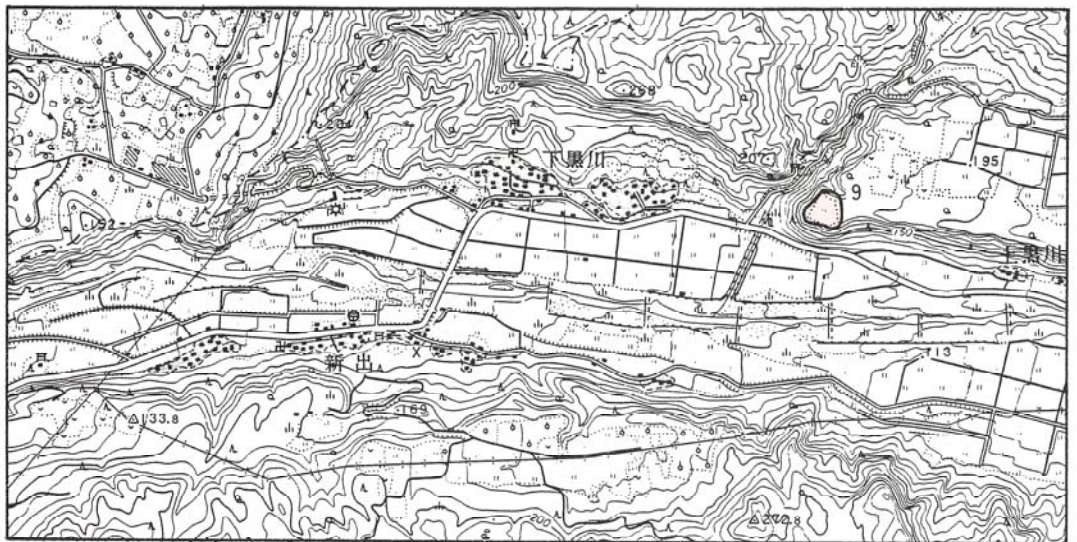
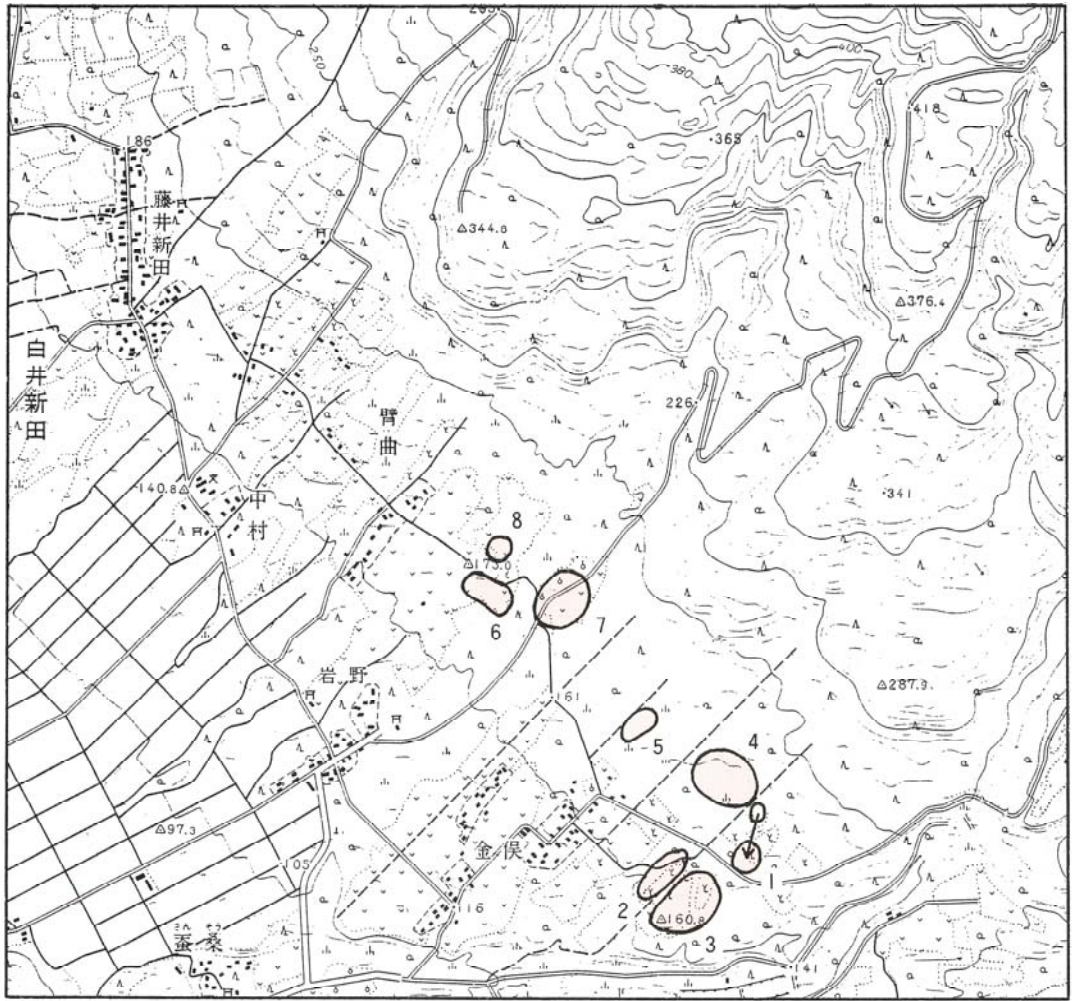
平成元年10月に八幡町に農林水産省東北農政局鳥海南麓開拓建設事業所が開設され、平成2年度から10年計画の事業が実施されることとなった。県教育委員会では平成元年度において、平成2~3年度事業にかかわる遺跡詳細分布調査を実施して事業計画との調整を図るとともに、長期的な視野に立った分布調査計画について関係機関と協議を行い、予算化を図った。この協議の中で、以下の3段階の調査を実施する必要があることで合意した。

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
金俣集落の東方 700mに位置し、山麓の緩斜面に立地する。開墾時にナイフ形石器、石刃撞器が採集された。現在は山林となっている。		No.2144
金俣集落の南東 350mに位置する。起伏のある畑地に縄文土器、剥片が散布する。昭和41年に酒田中央高校の発掘で住居跡が検出された。	縄文土器、フレイク	No.2145 昭和53年『山形県遺跡地図』位置要訂正。
金俣B遺跡の南東に隣接し、玉龍寺跡の北側の起伏のある畑地に多量の須恵器、土師器、赤焼土器が散布している。	須恵器、土師器、赤焼土器	No.2147 遺跡範囲修正。
金俣集落の東北東500mの山麓部に立地する。採石地のカッティング面において土師器片を採集した。一部破壊された。	土師器	No.2149
金俣集落の北東 500mの山麓部に立地する。畑地に若干の石器、剥片が散布する。ウドの栽培で一部地山まで攪乱を受けている。	石鏃、フレイク	新規(平成2年度)
金俣集落の北方 800mに位置する。起伏のある畑地に縄文土器、剥片が若干散布する。	縄文土器、フレイク	昭和61年度登録遺跡範囲修正。
懐の内B遺跡の南東 200mに位置する。今次調査では林道一ノ滝・遊佐線の南側の畑地で縄文土器の散布が確認された。	縄文土器	昭和61年度登録遺跡範囲修正。
懐の内B遺跡の北方 約100mに位置する。東西80m・南北180mの畑地内に縄文土器片が多数散布している。	縄文土器	新規(平成2年度)
下黒川集落の東方 600mに位置し、沖積面との比高80mの台地先端に立地する。北・西・南とも急峻な崖に限られ、東に土塁・空堀がある。		No.2250 平成2年度県教委土塁・空堀を試掘。
林道赤剥線と林道大蔵赤剥線の交差点のすぐ南に隣接する。現在は畑地が放置された荒蕪地となり、今次調査では位置確認ができなかった。		No.2253
六助集落の南方 600mに位置する。山中のやや平坦地に立地する。山林のため遺物の散布状況の把握はできず、遺跡の範囲は不明確である。		新規(平成2年度)

- ① 平成2年度の前半に、現在計画中の全団地の表面踏査を実施し、埋蔵文化財包蔵地の有無、また、その可能性の有無を判断し、試掘調査の必要な地域を抽出する。
- ② ①の結果を踏まえて、平成2年度の後半以降に順次試掘調査を実施し、遺構や遺物の分布範囲や包蔵状態を把握して、遺跡保存のための協議資料を得る。
- ③ 道路、水路等の線的な施設については事業計画の進捗状況に合わせて①、②を実施する。

この計画に基づき、平成2年4月23日から平成2年6月14日までの間に延べ28日間にわたって①の調査を実施し、埋蔵文化財包蔵地、または、その可能性がある地域として15団地で53ヶ所、面積 約1,727,200㎡の要試掘調査地域を抽出した。

この結果を踏まえ、11月に遊佐町金俣飛団地、八幡町下黒川団地、平田町山楯団地内の試掘調査を実施した。なお、この結果については本章の2に記した。



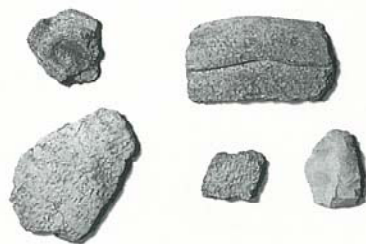
第7図 国営農地開発事業（鳥海南麓地区）関係遺跡位置図（1）



第8図 国営農地開発事業（烏海南麓地区）関係遺跡位置図（2）



金俣B遺跡近景（東から）

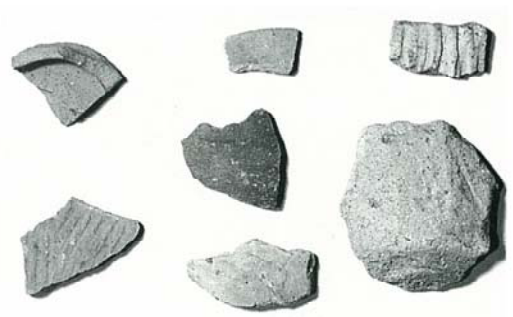


金俣B遺跡採集遺物

図版7 国営農地開発事業（烏海南麓地区）関係遺跡（1）



金俣 D 遺跡近景 (東から)



金俣 D 遺跡採集遺物



金俣 F 遺跡近景 (北東から)



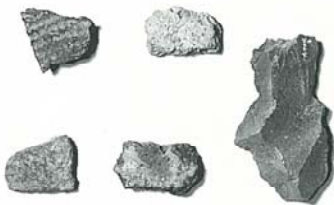
金俣 F 遺跡採集遺物



金俣丁 遺跡近景 (南東から)



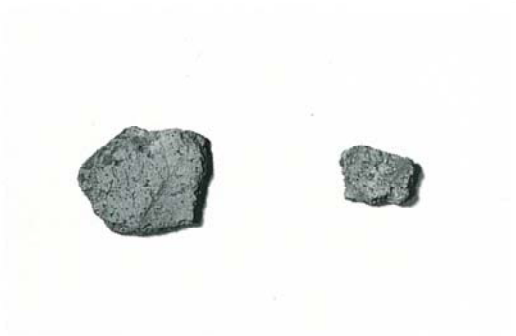
金俣丁 遺跡採集遺物



懐の内 B 遺跡採集遺物



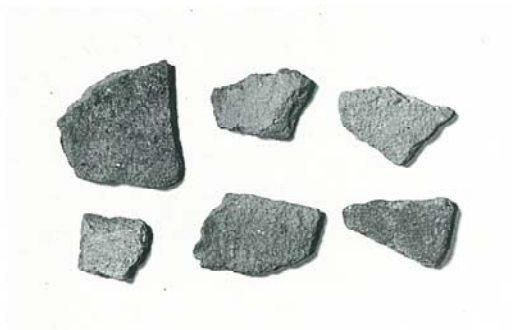
懐の内 C 遺跡近景 (南西から)



懐の内C遺跡採集遺物



懐の内E遺跡近景（南西から）



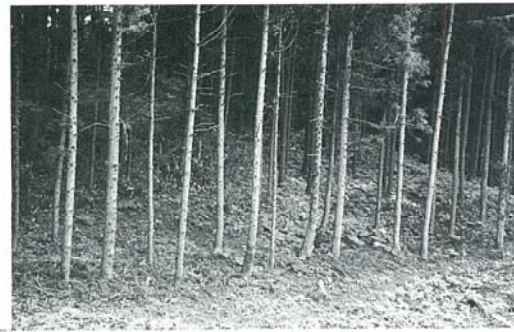
懐の内E遺跡採集遺物



館の内遺跡空堀・土塁（南から）



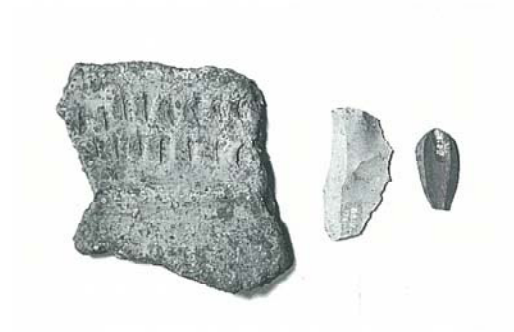
館の内空堀試掘状況（東から）



蕨台遺跡近景（西から）



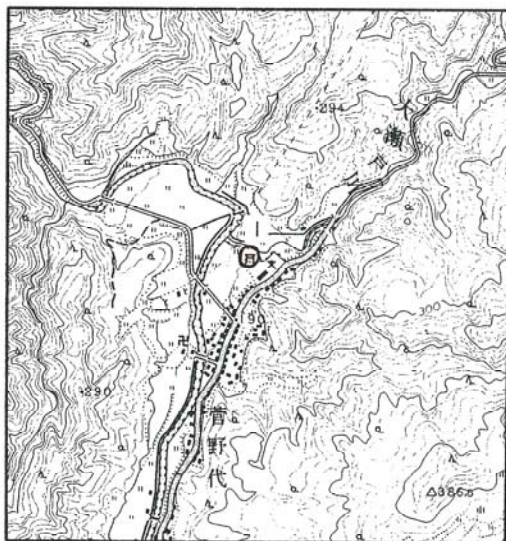
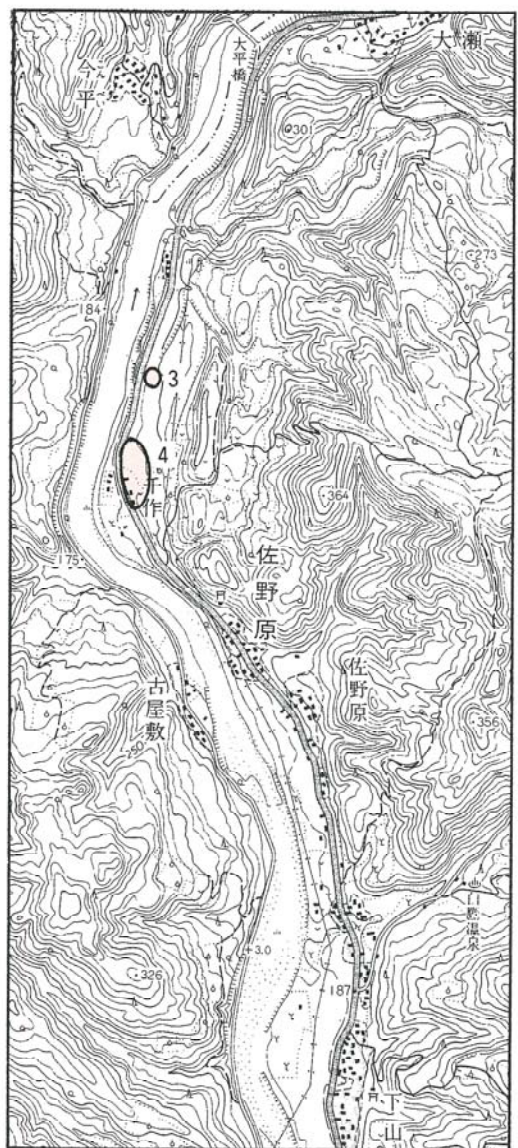
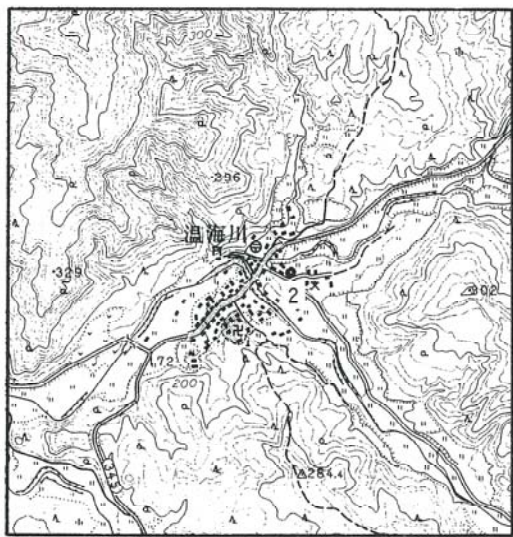
蕨台遺跡土層断面



蕨台遺跡出土遺物

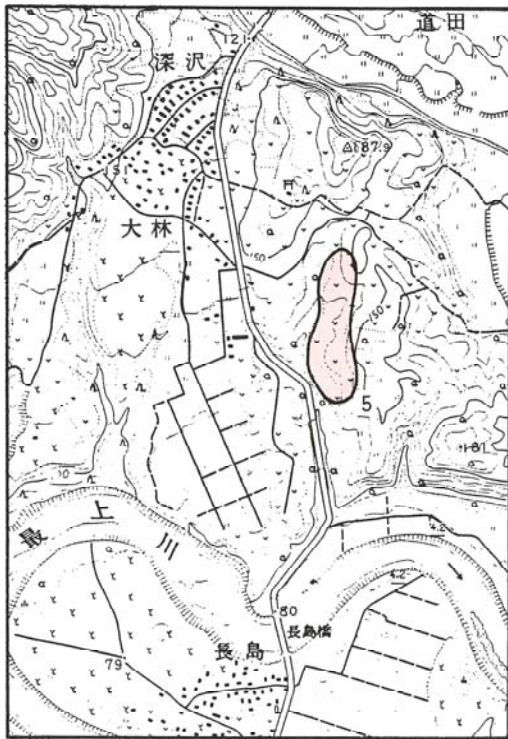
(4) 国道改良事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	散布地	すがの ない A 菅野代 A	西田川郡温海町大字菅野代 字宮の下 5	縄文時代	台地 (190m)	畑地
2	経塚	あつみ がわ 温海川経塚	西田川郡温海町大字温海川字荒谷91	江戸時代	水田 (179m)	水田
3	散布地	ひがし せん なく 東千作	西置賜郡白鷹町大字佐野原字東千作	縄文時代	段丘	畑地 地 宅
4	散布地	あか と ぼ 赤土場	西置賜郡白鷹町大字佐野原字赤土場	縄文時代	段丘	畑地
5	散布地	ふか ざ つかい やま 深沢向山	村山市大字富並字向山4528-7-12	縄文時代 (中期)	台地 (140m)	畑地

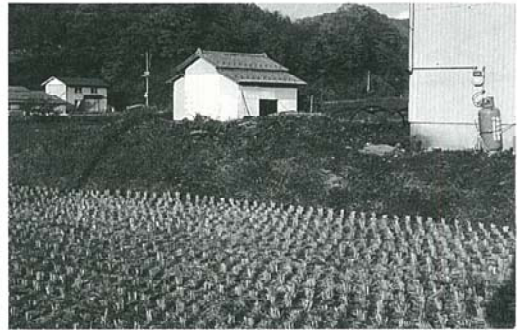


第9図 国道改良事業関係遺跡位置図(1)

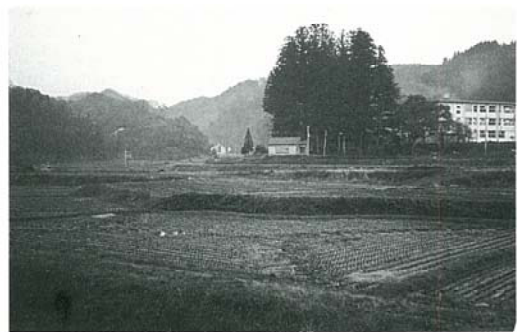
遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
菅野代川に注ぐ大瀬戸川左岸、菅野代小中学校西側の舌状張り出し部の畑地に遺物を散布する。	縄文土器、フレイク	No.1973
国道345号 東側、北俣川と中野俣川の間で、保育園の北側に位置する。		No.1979
最上川右岸段丘上、国道 287号東側に立地する。遺跡北側のホップ畑及びその南側宅地付近の畑地に遺物の散布が見られる。	縄文時代、フレイク	新規(平成2年度)
東千作遺跡の北方 約180mに位置する。ホップ畑にて縄文時代フレイク1点を採集した。	縄文時代、フレイク	新規(平成2年度)
長島橋北北東約1kmに位置し、国道 347号線東側の台地上に立地する。国道沿いの緩斜面上にも遺物が散布する。	縄文土器、フレイク	No.612 平成2年度県教委立 会い調査実施



第10図 国道改良事業関係遺跡位置図(2)



遺跡近景 (東から)



遺跡近景 (南から)



菅野代A遺跡採集遺物

図版10 国道改良事業関係遺跡(1)



深沢向山遺跡調査状況 (南から)



東千作遺跡近景（北から）

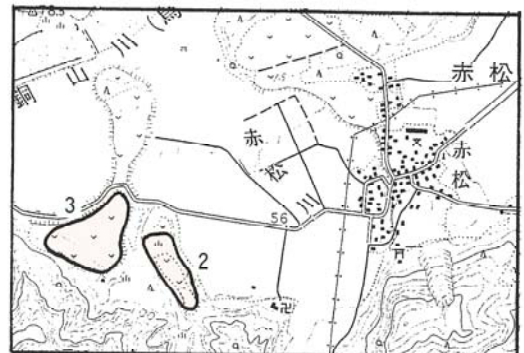
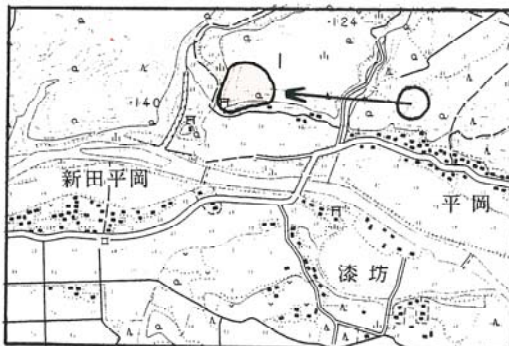


東千作遺跡採集遺物

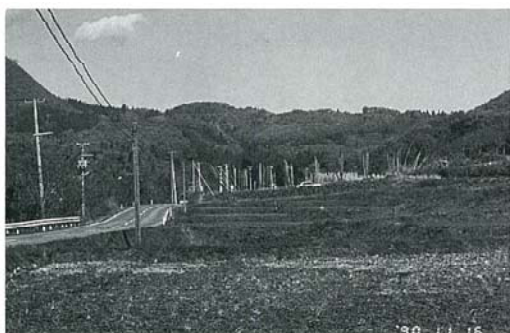
図版11 国道改良事業関係遺跡(2)

(5) 県道改良事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	城館跡	ひら おか なて 平 岡 楯	最上郡真室川町大字平岡	中世	山陵 (100m)	山林
2	城館跡	あか まつ なて 赤 松 楯	最上郡大蔵村大字赤松字中島	中世	段丘 (79m)	山林
3	散布地	おお うら だい 大 浦 台	最上郡大蔵村大字赤松字大浦台	縄文時代	段丘 (75m)	畑地
4	城館跡	しろ いわ なて 白 岩 館	寒河江市白岩字楯	中・近世	丘陵 (150～ 200m)	畑地 地 宅 山 林
5	散布地	うき き ぼ いち 植 木 場 一	南陽市大字宮崎字地藏堂、 町屋敷1・2 植木場一	奈良時代 平安時代	平地 (211m)	畑地 地 宅
6	集落跡	かね 金	米沢市万世町字金谷	縄文時代	平地 (258m)	畑地 水 田 宅
7	集落跡 官衙跡	おお うら a 大 浦	米沢市中田町字芦付二284 他	縄文時代 奈良時代	平地 (235m)	畑地 宅
8	官衙跡 城館跡	おお うら b 大 浦	米沢市中田町字芦付二290 他	奈良時代 中世	平地 (235m)	畑地 水 田 宅
9	官衙跡 城館跡	おお うら c 大 浦	米沢市中田町字大浦二510 他	奈良時代 中世	平地 (235m)	水 田 宅 地



第11図 県道改良事業関係遺跡位置図(1)



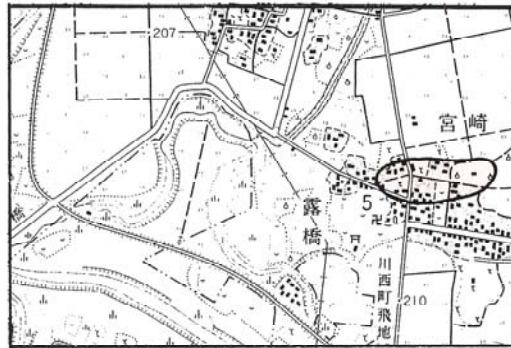
赤土場遺跡遠景（南から）



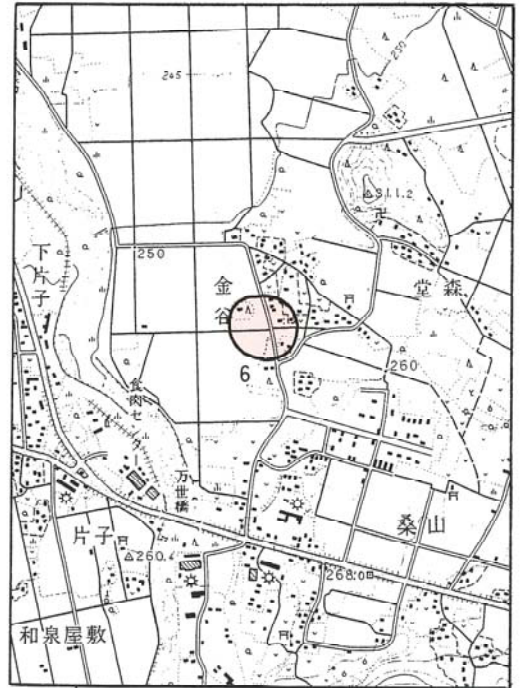
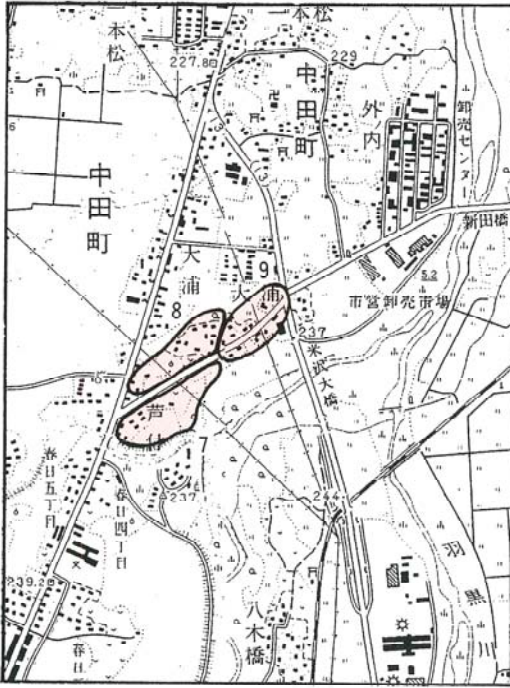
赤土場遺跡採集遺物

図版12 国道改良事業関係遺跡(3)

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
南側を金山川、西側を西沢川が流れ、その合流点北東側の台地先端部に位置する。台地を南北に横断する空濠跡・土塁を残す。		No.1000 昭和53年『山形県遺跡地図』位置要訂正
赤松川左岸にのびる段丘張り出し部に位置する。台地を東西に横断する空濠跡及び土塁を想定する高まりを残す。平場は削平されている。		No.1037 範囲修正
赤松川左岸にのびる段丘上に位置する。水田を間に赤松樋の西側に隣接する。台地を東西に横断する県道北側は、削平を受け破壊。		No.1038 範囲修正
白岩集落の北方台地上に立地する。寒河江川と実沢川の合流地の要害の地形を利用した平台城で腰郭、空堀、土塁等が認められる。		日本城郭大系3(新人物往来社 1981年)所収
宮崎地区北側を東西に通る道路南側の畑地及び八幡神社の北東側の畑地に遺物を散布する。	土師器、須恵器、赤焼土器	新規(平成2年度)
桑山住宅団地西側、南北にのびる農道沿いに位置する。		「米沢市遺跡地図」掲載(昭和61年)
中田町の県道米沢・浅川・高畠線の南側に位置する。平成2年度米沢市教委発掘調査実施。		「米沢市遺跡地図」掲載(昭和61年)
中田町の県道米沢・浅川・高畠線の北側に位置する。平成2年度米沢市教委発掘調査実施。		「米沢市遺跡地図」掲載(昭和61年)
中田町の県道米沢・浅川・高畠線の両側及び国道13号線の西側一帯に位置する。平成2年度米沢市教委発掘調査実施。		「米沢市遺跡地図」掲載(昭和61年)



第12図 県道改良事業関係遺跡位置図(2)



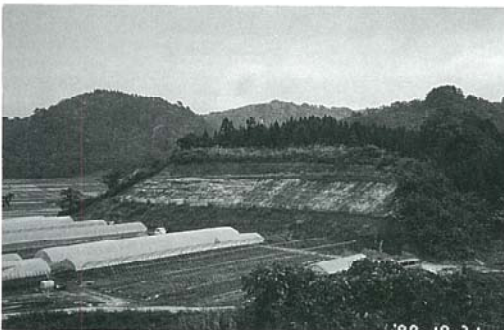
第13図 県道改良事業関係遺跡位置図(3)



平岡橋跡遠景(南から)



平岡橋跡空濠跡(南から)



赤松橋跡近景(北西から)



大浦台遺跡遠景(西から)

図版13 県道改良事業関係遺跡(1)



白岩館主郭部遠景（北西から）



白岩館土塁（南東から）



白岩館跡濠の石垣（南東から）



植木場一遺跡近景（北から）



植木場一遺跡採取遺物



大浦 a・b 遺跡近景（西から）



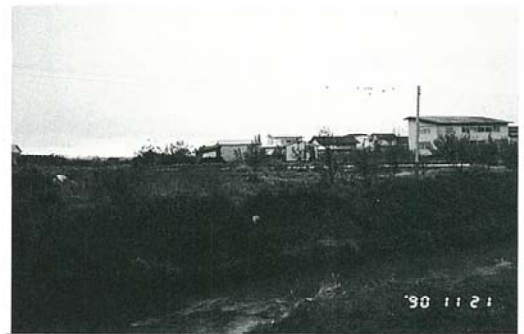
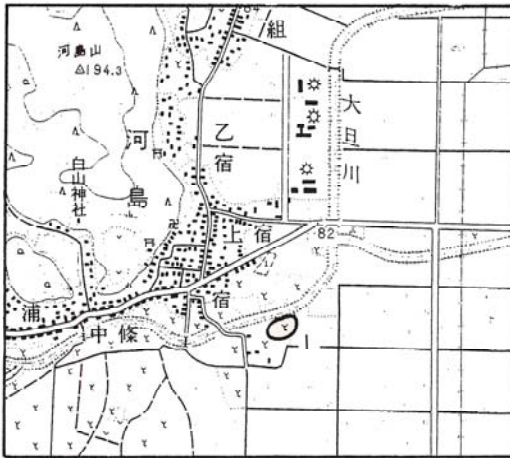
大浦 C 遺跡発掘調査現場（南西から）



金谷遺跡遠景（北から）

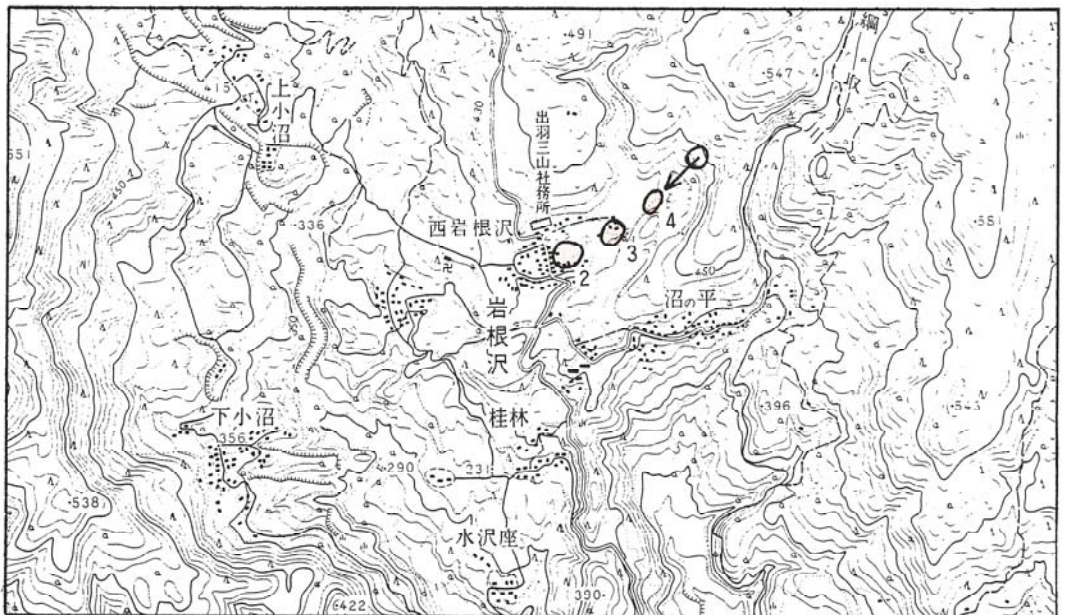
(6) 河川改修、砂防事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	散布地	八反稲干原	村山市大字河島元塩川字八反稲干原	縄文時代 平安時代	平地 (80m)	畑地
2	散布地	たから宝 だ田	西村山郡西川町大字岩根沢字上の平	縄文時代	台地 (410m)	畑地 水田 宅地
3	散布地	やくしもり 薬師森	西村山郡西川町大字岩根沢字上の平	縄文時代 (中期)	台地 (412m)	畑地 水田 内
4	散布地	りゅうじん 龍神沼	西村山郡西川町大字岩根沢字上の平	縄文時代	台地 (420m)	畑地



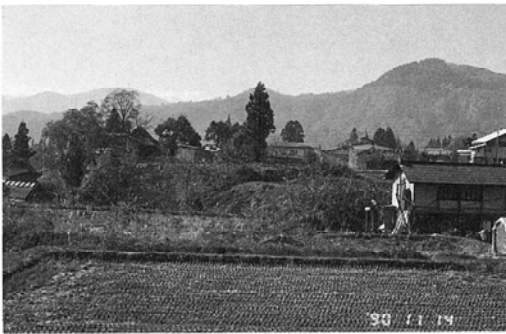
八反稲干原遺跡近景 (北から)

図版15 河川改修事業関係遺跡

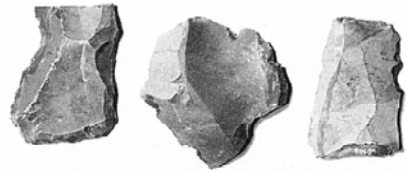


第14図 河川改修、砂防事業関係遺跡

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
大旦川左岸、河島橋の東方150mに位置する。今回、遺跡西端に試掘坑2箇所を設け、掘り下げたが、遺構・遺物は検出されなかった。	縄文時代、フレイク、須恵器土師器	平成元年度登録 平成2年度「シク遺跡」より訂正した。
出羽三山社務所の南東約150mに位置する。宅地周辺の畑地に剥片が多数散布している。範囲は東西120m、南北120mと推定される。	フレイク	No.511
出羽三山社務所の東方 約300mに位置する。境内とその周辺の畑地に剥片、縄文土器片が多数散布する。範囲は東西100m、80m。	縄文土器、フレイク	No.512
出羽三山社務所の北東 約400mに位置する。龍神沼の南西の畑地に石器、剥片が多数散布する。範囲は東西45m、南北70mと推定される。	石匙、石筥、フレイク	No.513 昭和53年『山形県遺跡地図』位置要訂正



宝田遺跡近景（北から）



宝田遺跡採集遺物



葉師森遺跡近景（南から）



葉師森遺跡採集遺物



龍神沼遺跡遠景（南西から）



龍神沼遺跡採集遺物

(7) 新庄地区基礎調査

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	散布地	おほやち地 大谷地	新庄市大字角沢字大谷地	縄文時代 平安時代	段丘 (100m)	畑地

(8) 西川地区基礎調査

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	散布地	サツテロ 2	西村山郡西川町大字間沢字サツテロ	縄文時代	段丘 (243m)	畑地
2	散布地	さん山 居	西村山郡西川町大字水沢字山居	縄文時代	段丘 (248m)	畑地



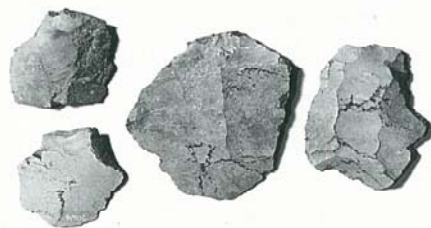
第15図 新庄地区基礎調査遺跡位置図



大谷地遺跡近景 (南から)



サツテロ遺跡近景 (南東から)



サツテロ遺跡出土遺物

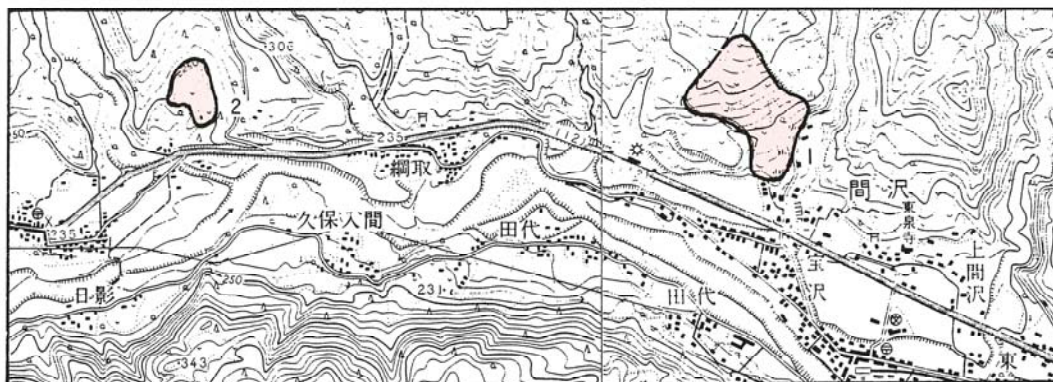
図版17 新庄・西川地区基礎調査

(9) 上山・山形・天童・東根地区基礎調査

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	包蔵地	みや 宮	上市市大字宮脇字神明前839	縄文時代	丘陵 (195m)	畑地 果樹地 宅地
2	散布地	かみ 金	上市市大字金谷	平安時代	自然堤防 (193m)	畑地 水田 果樹地

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
大谷地川右岸の段丘上に立地する。大谷地公民館南西側畑地の南端にて剥片1点を採取した。	縄文時代、フレイク	昭和56年度登録

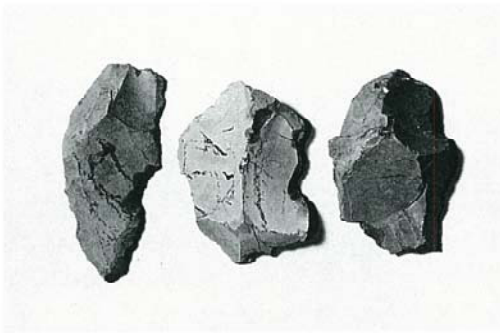
遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
宝沢川右岸の段丘面、西川町民スキー場南東の台地上を中心に立地する。東西 100m・南北 190mの範囲で、遺物は台地縁辺部に多い。	フレイク、石核	新規(平成2年度)
水沢川左岸、比高40mの茅畑を中心とした台地上に立地する。範囲は東西90m・南北160mと推定され、台地一帯に多量の遺物が散布する。	フレイク、石核	No.498



第16図 西川地区基礎調査遺跡位置図



山居遺跡近景 (北東から)



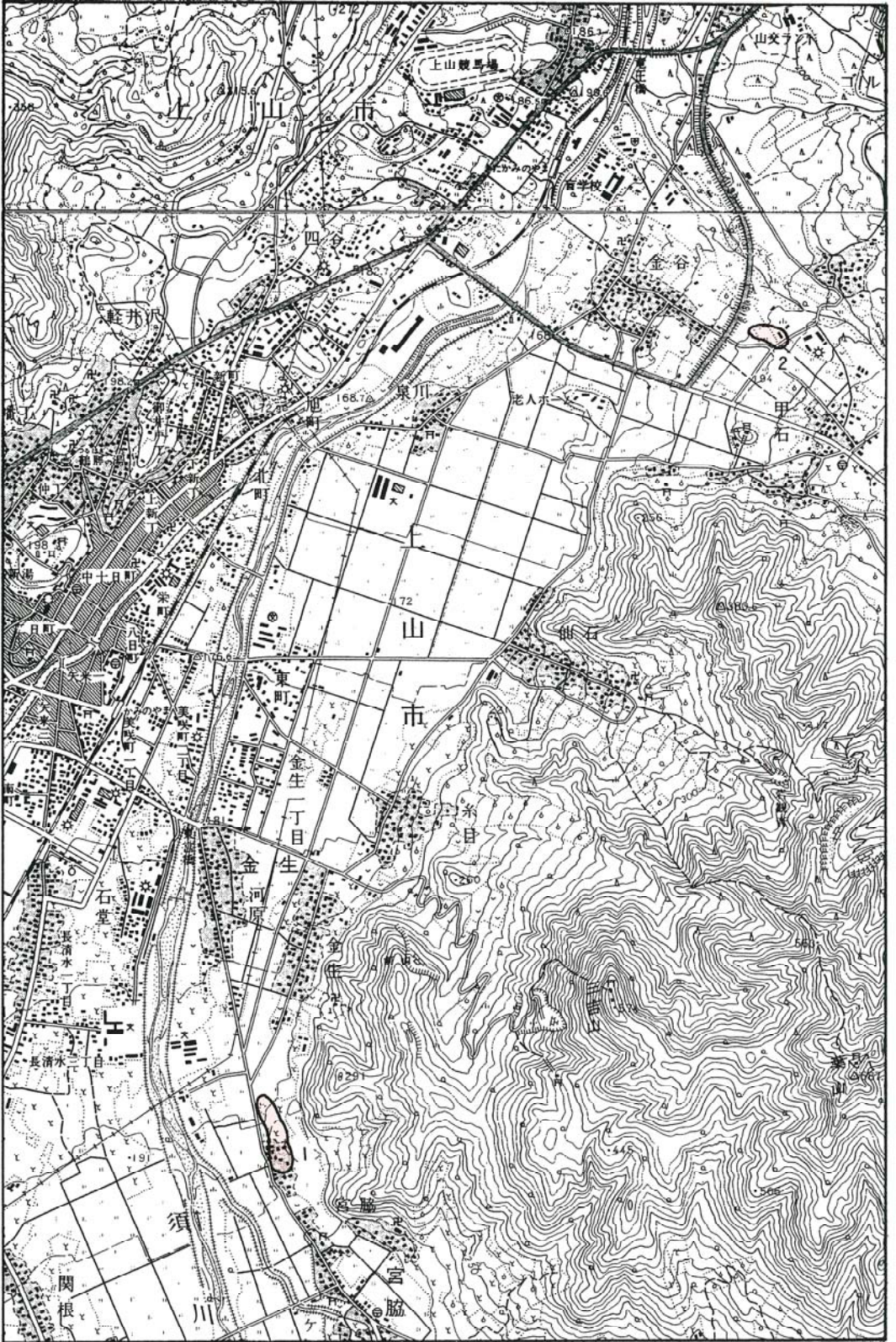
山居遺跡出土遺物

図版18 西川地区基礎調査

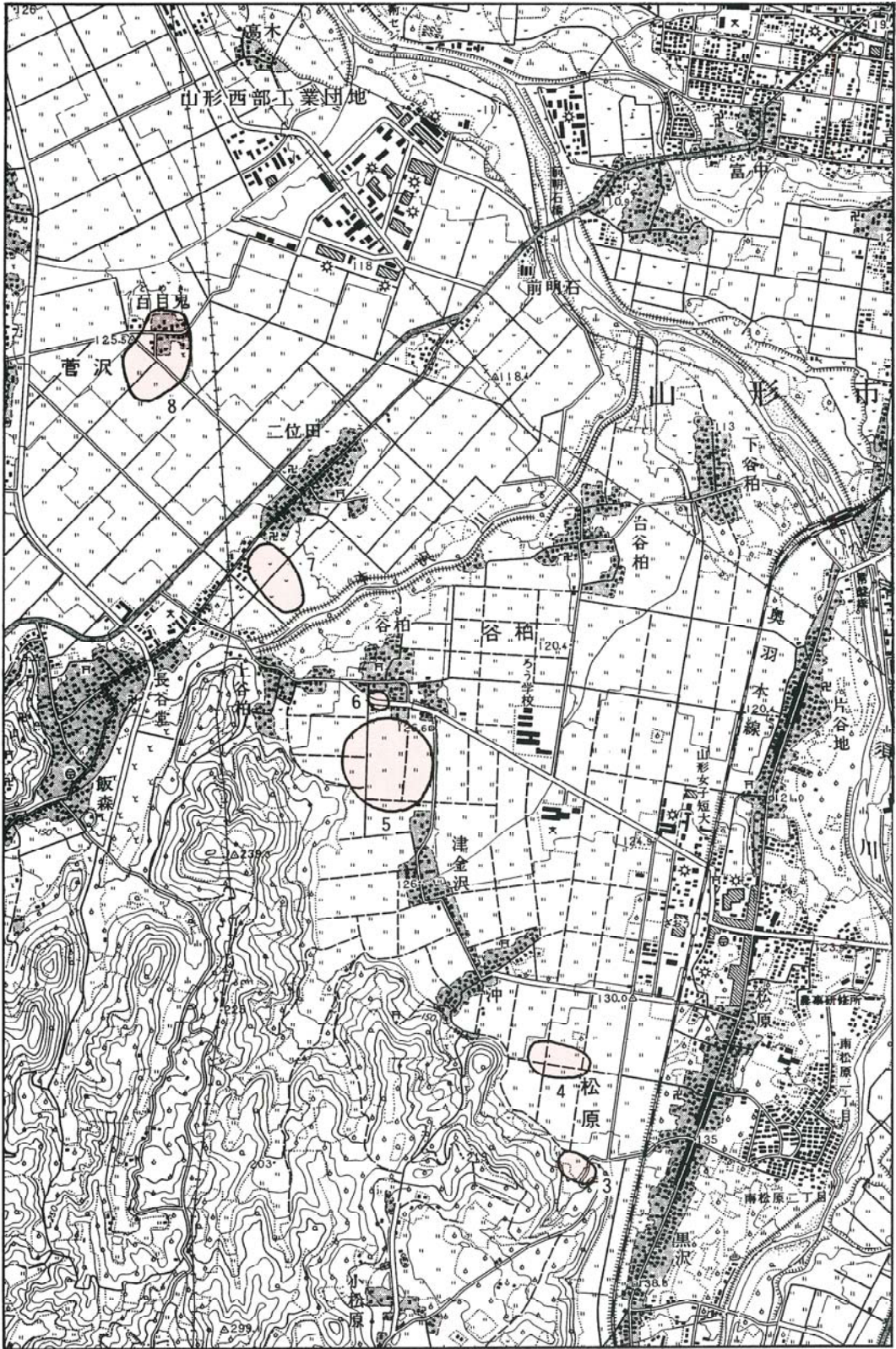
遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
須川右岸に位置し、東西に長く舌状に延びる小丘陵に立地する。当初の遺跡範囲よりも西・東側に広がる可能性がある。	昭和52年 分布調査では、縄文時代中期の土器片・フレイクを採集、今回は未採集である。	No.208
蔵王川左岸の自然堤防上に立地する。遺跡は東から西に傾斜してある。遺物は西側の畑地に散布している。	土師器、須恵器	新規(平成2年度)

No.	種 別	遺 跡 名	所 在 地	時 期	立 地	地 目
3	窯 跡	オ サ ヤズ	山形市大字松原	平安時代	丘 陵 (149m)	畑 地 水 田 神 社
4	包蔵地	ろく六 だん壇	山形市大字松原字六壇	鎌倉時代	平 地 (135m)	水 田 畑 地
5	包蔵地	いし石 だ田	山形市大字谷柏字石田	奈良時代 平安時代	平 地 (127m)	水 田 畑 地
6	包蔵地	や谷 がしわ 柏 J	山形市大字谷柏	縄文時代	自然堤防 (129m)	畑 地 果樹地 水 田
7	集落跡	はご萩 わら原	山形市大字長谷堂字萩原	古墳時代 平安時代	自然堤防 (130m)	果樹地 畑 地 宅 地
8	集落跡	ど百 め目 き鬼	山形市大字百目鬼	平安時代	丘 陵 (127m)	水 田 果樹地 宅 地
9	散布地	ひ樋 わたり渡	山形市大字富神台字樋渡	縄文時代	平 地 (120m)	水 田 畑 地 果樹園
10	集落跡	つか塚 だ田	山形市大字志戸田字茨田	弥生時代 古墳時代 奈良時代	平 地 (103m)	水 田 畑 地
11	集落跡	はへ服 とり部	山形市大字中野字服部	平安時代	自然堤防 (97m)	水 田 畑 地
12	散布地	とう藤 し治 や屋 しき敷	山形市大字中野字藤治屋敷	平安時代	自然堤防 (97m)	水 田 畑 地
13	散布地	うま馬 あらい洗 ば場 A	山形市大字中野字馬洗場	平安時代	自然堤防 (96m)	水 田 畑 地
14	散布地	うま馬 あらい洗 ば場 B	山形市大字中野字馬洗場	平安時代	自然堤防 (96m)	水 田 畑 地 果樹園
15	散布地	むかい向 が河 わら原	山形市大字洪江字向河原	平安時代	平 地 (96m)	畑 地 果樹園
16	包蔵地	しぶ洪 え江	山形市大字洪江字田中	奈良時代 平安時代	平 地 (96m)	宅 地 畑 地 果樹園
17	散布地	かげ影 きわ沢 きた北	天童市大字高揣字松葉・影沢北	古墳時代 奈良時代 ?	平 地 (96m)	水 田 畑 地
18	散布地	なか中 ぶくろ袋	天童市大字高揣字中袋2223・2225 他	平安時代	平 地 (94m)	水 田
19	集落跡	はっ八 たん反 き記 だ田	天童市大字成生字八反記田	縄文時代	沖積地 (90m)	水 田
20	集落跡	しゅう清 げ池 し清 へず水	天童市大字成生字清池清水	古墳時代 (中 期)	沖積地 (90m)	水 田
21	散布地	まとの的 ば場	天童市大字成生字の場	平安時代	沖積地 (90m)	水 田 畑 地
22	墳 墓	いち一 らく楽 だん壇	天童市大字大清水字一楽壇	室町時代	沖積地	水 田 畑 地

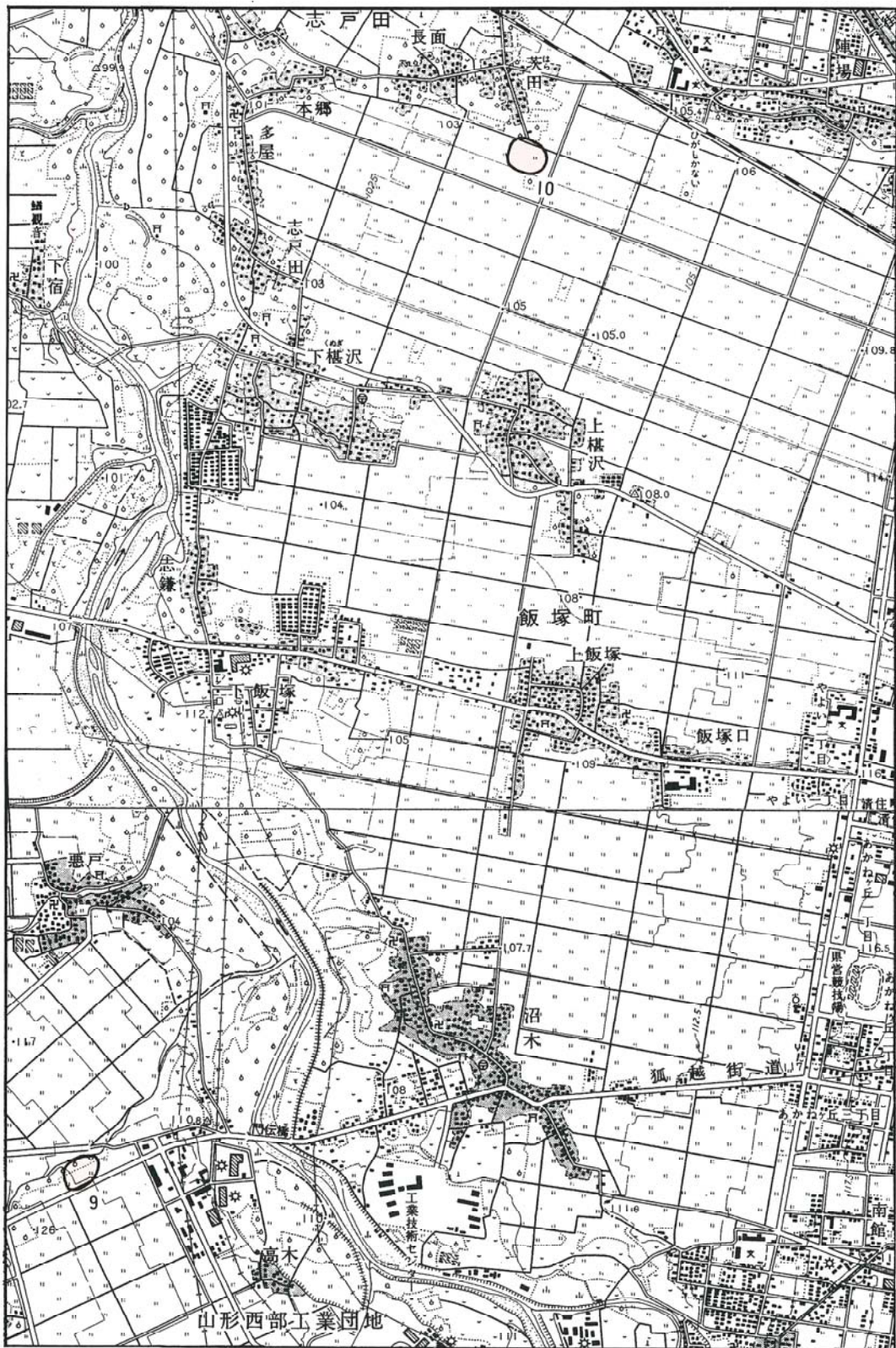
遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
須川左岸の丘陵上に位置、丘陵北側の鞍部から張り出し部にあるが、窯跡の基数は不明である。		No.67
須川左岸の平地に位置し、遺跡の大半は水田となっている。昭和40年代のほ場整備事業において遺物が発見された。		No.78
中谷柏地区の南側の水田地帯に位置する。昭和40年代のほ場整備事業において大量の土器が発見された。		No.82
本沢川右岸の自然堤防上に立地し、中谷柏地区の北側に所在する。従来の遺跡範囲よりも東・北側に延びる可能性がある。		No.84
本沢川左岸の自然堤防上に立地し、川を挟んで谷柏J遺跡があり、大半が葡萄畑である。従来の遺跡範囲よりも西側へ延びる可能性がある。		No.101
山形西部丘陵の東、小独立陵に位置する。遺跡の範囲は従来よりも東側に延び、百目鬼地区一带に広がる可能性がある。		No.113
山形市西部、主要地方道山形白鷹線と同上山中山線交差点北東部 約300mに位置する。北半が畑地・果樹、南半が水田となっている。	フレイク	新規(平成2年度)
茨田集落の南側に位置する。扇状地扇端部に立地する。昭和42年の基盤整備で工事中に発見された。範囲は全体に広がる可能性がある。		No.126
中野集落の東側400m、白川左岸の自然堤防に立地する。遺物の散布状況から、遺跡は周知の範囲より南東方向へ広がるものと考えられる。	須恵器、赤焼土器	No.156
服部遺跡に隣接する。白川左岸の自然堤防に立地する。遺物は、服部遺跡寄りの南側に散分している。地形から遺跡範囲を想定した。	須恵器	新規(平成2年度)
白川左岸の自然堤防に立地する。上記2遺跡と一連の立地条件である。遺物は畑地部分で全体に散布している。	須恵器、赤焼土器	新規(平成2年度)
上記3遺跡と一連の白川左岸自然堤防に立地する。これら4遺跡のほか、自然堤防上の遺跡群として、さらに北西方向へ延びる可能性がある。	赤焼土器	新規(平成2年度)
新井田地区北西部、主要地方道山形・羽入線北側と白川の間の平地(白川左岸)に位置する。遺物は畑地で散布が認められる。	須恵器、赤焼土器	新規(平成2年度)
白川右岸、渋江・田中地区にまたがる範囲で遺跡が広がるものと考えられる。畑地以外遺物の散布は認められないが、地形で範囲を想定した。	須恵器、赤焼土器	No.160 平成2年度県教委試掘調査実施
高揃集落の南西 約500mの立谷川右岸水田中に立地する。遺物の散布はあまり多くないが、そのほとんどが土師器である。	土師器、須恵器	新規(平成2年度)
高揃集落の西方 300mの水田中に位置する。比較的多数の遺物の散布がみられる。遺跡範囲は推定で南北200m、東西180mである。	須恵器、赤焼土器	新規(平成2年度)
蔵増坊小路橋の東方 500mに位置する。北側には清池清水遺跡が隣接している。	過去に配石・立石遺構の他、縄文時代後期後半の土器片・石器等が出土したといわれる。	No.292
八反記田遺跡の北側に位置する。	過去に古墳時代中期(引田式併行)の土師器が出土したといわれる。	No.291
成生集落古峯神社の西方 150mから 350mの広範囲に広がる遺跡である。従来の遺跡範囲よりもさらに西側に広がる事が確認された。	須恵器、赤焼土器	No.295
径8m 高さ2mの円墳状の塚であったが、昭和39年の区画整理にて破壊された。従来の遺跡地図登載位置より南へ100mずれている。	板碑3基(天童市窪野目徳昌寺蔵)	No.300



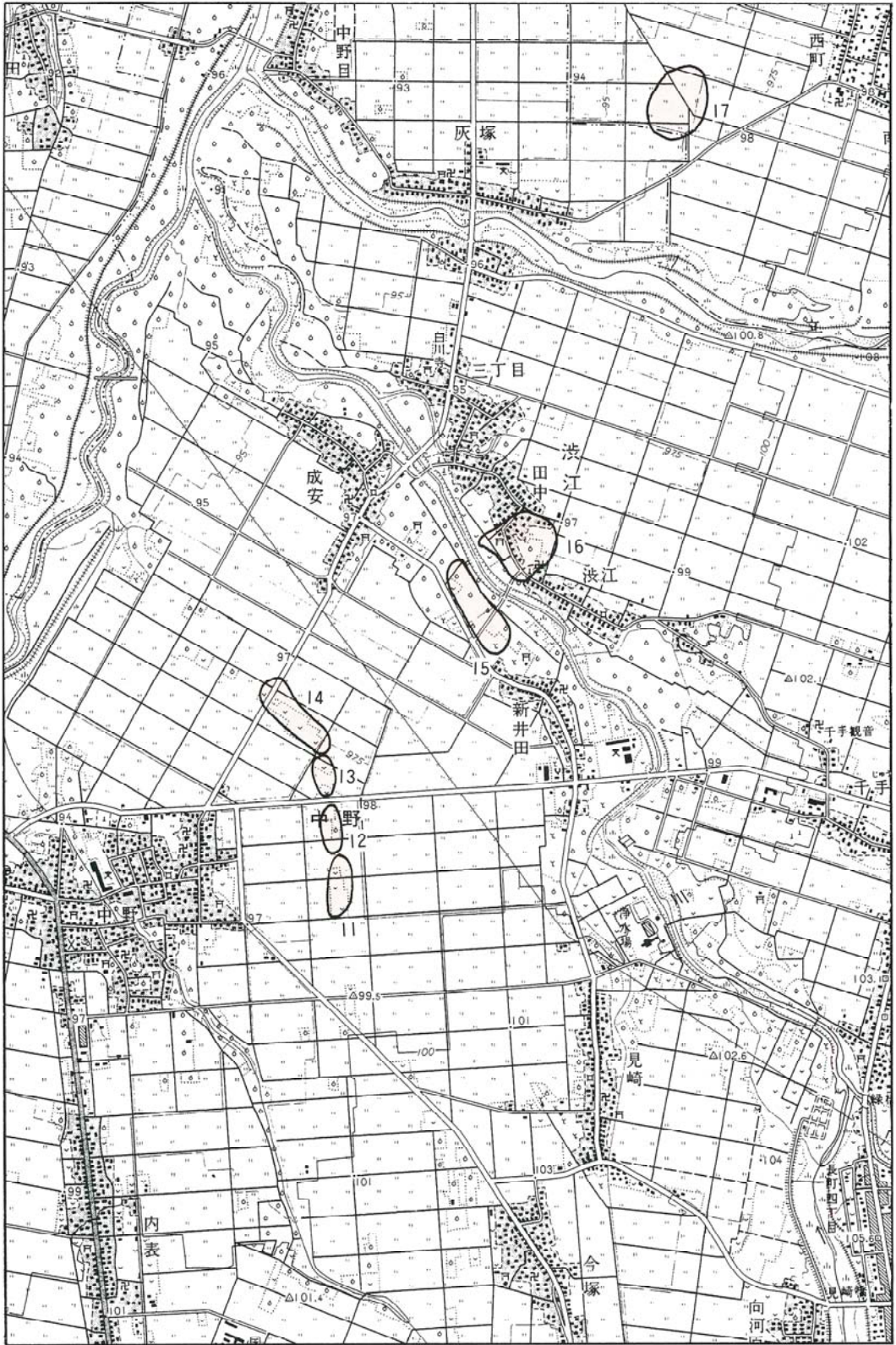
第17図 上山、山形、天童、東根地区基礎調査遺跡位置図(1)



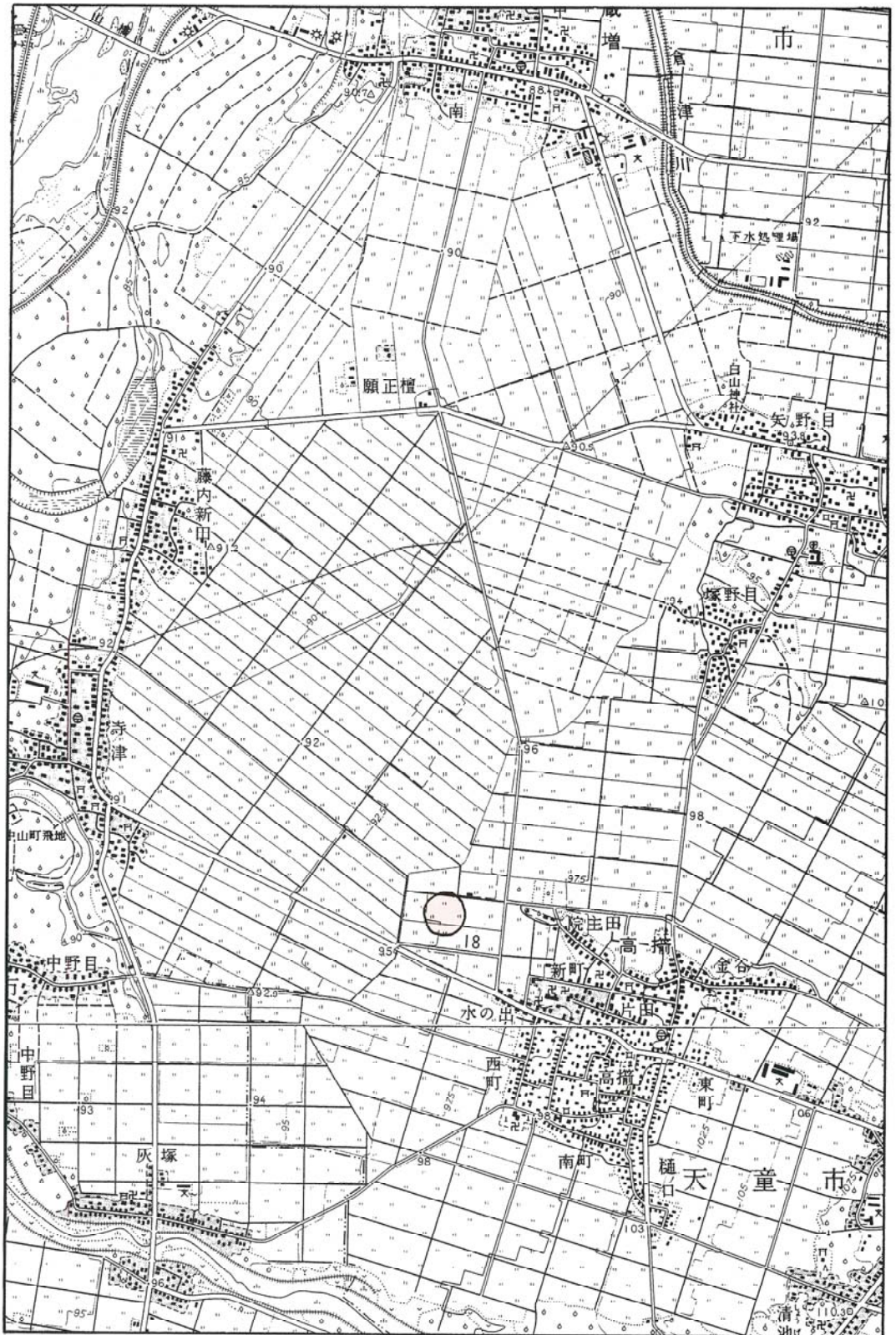
第18図 上山、山形、天童、東根地区基礎調査遺跡位置図 (2)



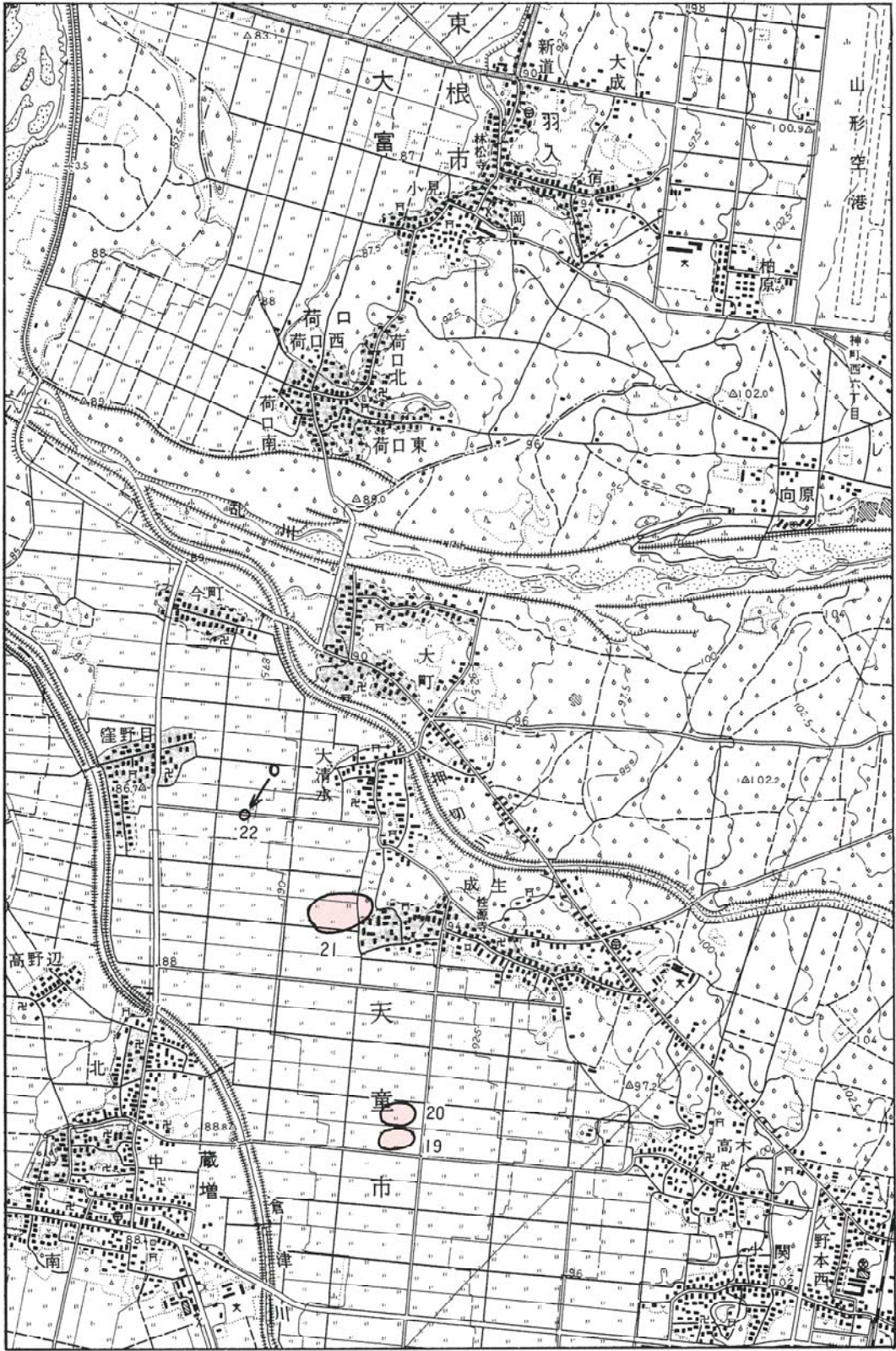
第19図 上山、山形、天童、東根地区基礎調査遺跡位置図（3）



第20図 上山、山形、天童、東根地区基礎調査遺跡位置図（4）



第21図 上山、山形、天童、東根地区基礎調査遺跡位置図（5）



第22図 上山、山形、天童、東根地区基礎調査遺跡位置図 (6)



宮脇遺跡近景（南西から）



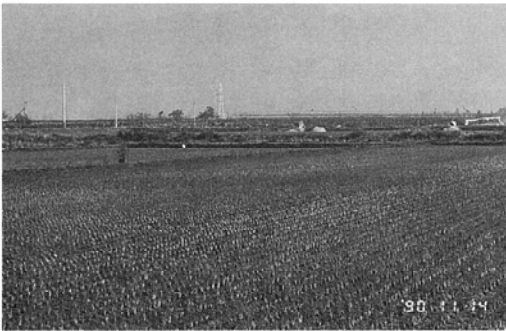
オサヤズ窯跡遠景（北から）



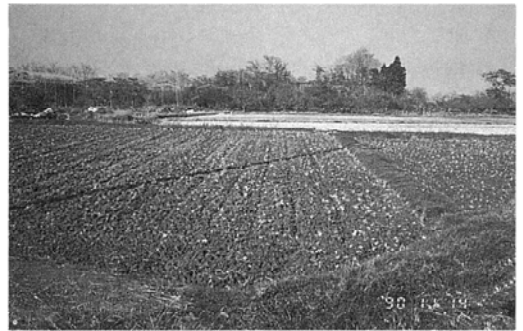
金谷遺跡近景（南から）



金谷遺跡採集遺物



六壇遺跡近景（西から）



谷柏J遺跡近景（南から）



萩原遺跡近景（南から）



百目鬼遺跡近景（南から）



樋渡遺跡近景（南から）



樋渡遺跡採集遺物



塚田遺跡近景（北から）



八反記田遺跡近景(手前)（南から）



服部遺跡（南から）



服部遺跡採集遺物



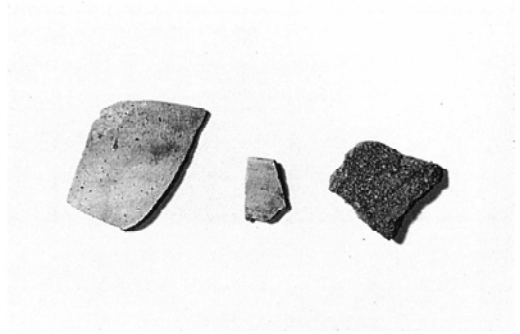
藤治屋敷遺跡近景（南西から）



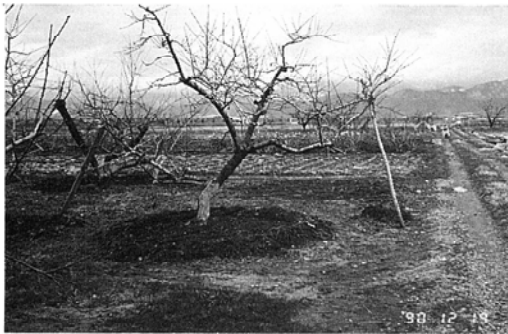
藤治屋敷遺跡採集遺物



馬洗場 A 遺跡近景 (北から)



馬洗場 A 遺跡採集遺物



馬洗場 B 遺跡近景 (西から)



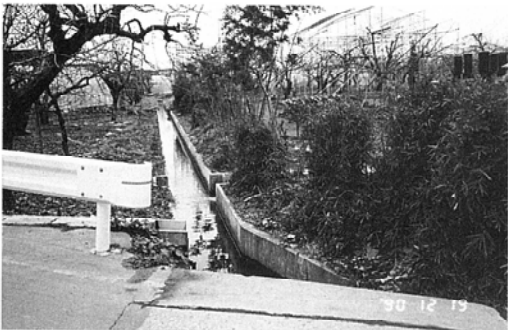
馬洗場 B 遺跡採集遺物



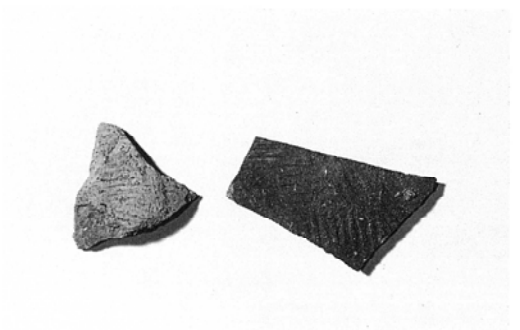
向河原遺跡近景 (南から)



向河原遺跡採集遺物



波江遺跡近景 (南から)



波江遺跡採集遺物



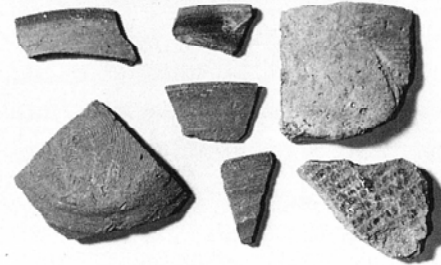
影沢北遺跡近景（北から）



影沢北遺跡採集遺物



中袋遺跡近景（南から）



中袋遺跡採集遺物



清池清水遺跡遠景（後方）（南から）



一楽壇遺跡遠景（北から）



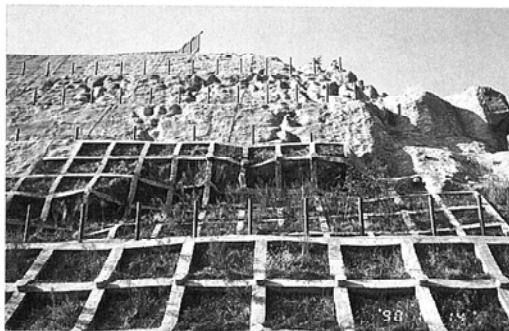
的場遺跡近景（西から）



的場遺跡採集遺物

(10) 小国地区基礎調査

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	岩陰	田中の岩屋	西置賜郡小国町大字河原角 字田中の岩屋	縄文時代	山麓 (315m)	岩場
2	散布地	壇の前	西置賜郡小国町大字杉沢字壇の前	縄文時代	段丘 (155m)	畑地 地
3	散布地	なかひらやま	西置賜郡小国町大字種沢字中平山	縄文時代	段丘	畑地 牧草地
4	散布地	みずなしぎわ 水無沢 A	西置賜郡小国町大字大滝字水無	縄文時代	段丘	畑地 水田
5	散布地	みずなしぎわ 水無沢 B	西置賜郡小国町大字種沢字水無	縄文時代	山麓	畑地
6	集落跡	ちの野	西置賜郡小国町大字柳向字仙野	縄文時代	段丘	荒地
7	集落跡	つなきさわ 綱木沢 向	西置賜郡小国町綱木箱ノ口字綱木沢向	縄文時代	段丘	栗林 荒地
8	散布地	まえだ 前田 A	西置賜郡小国町綱木箱ノ口字稲場一・二	縄文時代	段丘	畑地 水田
9	散布地	まえだ 前田 B	西置賜郡小国町綱木箱ノ口 字稲場二、沢田二	縄文時代	段丘	畑地 荒地
10	散布地	まえだ 前田 C	西置賜郡小国町綱木箱ノ口字沢田二	縄文時代	段丘 (218m)	畑地 地
11	散布地	ふるや 古屋敷	西置賜郡小国町綱木箱ノ口字古屋敷一	縄文時代	段丘 (210m)	畑地 地



田中の岩屋遺跡 (西から)



壇の前遺跡遠景 (北東から)

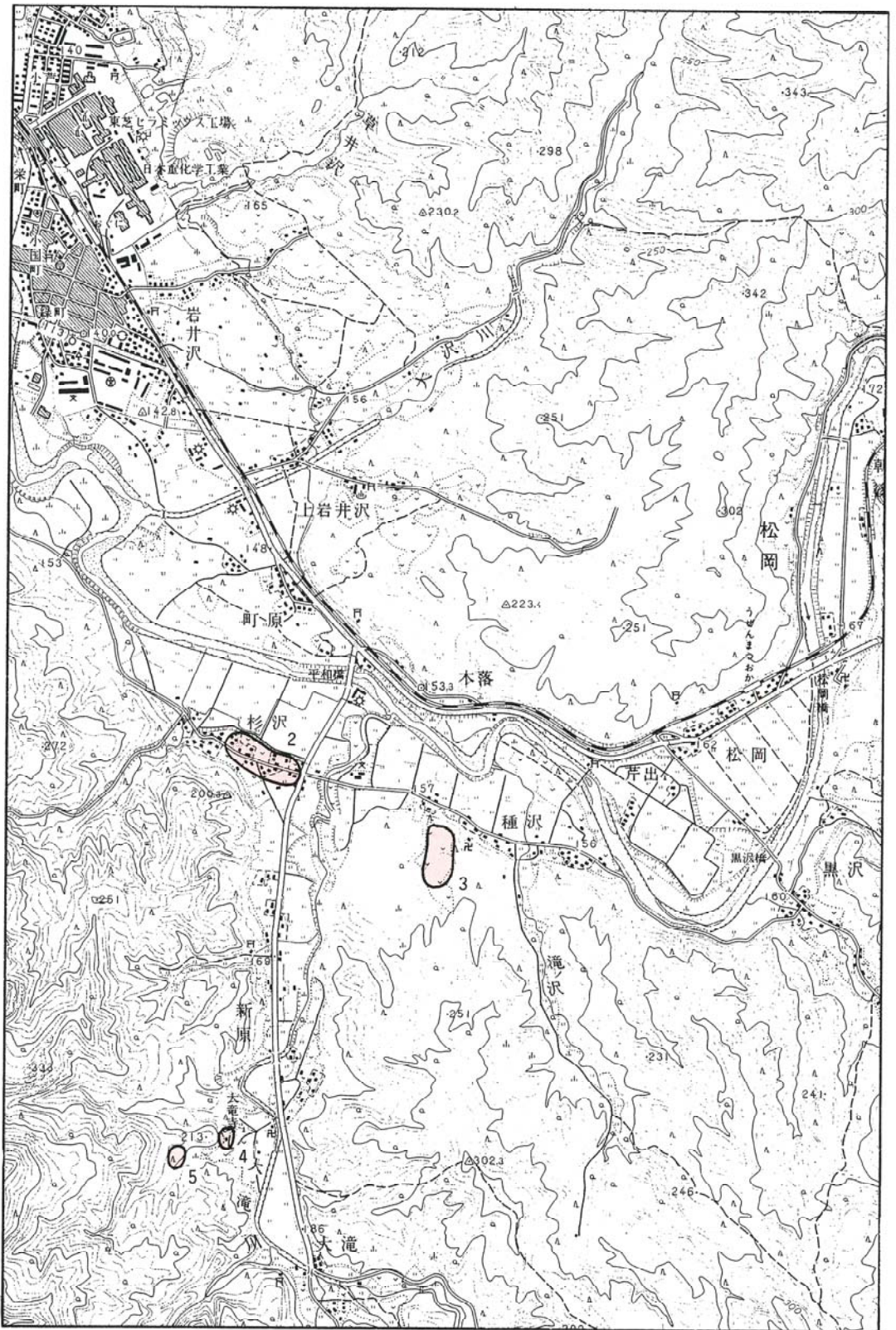
遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
弥六沢川が横川に合流する地点に張り出す丘陵上に位置する。遺跡は道路改良工事でコンクリート吹き付けされ破壊されたものと考えられる。		No.1429
横川の左岸及び、大滝川左岸の段丘上に立地し、畑地内に多量の石器が散布する。	縄文時代石器、フリイク	新規(平成2年度)
横川左岸の段丘上に立地する。遺跡南側の畑地に遺物が散布する。	縄文時代石器、フリイク	No.1417
大滝川左岸の段丘上に立地する。水無沢林道入口の北側畑地に遺物が散布する。	縄文時代石器、フリイク	新規(平成2年度)
水無沢左岸の丘陵上に立地する。水無沢林道を100mほど入った畑地上に遺物が散布する。	縄文時代石器、フリイク	新規(平成2年度)
横川左岸の段丘上に立地する。以前は畑地であったが、現在は荒地である。	縄文時代、フリイク、凹石 (昭和39年調査時に出土)	No.1428
綱木川左岸の段丘上に立地する。以前は畑地であったが、現在は荒地になっている。	縄文時代後期ないし晩期	No.1424
明沢川左岸の段丘上に立地する。箱の口橋東国道 113号線の南側段丘の畑地に遺物が散布する。	縄文時代石器、フリイク	新規(平成2年度)
前田A遺跡の南側、明沢川左岸段丘上の舌状に張り出す台地に立地する。遺跡南東部畑地に遺物が散布する。	縄文時代石器、フリイク	新規(平成2年度)
前田B遺跡の南側、明石川左岸段丘上の集落寄りの舌状に張り出す台地上に立地する。遺跡の北側畑地に遺物が散布する。	縄文時代石器、フリイク	新規(平成2年度)
明沢川左岸の段丘上に立地する。明沢川と国道113号の間、特に後藤武夫氏宅西側畑地に多量散布している。	縄文時代石器、フリイク	新規(平成2年度)



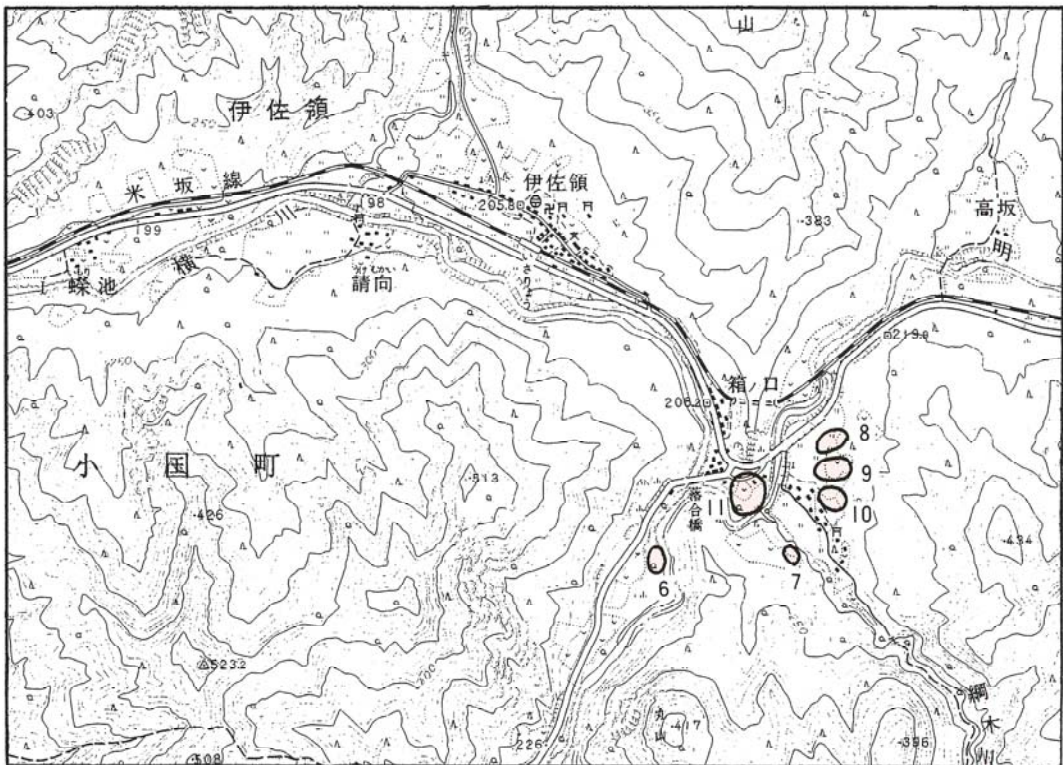
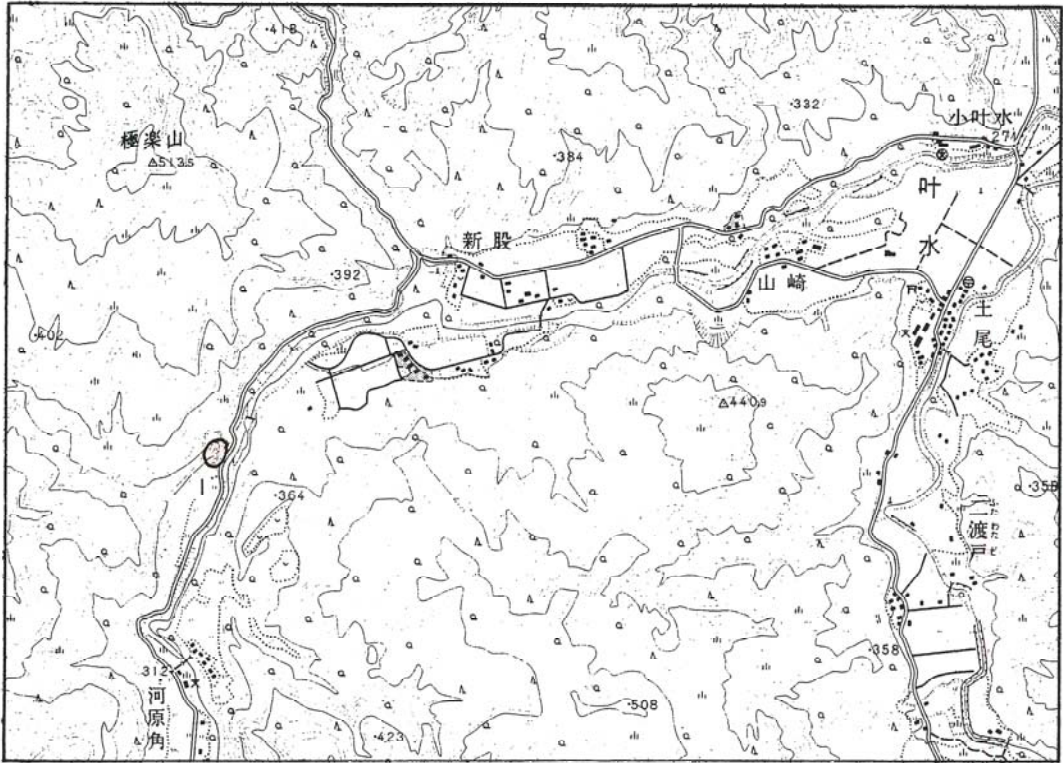
壇の前遺跡近景(西から)



壇の前遺跡採集遺跡



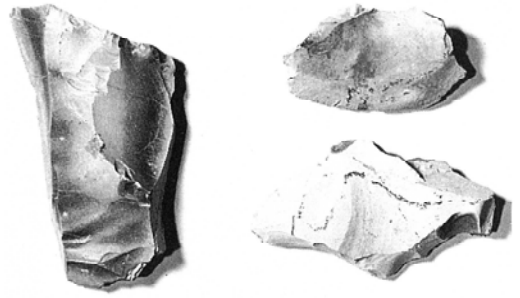
第23図 小国地区基礎調査遺跡位置図(1)



第24図 小国地区基礎調査遺跡位置図(2)



中平山遺跡近景（南から）



中平山遺跡採集遺物



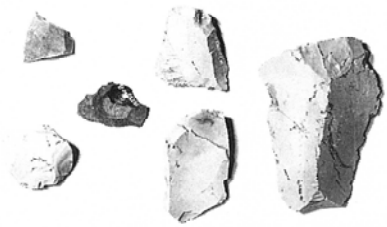
水無沢 A 遺跡近景（東から）



水無沢 A 遺跡採集遺物



水無沢 B 遺跡近景（東から）



水無沢 B 遺跡採集遺物



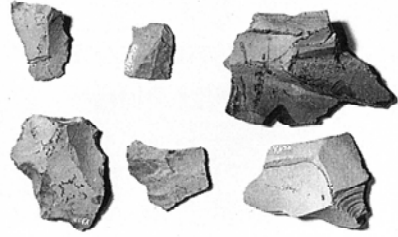
千野遺跡近景（北から）



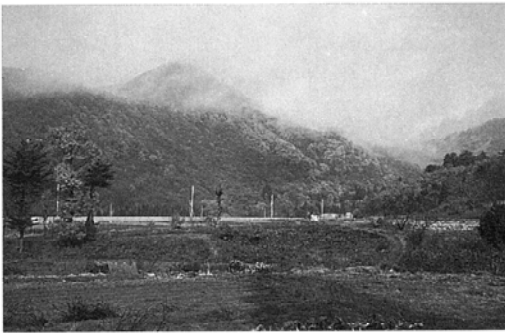
網木沢向遺跡近景（北から）



前田 A 遺跡近景



前田 A 遺跡採取遺物



前田 B 遺跡遠景 (南西から)



前田 B 遺跡採取遺物



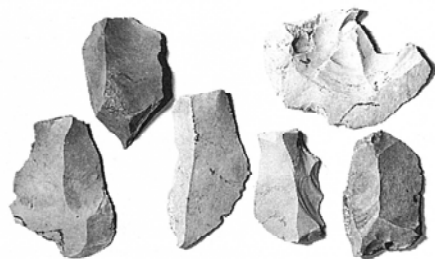
前田 C 遺跡遠景 (北から)



前田 C 遺跡採取遺物



古屋敷遺跡近景 (西から)



古屋敷遺跡採取遺物

2 試掘調査の概要

(1) 富沢 I 遺跡(昭和62年度登録)

所在地 山形県寒河江市大字清水新田字富沢107-1外

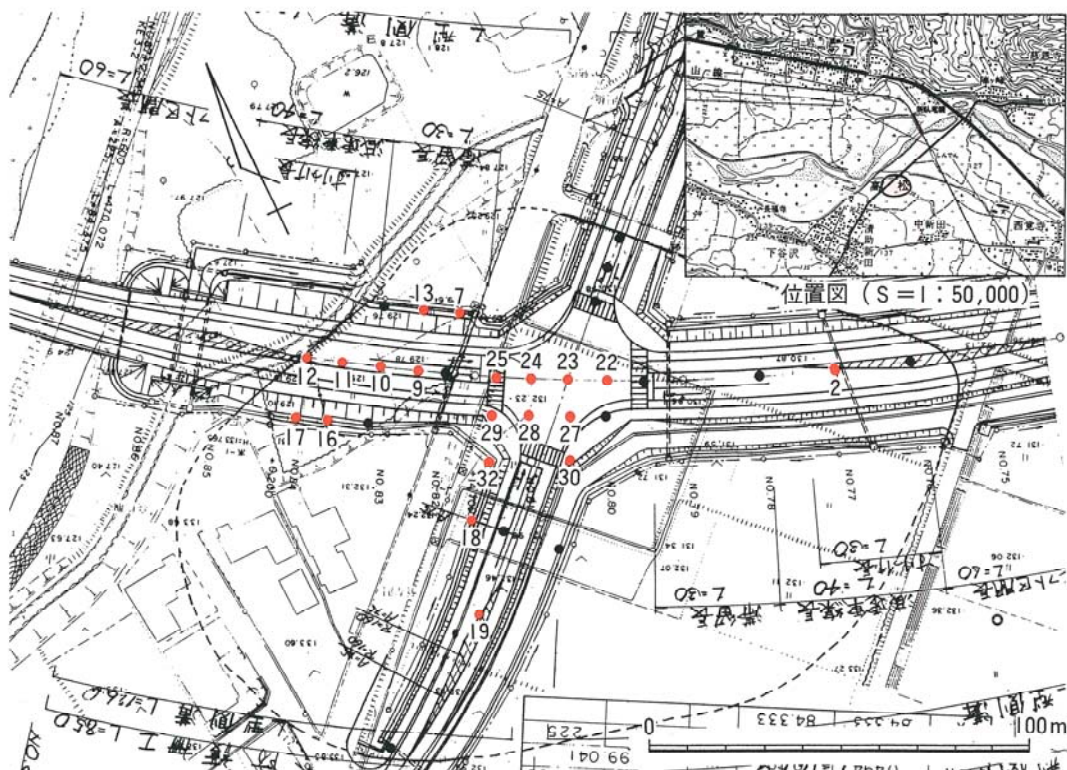
調査員 渋谷孝雄 須賀井新人

調査期日 B調査 平成2年10月30日・31日、平成2年12月19日

調査の概要 遺跡はJR左沢線高松駅の西北西約1.4kmに位置し、寒河江川の形成した河岸段丘上に立地する。県道白岩・松川線をはさみ、西側が標高129.8m、東側が132.2mを測り、西側が一段低くなっている。地目は果樹園、畑地、水田であるが、このうち水田部については以前圃場整備が行われている。

今回の遺跡詳細分布調査は、本遺跡内で国道112号線白岩道路の建設工事が行われる予定となったため、遺跡の内容を把握し、開発計画との調整を測る目的で実施した。用地内に設定した32カ所の試掘溝を地山まで掘り下げて、遺構の検出、遺物の採取を行った。

調査の結果、遺跡中央部の交差点予定地を中心として、竪穴住居跡、土壌、柱穴などが、また、県道西でも土壌等の遺構が確認され、縄文時代後期の土器や石器、平安時代の土器が出土し、本遺跡は縄文時代と平安時代の複合遺跡であることが明らかとなった。なお、遺跡の北東部は以前の圃場整備により、地山まで攪乱を受けていることも判明した。



第25図 富沢 I 遺跡概要図



遺跡近景（東から）



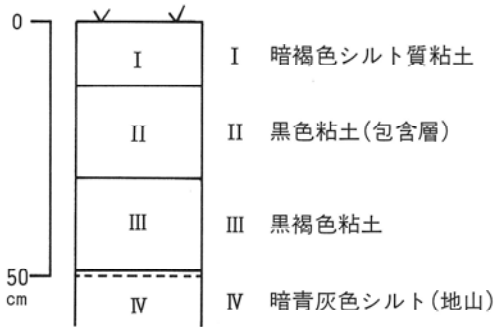
遺跡近景（西から）



TP16遺構検出状況



TP24遺構検出状況



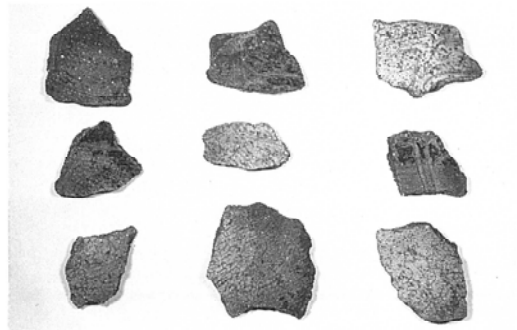
TP7土層柱状図



TP28遺構検出状況



TP7出土遺物



TP16出土遺物

(2) 後田遺跡(昭和63年度登録)

所在地 山形県鶴岡市大字寺田字後田

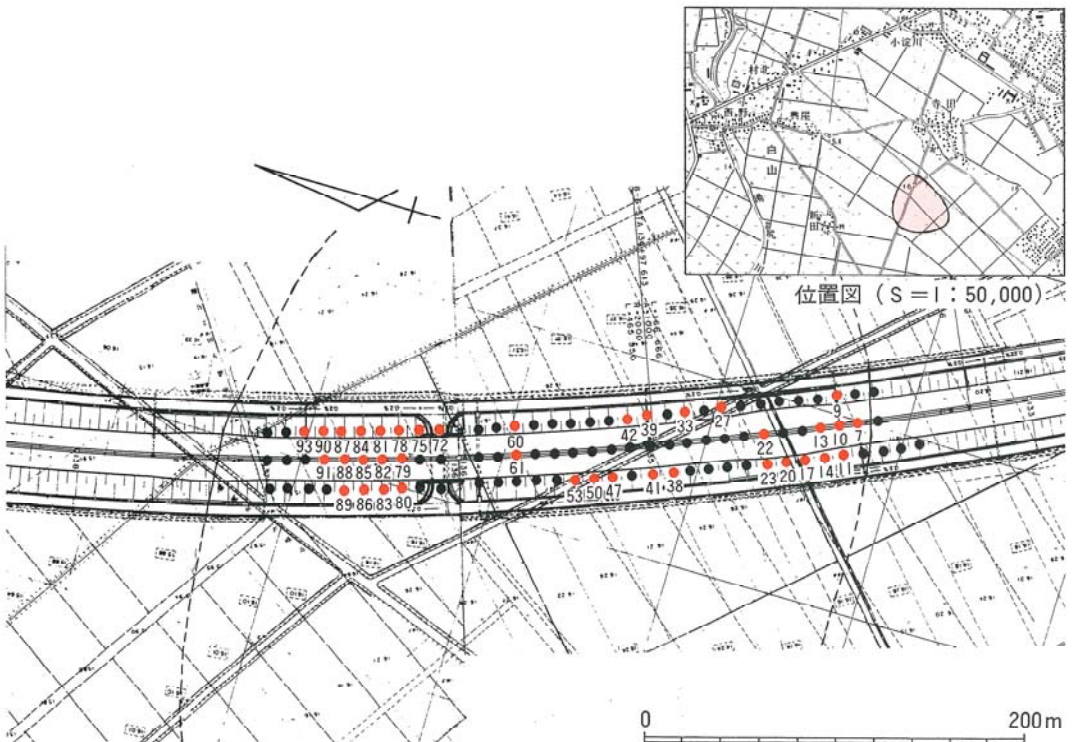
調査員 佐々木洋治 渋谷孝雄

調査期日 B調査 平成2年8月1・2日

調査の概要 本遺跡は鶴岡市街地の南西方の標高16m前後の沖積平野に立地する。地目は水田である。昭和63年度の遺跡詳細分布調査で発見・登録され、平成元年1月と7月に県営圃場整備事業の実施に伴って立会調査が実施され、平安時代の柱根をもつ柱穴、溝跡旧河川跡等が発見されている。

今回の調査は、東北横断自動車道酒田線が本遺跡の東部を横断することとなったため、遺跡の範囲、性格を明らかにし、緊急発掘調査に要する期間や経費の積算資料を得ることを目標として実施した。用地のセンターと西、東に概ね10~15mおきに1×1mの試掘溝を94カ所設定し、地山まで掘り下げて遺構の検出、遺物の採取を行った。

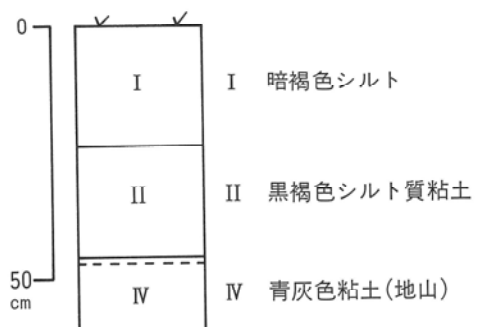
調査の結果、39カ所から遺構や遺物が検出された。遺構には柱穴・溝跡・大溝(旧河川)があり、平安時代の須恵器、赤焼土器等が出土した。事業区内に入る面積は17,600mであるが、中央部は遺構・遺物の分布が希薄であり、南部と北部に集中的に分布する傾向が窺えた。



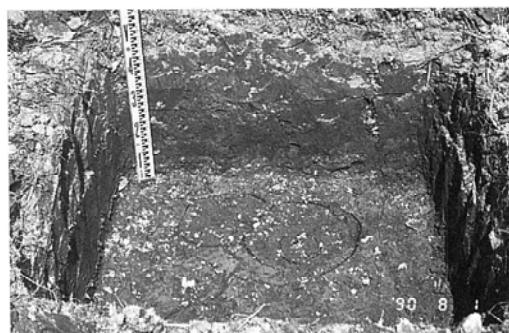
第26図 後田遺跡概要図



遺跡近景（北から）



TPII 土層柱状図



TPII遺構検出状況



TP39遺構検出状況



TP72出土遺物

おみちした
(3) 大道下遺跡(昭和63年度登録)

所在地 山形県鶴岡市大字寺田字大道下外

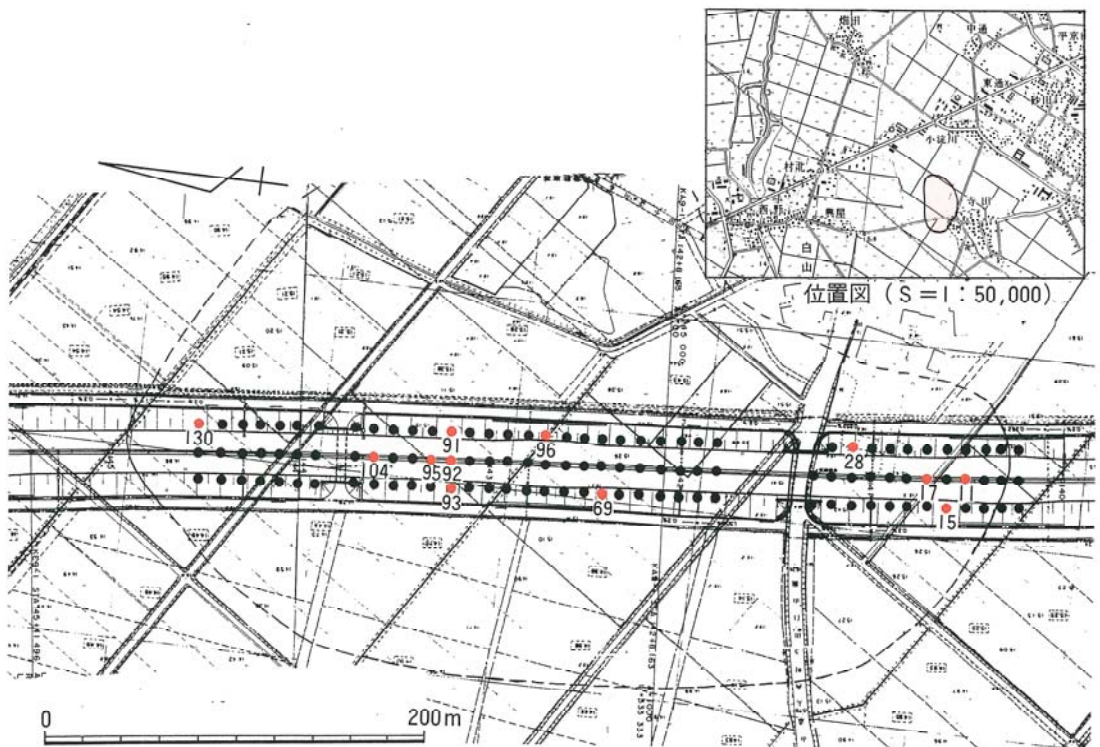
調査員 佐々木洋治 渋谷孝雄

調査期日 B調査 平成2年8月3、6、7日

調査の概要 遺跡は鶴岡市街地の北端に位置し、寺田集落に西接して北西から南西にかけて広がっている。地目は水田、畑地、宅地で、標高13~15mを測る。昭和63年度の遺跡詳細分布調査で発見・登録された。平成元年度は県営團場整備事業鶴岡西部地区の事業実施に際し、記録保存のための緊急発掘調査が行われており、排水路部分については立会調査が実施され、これらの調査で掘立柱建物跡等が検出され、平安時代の土器と中世陶器が出土している。

今回の調査は東北横断自動車道酒田線が本遺跡を縦断することとなったため、遺跡の範囲、性格を明らかにし、緊急発掘調査に要する期間、経費の積算資料を得ることを目的として実施した。試掘溝は原則として10~15mおきに132カ所を設定したが、廃材などが置かれた場所もあって、実際に調査したものは111カ所であった。

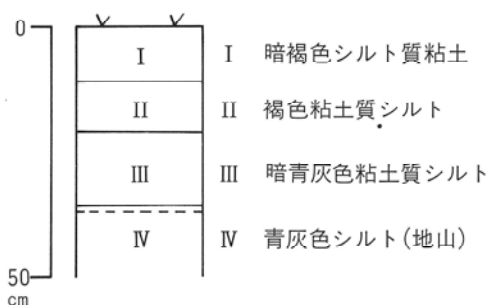
調査の結果、遺構、遺物が検出されたものは12カ所と少なく、全体的にみて分布状況は希薄であると判断された。遺構の種類は柱穴、溝、遺物は平安時代と中世のものがある。



第27図 大道下遺跡概要図



遺跡近景（南から）



T P II 土層柱状図



T P I01 土層断面



T P I30 検出遺構



出土遺物

はたけだ
(4) 畑田遺跡(昭和63年度登録)

所在地 山形県鶴岡市大字大淀川字畑田

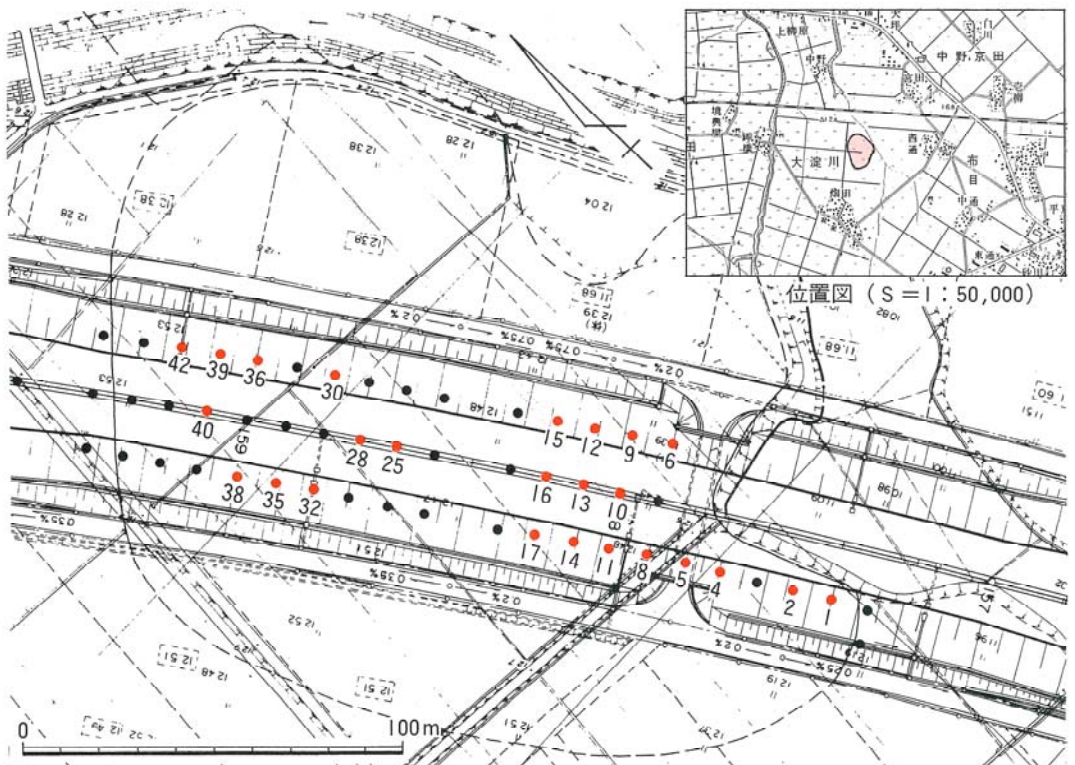
調査員 佐々木洋治 渋谷孝雄

調査期日 B調査 8月7～9日

調査の概要 遺跡はJ R羽越本線大山駅の東方約5 kmに位置し、北西に流れる千安川左岸の自然堤防上の畑、およびその西側の水田に立地している。標高は約12kmを測る。昭和63年度の遺跡詳細分布調査で発見・登録された。平成元年度には県営ほ場整備鶴岡西部地区の事業実施に際し、水路部分の立会い調査が実施され、古墳時代前期の土師器が多数出土し、溝跡や土壌等が検出された。

今回の調査は東北横断自動車道酒田線が本遺跡の中央部を縦断することとなったため、遺跡の範囲、性格を明らかにし、緊急発掘調査に要する期間、経費の積算資料を得ることを目的として実施した。試掘溝は10～15mおきに60ヶ所設定して地山まで掘り下げた。

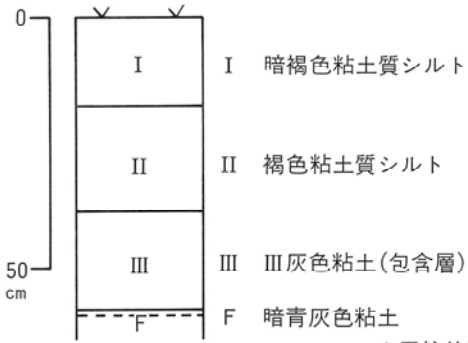
調査の結果、杭No.157+30mから、159+30mまでの範囲で5ヶ所の試掘溝から遺構や遺物が検出された。T P I、6、13で竪穴住居跡と思われる土色変化を確認し、T P 28、30、36、38、39、40、42で河川跡や丸太材を検出した。遺物は古墳時代前期の土師器で坏、高坏、甕、壺等が出土した。事業区内の面積は12,250㎡である。



第28図 畑田遺跡概要図



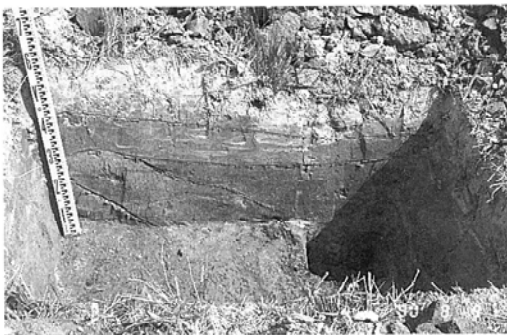
遺跡近景（北から）



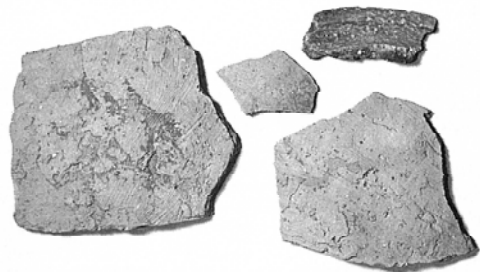
TP 4 土層柱状図



TP 4 土層断面



TP 28 土層断面



TP 4 出土遺物

(5) ^{なかの}中野遺跡(昭和63年度登録)

所在地 山形県鶴岡市大字大淀川字中野

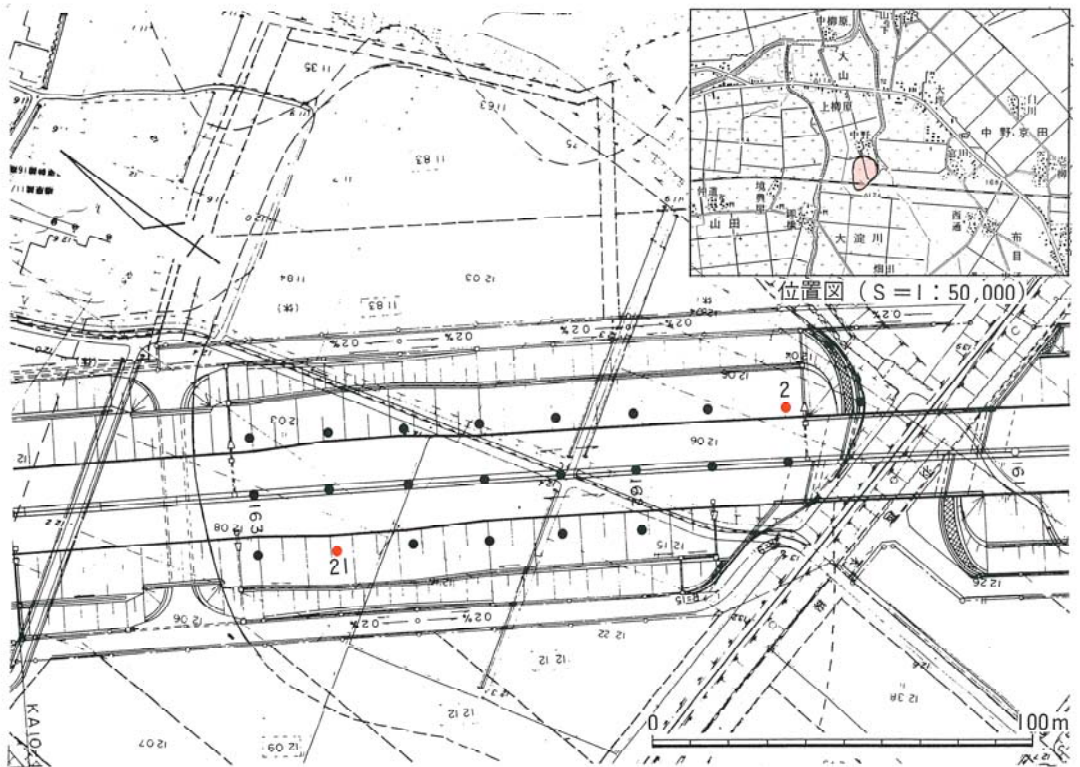
調査員 佐々木洋治 渋谷孝雄

調査期日 B調査 平成2年8月9・10日

調査の概要 遺跡はJR羽越本線大山駅の東方5kmに位置する。羽越本線をはさんで一部南側にも拡っている。本遺跡のすぐ南側に畑田遺跡がある。地目は水田で、標高は12mを測る。昭和63年度の遺跡詳細分布調査で発見・登録された。平成元年度には、県営圃場整備事業鶴岡西部地区の事業実施の際、破壊を免れない水路部分について立会い調査が行われた。この調査では、羽越本線のすぐ南側に入れた東西トレンチで、柱穴2基、溝跡1条が検出されたに止まり、遺物も若干の須恵器、土師器が出土しただけであった。

今回の調査は東北横断自動車道酒田線が本遺跡の中央部を縦断することとなったため、遺跡の範囲、性格を明らかにし、緊急発掘調査に要する期間、経費の積算資料を得ることを目的として実施した。試掘溝は20mおきに22ヶ所設定し、地山まで掘り下げて遺構の検出と遺物の採取を行った。また、試掘と並行して表面採集も行った。

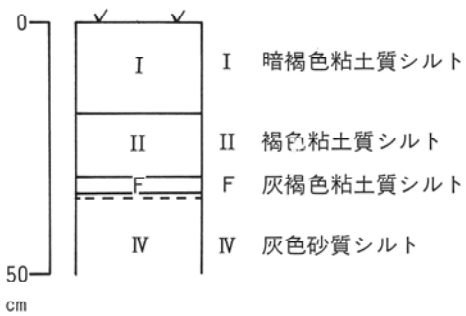
調査の結果、遺物の散布は線路北で数ヶ所に認められたが、試掘地点では、2ヶ所で遺構・遺物が検出された止まり、用地内では線路の南側までは拡がらないことを確認した。



第29図 中野遺跡概要図



遺跡近景（南東から）



TP 2 土層柱状図



TP 2 土層断面



TP21土層断面



出土遺物

まつばら
(6) 松原遺跡(遺跡番号 2251)

所在地 山形県飽海郡八幡町下黒川字松ヶ峰30-6外

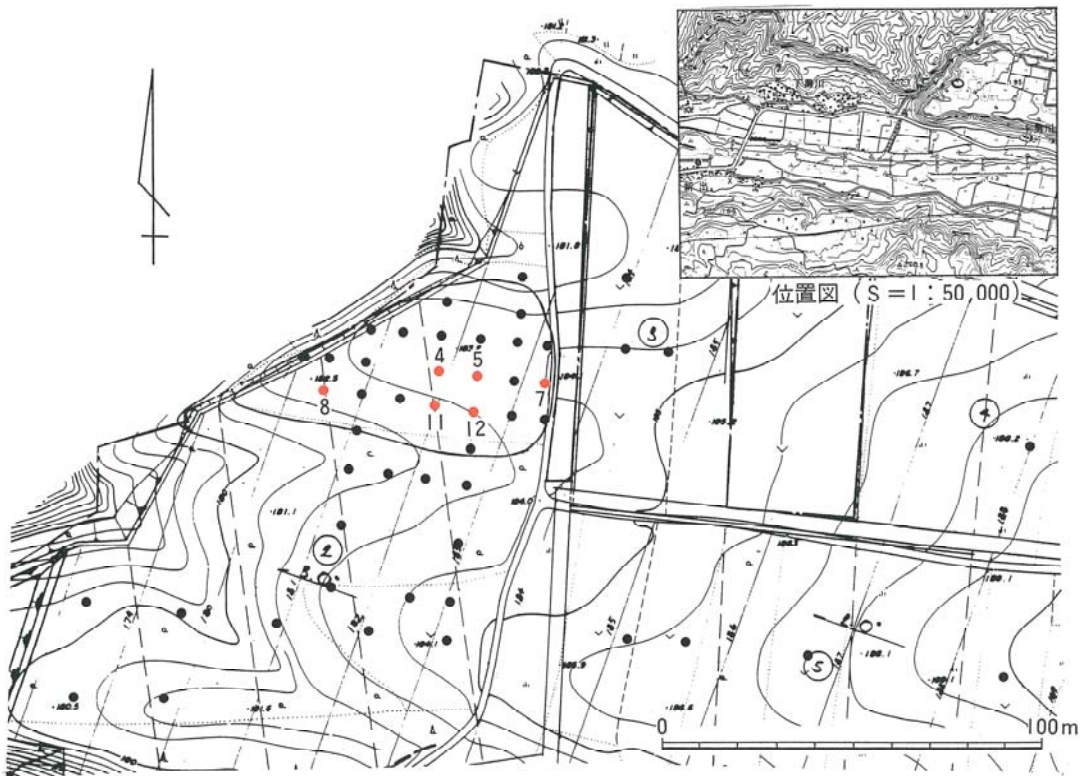
調査員 渋谷孝雄 長橋 至

調査期日 A調査 平成2年5月11日 B調査 平成2年11月19~22日

調査の概要 遺跡は八幡町役場の北東約5kmに位置し、標高180mの大地上に立地する。大地の南側を日向川が西流し、西側は不動沢で限られる。沖積面との比高は約80mを数え、遺跡の東側には江戸時代に開田された水田が草津まで広がっている。地目は畑地で部分的に柿が植えられている。

今回の調査は本遺跡を含む一帯で国営農地開発事業(鳥海南麓地区、下黒川団地)が平成3年度に着工される計画となったため、事業計画との調整を図る目的で実施した。周知の範囲内では10~15mおきに試掘溝を設定し、また、それ以外の事業実施予定地内には25~50mおきに試掘溝を設定して地山まで掘り下げ、遺構の検出、遺物の採取に努めた。

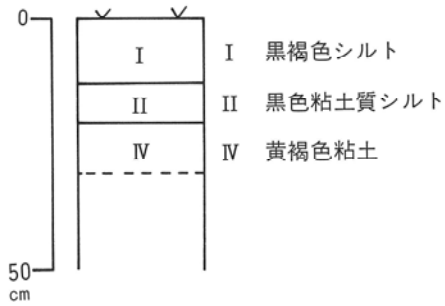
調査の結果、遺物の散布する周知の範囲内の6ヶ所の試掘溝から縄文土器片1点と剝片数点が出土したものの、他の試掘溝では遺構、遺物とも皆無であった。また、周知の範囲内においても、表土直下が地山の黄褐色粘土となる地点が多く、長年の耕作による攪乱が著しいことが明らかになった。



第30図 松原遺跡概要図



遺跡近景（東から）



TP 8 土層柱状図



TP 7 土層断面



TP 8 土層断面



出土遺物

(7) ^{かなまた}金俣 I 遺跡(平成2年度 新規発見)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字吉出字金俣

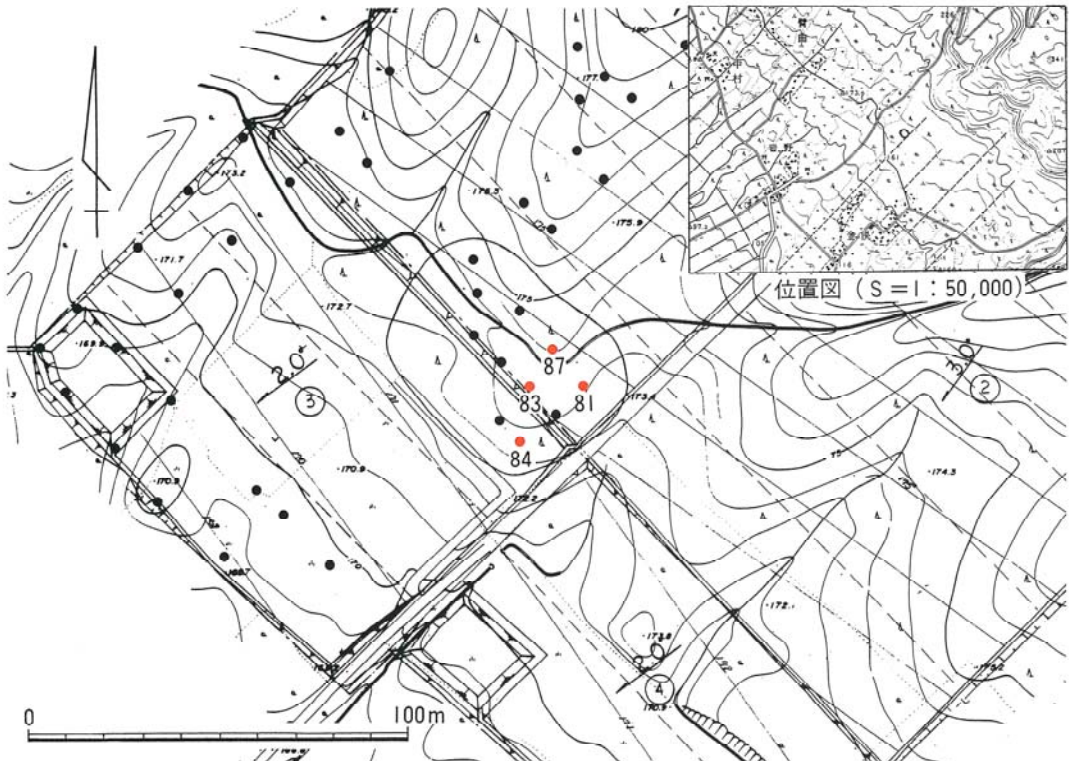
調査員 渋谷孝雄 長橋 至

調査期日 A調査 平成2年4月27日 B調査 平成2年11月27～30日

調査の概要 遺跡はJR羽越本線遊佐駅の東北東6.0km、金俣集落の北北東約650mに位置する。平成2年4月27日の表面調査によって、かつて開墾され、現在は放置されて荒地となった地点で、縄文土器片や土師器片が採集されたことから、近隣に移籍があると判断された。立地は起伏のある山麓緩斜面で、地目は荒蕪地、山林となっている。

11月の試掘調査は、国営農地開発事業(鳥海南麓地区、金俣飛団地)が実施される見通しとなったため、遺跡の有無を確認し、もし、遺跡があった場合には、事業計画との調整を図る資料を得ることを目的として実施した調査である。調査の対象地区は金俣飛団地内全域としたが、以前に大型機械で開墾された南西部と、起伏の著しい東南部は除外した。

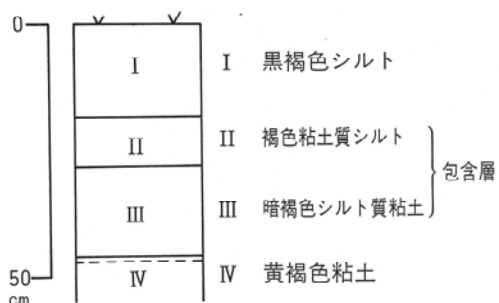
調査の結果、4月に遺物を採取した地点の東に隣接する山林部において、縄文時代の遺物包含層と遺構推積土が確認された。遺物が出土した試掘溝はTP81、83、84、87の4ヶ所であるが、周辺の地形から判断して、北西-南東が60m、北東-南西が45mの拡がりを持つと予想される。



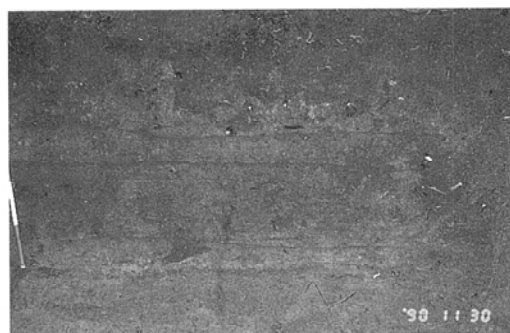
第31図 金俣 I 遺跡概要図



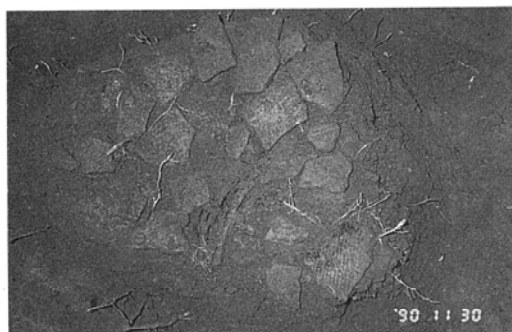
遺跡近景（南西から）



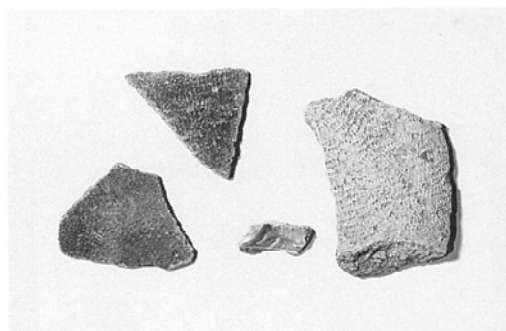
TP81土層柱状図



TP87土層断面



TP81土器出土状況（南から）



TP83出土遺物

(8) ^{かなまた}金俣K遺跡(平成2年度 新規発見)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字吉出字金俣

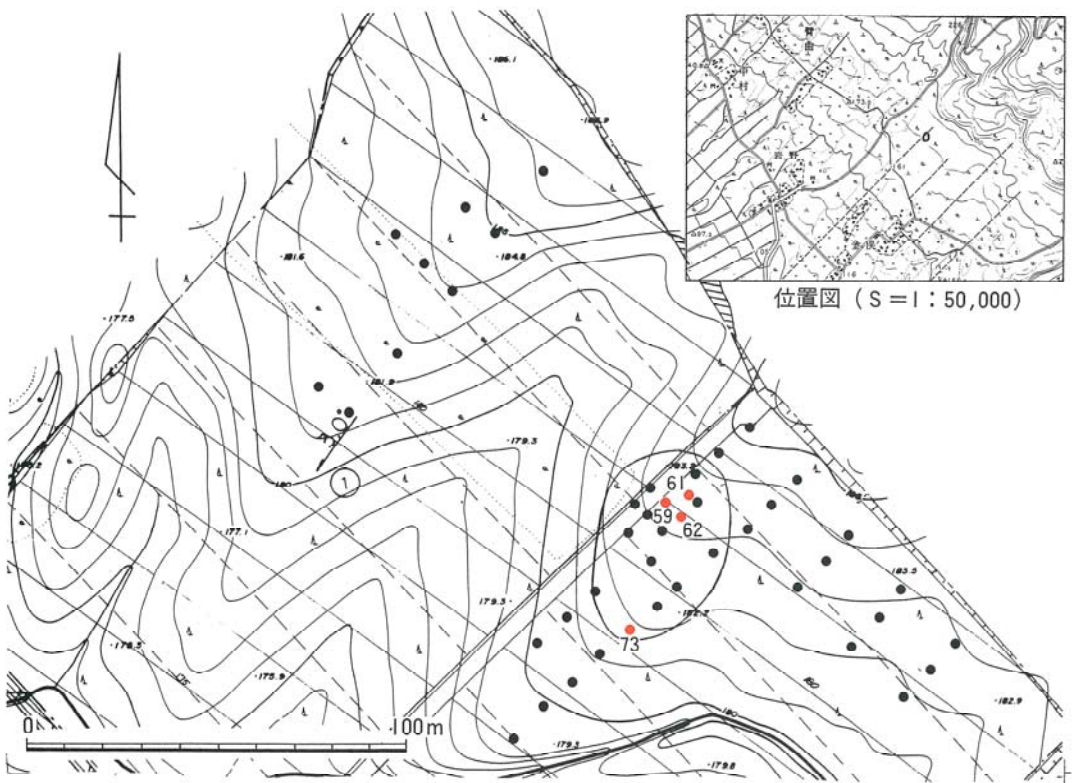
調査員 渋谷孝雄 長橋 至

調査期日 A調査 平成2年4月27日 B調査 平成2年11月27日～30日

調査の概要 遺跡はJR羽越本線遊佐駅の東北東6.1km、金俣集落の北東約750mに位置し、金俣I遺跡の東約100mの、南西に張り出す山麓緩斜面に立地する。地目は杉、松等の山林である。

本遺跡が発見された地区は、県教委が平成2年4月～6月に実施した、国営農地開発事業(鳥海南麓地区)の全団地の表面踏査によって、試掘調査で遺跡の有無を確認する必要があると認定された地区である。調査の対象地区は前述の金俣I遺跡で述べたが、金俣飛団地では2ヶ所の遺跡が確認されたことになる。

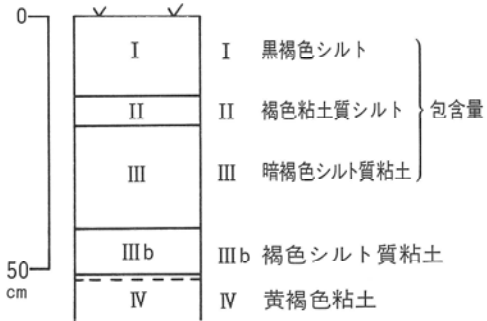
遺跡は南北約50m、東西約35mの拡がりをもつと考えられ、TP59のI～III層にかけて縄文土器片が出土し、TP59、61、62では柱穴と認められる土色変化を確認した。この付近では地表から遺構確認面までの深さは45～50cmを測る。また、TP73では、地表から20～25cmの位置で、炭化物を多量に含む暗褐色土の落込みを検出した。



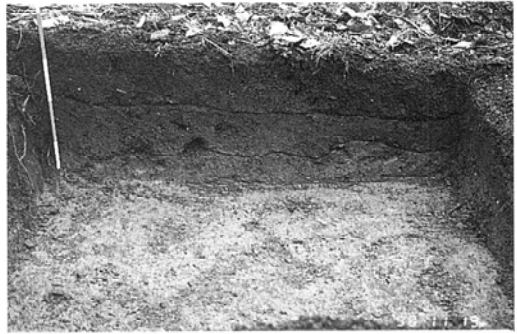
第32図 金俣K遺跡概要図



遺跡近景（西から）



T P 59土層柱状図



T P 59土層断面



T P 73遺構検出状況（北西から）



T P 59出土遺物

(9) ^{やまだて}山楯2～8遺跡(平成2年度 新規発見)

所在地 山形県飽海郡平田町大字山楯字北山

調査員 A調査 渋谷孝雄 B調査 名和達朗 眞壁 建

調査期日 A調査 平成2年6月13・14日 B調査 平成2年11月26日～12月7日

調査の概要 遺跡は、山楯地区東側に連なる丘陵上に位置する。丘陵面は、緩やかな尾根が広がり、杉林や雑木林等の景観を呈する。標高は、70～120mを測る。

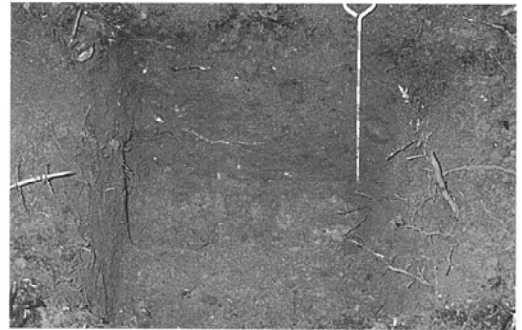
今回の調査は、国営農地開発事業・鳥海南麓地区(山楯工区)との調整に資するために行ったものである。

調査は、A調査の内容を基に遺物採集地点と遺跡立地推定地点について、1m方形の大ききで167ヶ所のB調査(試掘)を行った。その結果、山楯2～8遺跡の7遺跡が新規確認された。なお、山楯遺跡(遺跡番号 2297)を山楯1遺跡とする。

- 山楯2遺跡 包蔵地 縄文時代
- 山楯3遺跡 包蔵地 縄文・弥生時代
- 山楯4遺跡 集落跡 平安時代
- 山楯5遺跡 窯跡※ 平安時代(※ 以前に、伊藤安記氏が、確認された地点である。)
- 山楯6遺跡 散布地 縄文・平安時代
- 山楯7遺跡 集落跡 縄文時代
- 山楯8遺跡 集落跡 縄文時代・平安時代



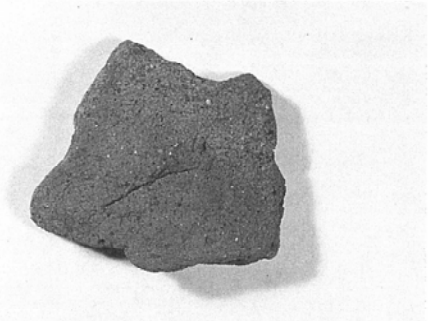
山楯2近景(東から)



TPI3土層断面

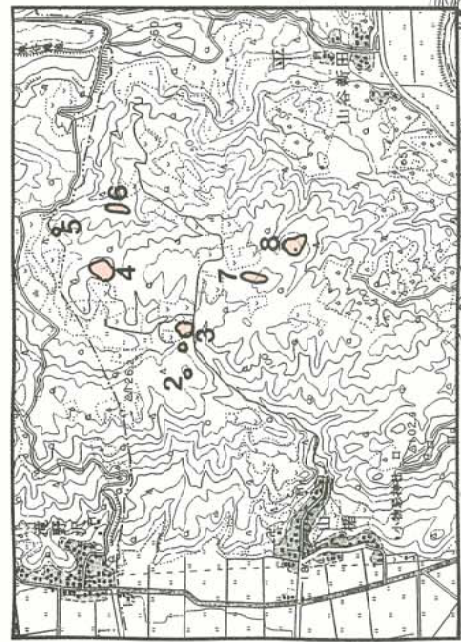


土層柱状図

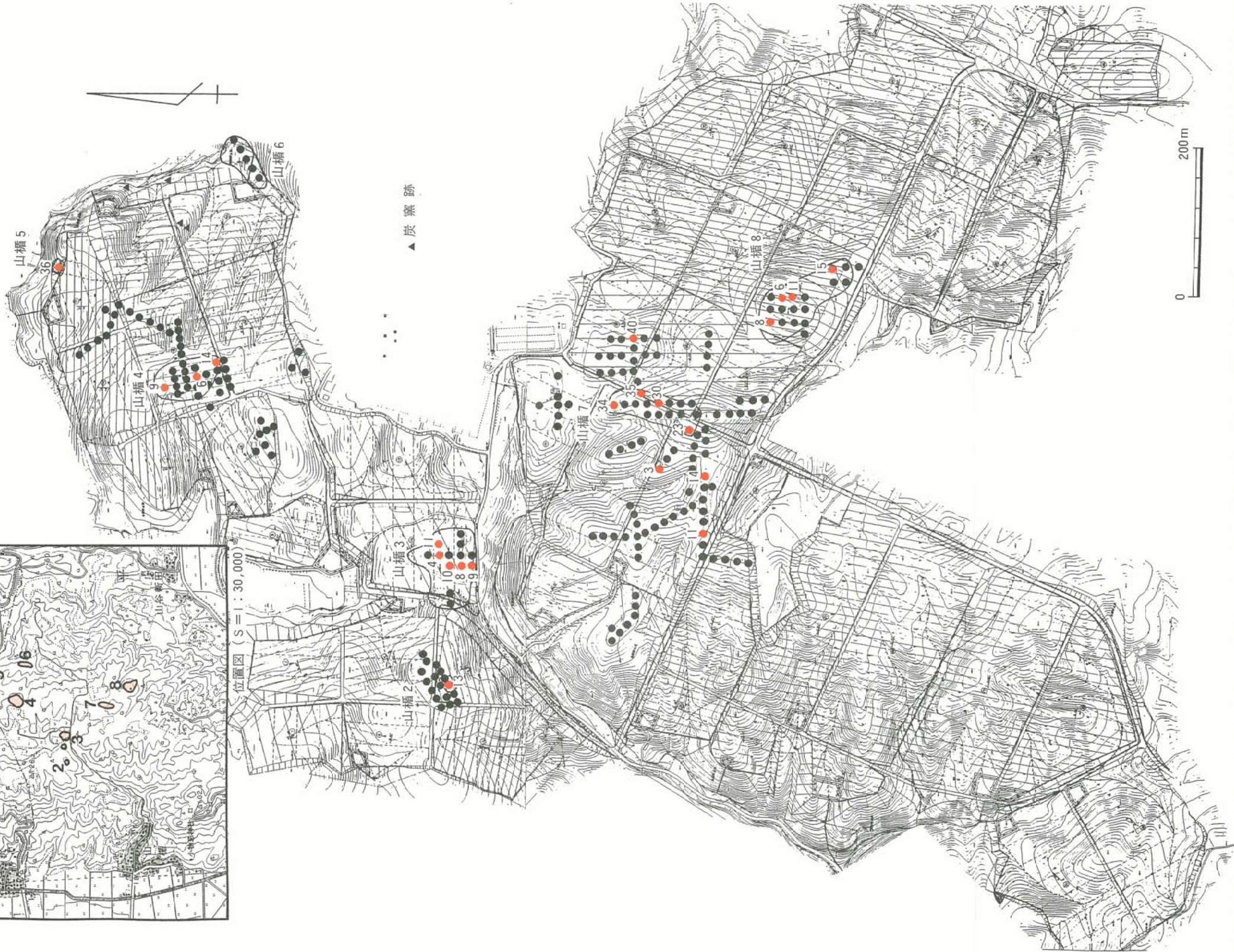


出土遺物

図版35 山楯2遺跡



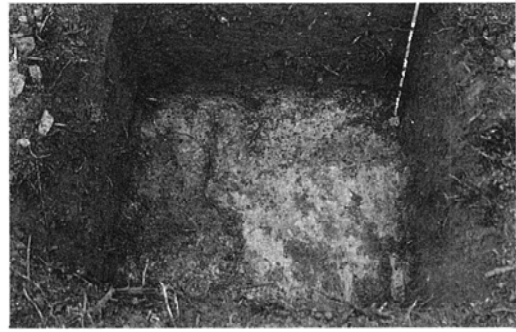
位置図 (S = 1 : 30,000)



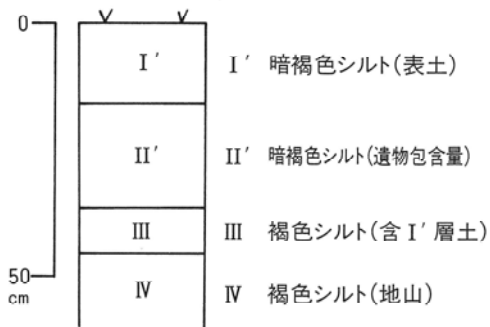
第33図 山楯 2 ~ 8 遺跡概要図



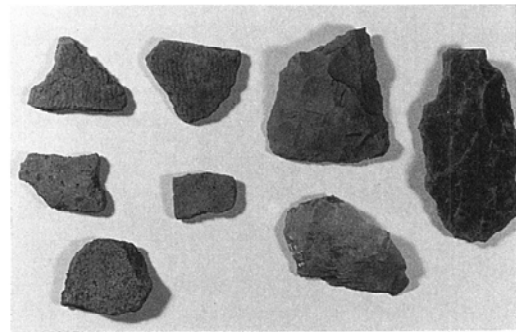
山楯3 近景 (南から)



TP4 土層断面



柱状図



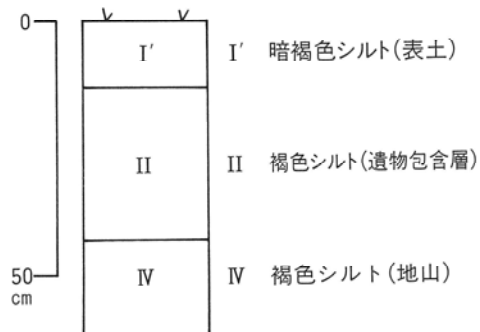
出土遺物



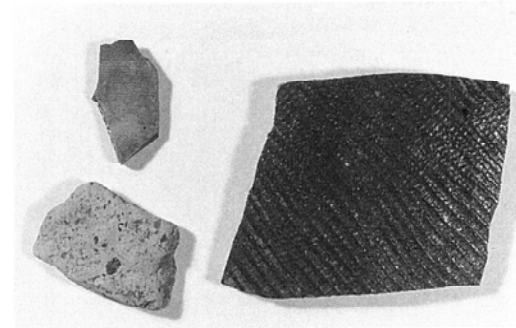
山楯4 近景 (北から)



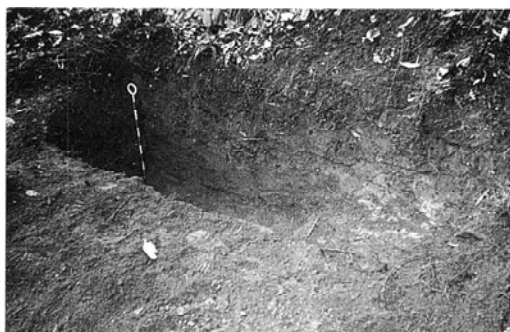
TP14 土層断面



柱状図



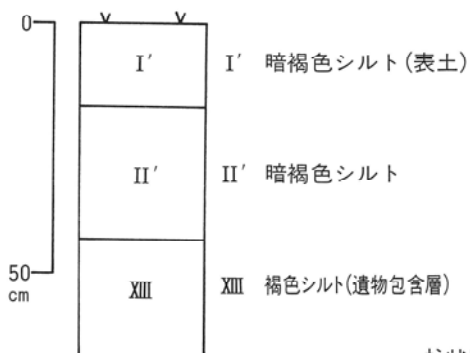
出土遺物



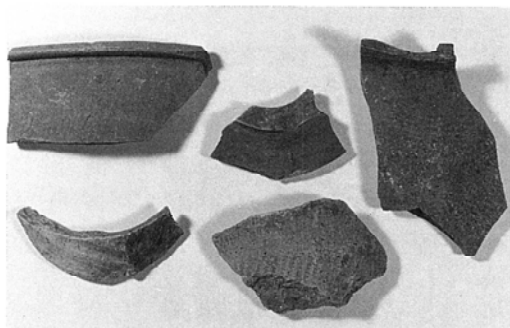
山楯5 TP36土層断面 (西から)



出土遺物



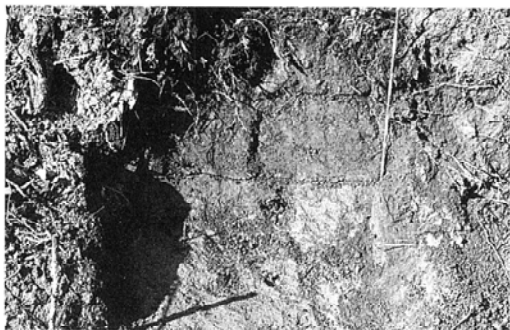
柱状図



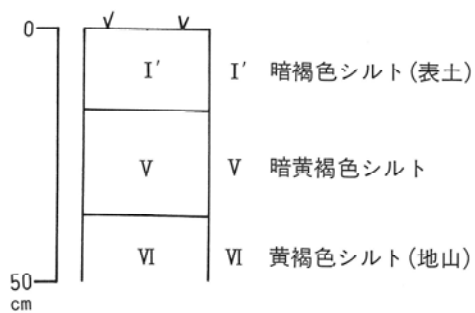
出土遺物



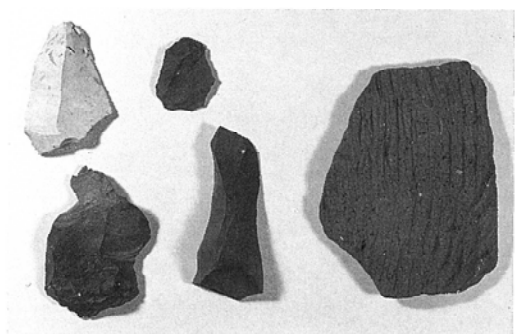
山楯6 近景 (南から)



TP2土層断面



柱状図



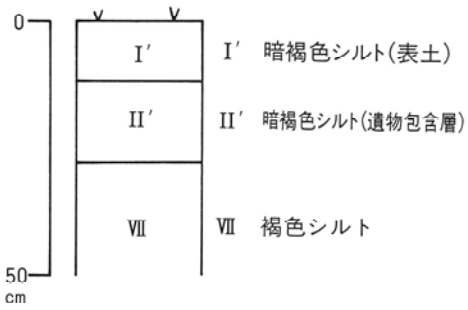
出土遺物



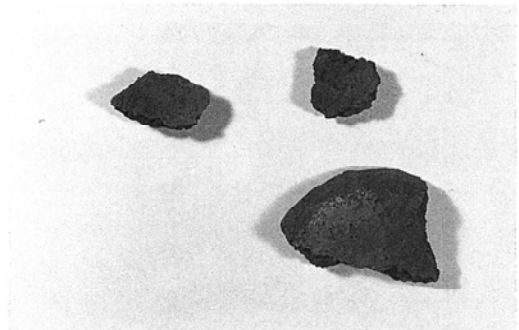
山楯7近景（西から）



TP34土層断面



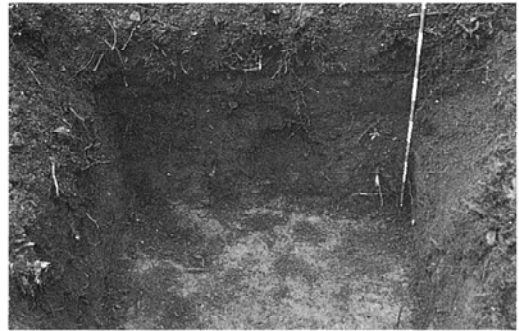
柱状図



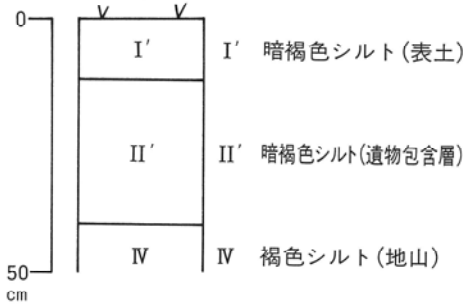
出土遺物



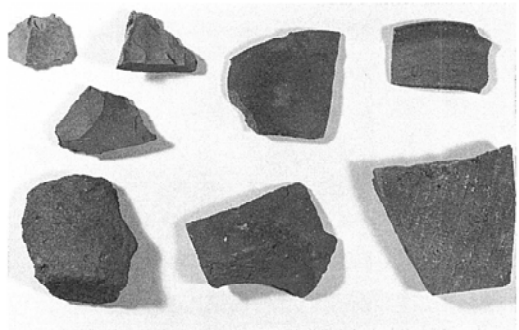
山楯8近景（北から）



TP6土層断面



柱状図



出土遺物

(10) ^{さんでん}三田遺跡(遺跡番号2127)

所在地 遊佐町大字吉出字三田・下長沢・扇田

調査員 阿部明彦・須賀井新人・眞壁 建

調査期日 平成2年10月16日

調査の概要 本遺跡は月光川右岸の自然堤防上に立地し、中吉出部落北側の水田中に広がっている。標高14mを測る。遺跡範囲は当初東西・南北共に250m四方と捉えられたが、遺物の集中域から東西90m、南北350mと考えられる。時期は平安時代である。

今回の遺跡詳細分布調査は平成3年度に実施予定の県営ほ場整備事業(月光右岸地区)との調整に資する目的から実施した主として遺跡域北辺を対象としたもので、事業実施予定地区内の試掘調査(B調査)、調査箇所30地点である。なお、昭和63年度12月に遺跡の主として南側を対象とした分布調査を実施し、220箇所の試掘坑のうち24箇所から遺構と遺物が検出された等の経過がある。従って、下図の遺跡概要図はこれらの結果をまとめて提示している。調査の結果、遺物の確認されたテストピットはTP15の1箇所、基盤層までの深さは表土下25cm前後とごく浅い。そこでは既に遺物包含層が失われており、後世の削平がかなり及んでいる様子と窺えた。また、遺物の表面散布状況は全体に散漫で、北西部分のややまとまった小散布地点が注意された程度である。

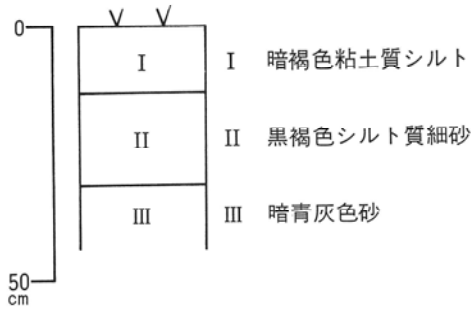


位置図 (S=1:50,000)

第34図 三田遺跡概要図



遺跡近景（東から）



TP 15土層柱状図



TP 15土層断面



TP 5土層断面



出土土器

ふくろすず
(11) 袋冷遺跡(遺跡番号2128)

所在地 山形県遊佐町大字吉出字袋冷・上長沢

調査員 阿部明彦・須賀井新人・眞壁 建

調査期日 平成2年10月15・16日

調査の概要 遺跡はJ R東日本羽越線遊佐駅の東方約1.5km、中吉出地区の北東に位置し、三田遺跡の東側に近接する。標高は15~17mを測り、地目は水田である。

今回の遺跡詳細分布調査は平成3年度に予定される県営ほ場整備事業(月光川右岸地区)との調整に資する目的から実施したもので、前回の昭和63年度12月に実施した調査範囲の北側(遺跡範囲の北辺域)を主な対象としている。調査では1×0.5mの試掘坑71箇所を設定して基盤層までの掘り下げを行い、うち14箇所から遺物を検出した。遺物の出土状況は表面での散布状況にほぼ整合し、調査対象範囲の北東部分に集中する在り方が窺える。

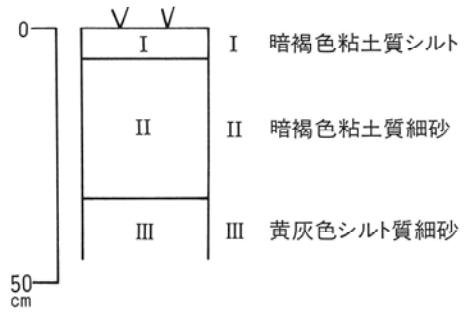
また、遺物包含層は田面下20~40cm深さの層序に認められ(II層)、平安時代の赤焼土器や須恵器等の包蔵が見られた。遺跡の範囲は南北方向250m前後、東西方向で350m以上程度の規模が推測される。以上のことから、本遺跡は平安時代の集落跡と考えられ、遺構・遺物の分布状態および、それらのまとまりから複数の集中地点により構成されると判断できる。なお、調査区域東端の水路付近から弥生土器(中期)1点を採集している。



第35図 袋冷遺跡概要図



遺跡近景（西から）



TP24土層柱状図



TP24土層断面



出土遺物



出土土器

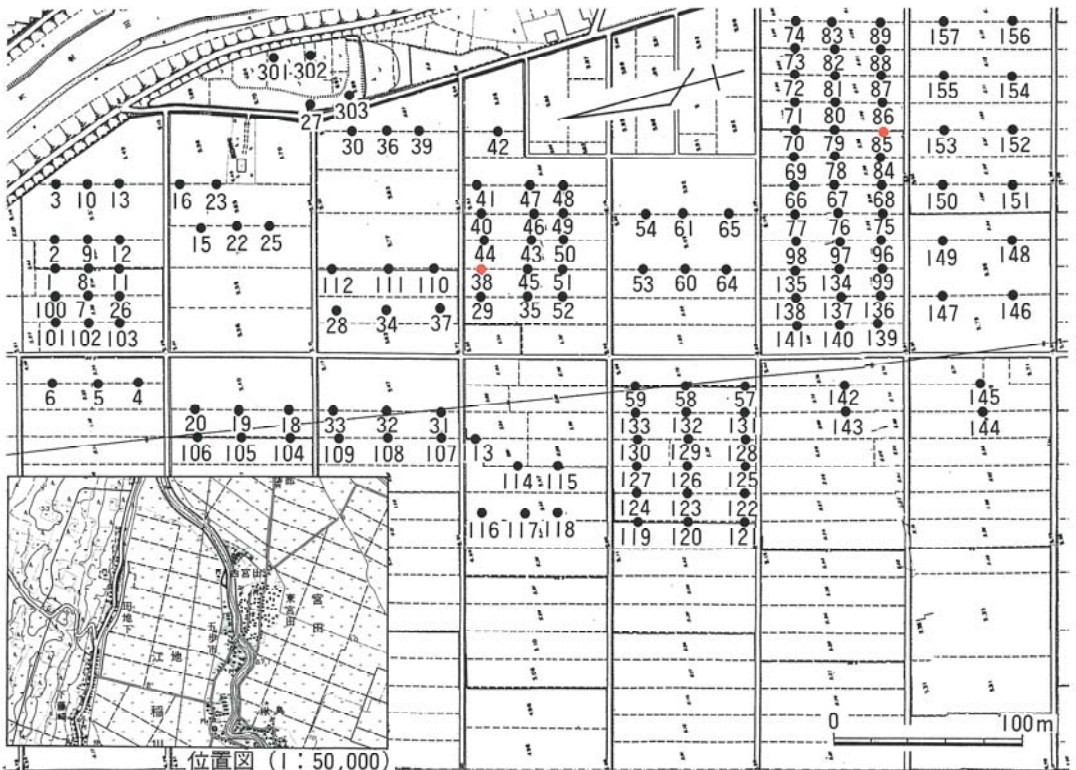
(12) ^{みやたたて}宮田橋跡(遺跡番号2197)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字宮田^{ほり}字^{うち}堀ノ内・^{ふるだて}古楯・^{きどぐち}木戸口・^{たて}楯ノ^{こし}越 他

調査員 阿部明彦 斎藤主税 須賀井新人 眞壁 建

調査期日 B調査 平成2年10月17日

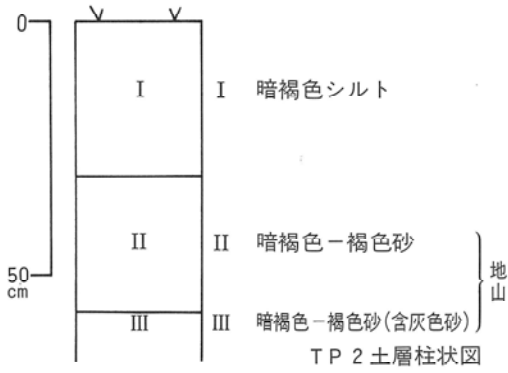
調査の概要 橋跡は月光川左岸、JR遊佐駅より北西約2kmにある水田に囲まれた宮田集落内に所在する。昭和30年代の河川改修で楯跡の中心部の大半が失われ、現在は僅に「堀ノ内」と呼ばれる東西37m・南北100m、水濠跡(現水田)に囲まれた部分(現畠地)が月光川堤防下に残るのみである。「堀ノ内」の北端には昔郭内にあったと伝えられる五輪塔がある。此度の調査は平成3年度実施予定の県営ほ場整備事業(月光川左岸地区)との調整に資する目的で行われた。集落西側の「堀ノ内」を中心として試掘坑143ヶ所を設定し調査した結果、遺構は全く確認できず遺物も須恵器・赤焼土器小片(TP38)、近世陶器小片(TP85)が数点出土したのみであった。しかし、「堀ノ内」とその近辺の水路では若干の珠洲系陶器片・赤焼土器片等が表採できた。以上のことから『字境界図』と併せ考えると、「堀ノ内」東側宮田集落中心部にのこる「古楯」・「木戸口」に城域の広がりやを推定可能であり、西側には田地名の多いことから水田地帯であったろう。宮田の南西にある市名「五分市」も中世宮田楯との関わりが窺われ興味深い。



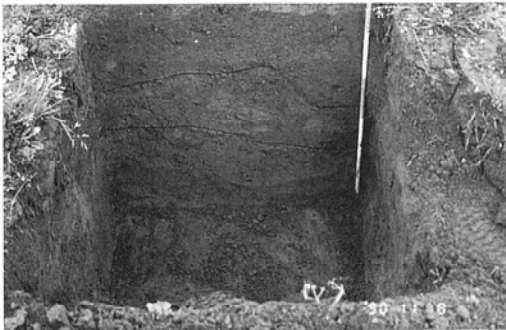
第36図 宮田楯跡概要図



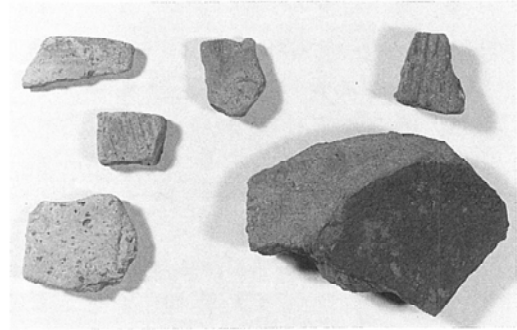
楯跡近景（南から）



楯跡近景（北から）



TP 1 土層断面



出土遺物

(13) 古屋敷遺跡(遺跡番号2136)

所在地 遊佐町大字吉出字古屋敷

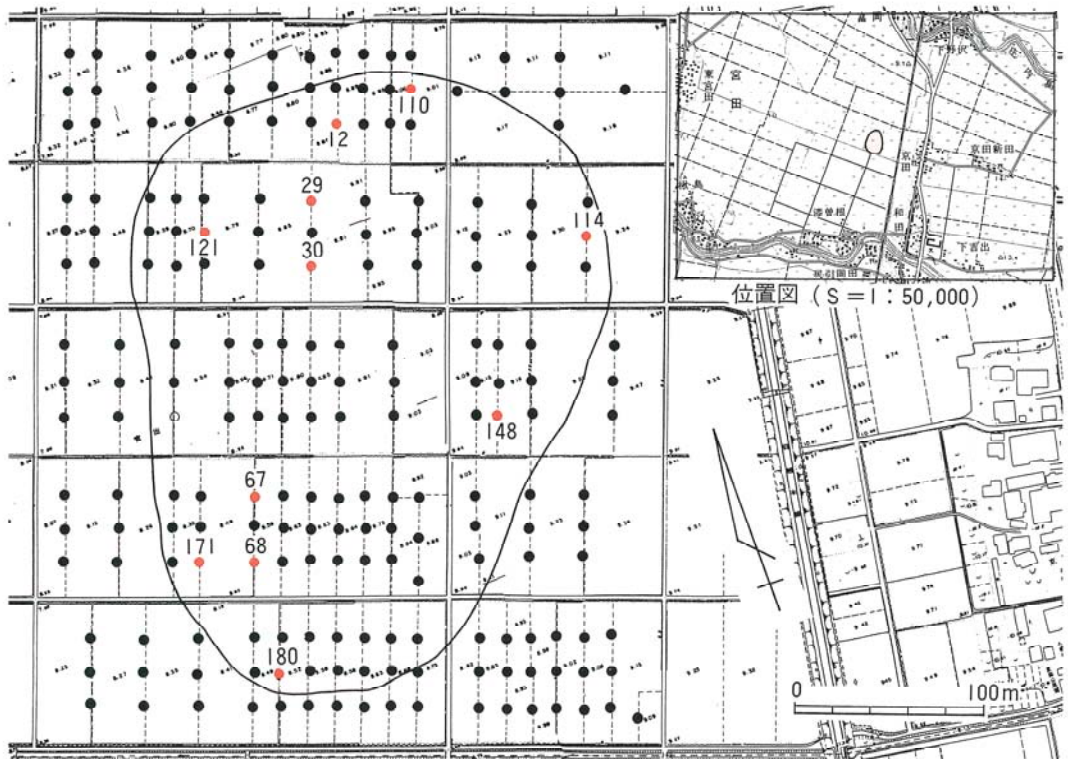
調査員 斎藤主税 須賀井新人

調査期日 平成2年10月23・24・26日

調査の概要 本遺跡は羽越本線遊佐駅の北方約1.3km、京田集落の西側に広がり、月光川と高瀬川にはさまれた羽越線沿いの水田中に位置する。標高は9m前後を測る。

今回の分布調査は、平成3年度に実施予定の県営かんがい排水事業(月光川地区)、および平成4年度以降に行われる県営ほ場整備事業(月光川右岸地区)との調整に資する目的から実施したものである。調査は平成元年度秋に行った表面踏査の結果をもとに、対象地区に205箇所の試掘坑(TP)を設定して、基盤層までの深さや層序、遺物の包含状況等を把握し遺跡範囲の確定を行った。

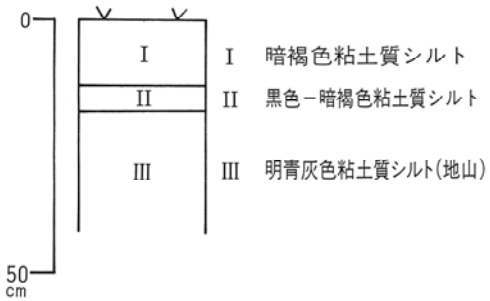
調査の結果、11箇所のテストピットより遺物が出土し、TP110から柱穴状の遺構を検出した。地山面(IV層)までの深さは表土下13~55cmで、その上面に10cm前後の遺物包含層が存在するが、後世の耕地整理により削平された箇所が多い。また、調査地区南東部は耕土下が泥炭質を呈するため基盤層が不安定である。以上の資料に基づき遺跡の範囲は、東西200m×南北300mに広がる規模と捉えられる。



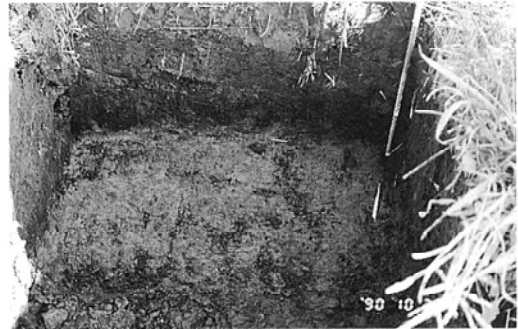
第37図 古屋敷遺跡概要図



遺跡近景（南から）



TP61土層柱状図



TP49土層断面



TP61土層断面



出土遺物

みずはら
(14)水原遺跡(平成2年度 新規発見)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字宮田字水原

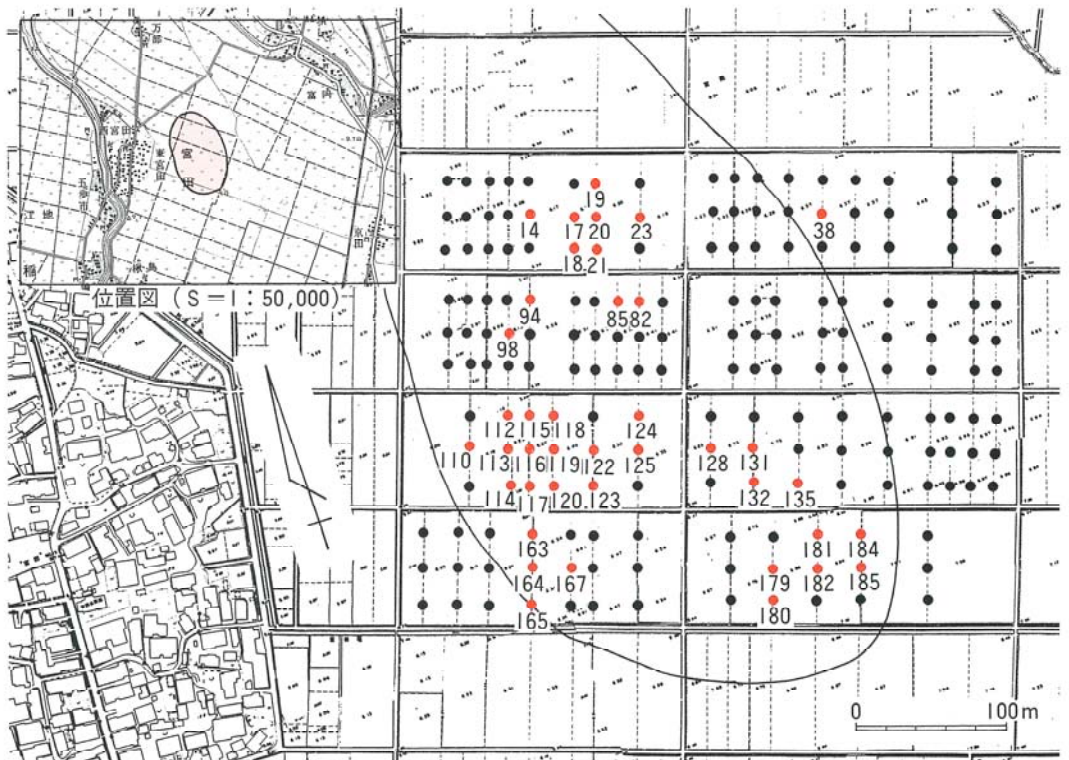
調査員 斎藤主税 須賀井新人

調査期日 A調査 平成2年10月16日 B調査 平成2年10月24・25日

調査の概要 遺跡は羽越本線遊佐駅の北西約1.5km、宮田集落の東側に位置する。標高は約6.5mを測る。

今回の分布調査は、平成3年度以降に予定される県営ほ場整備事業(月光川下流、高瀬川地区)区域および、県営かんがい排水事業(月光川地区)の実施予定地区についてA調査を行ったところ、宮田集落の東側水田に遺物の散布が広範囲に認められ、新規の遺跡として確認された。上記の開発事業との調整に資するため、翌週にB調査を行った。

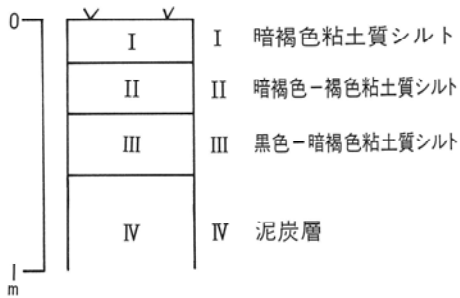
調査は、表面踏査で遺物が多量に確認された範囲(東西300m×南北400m)の水田畦畔を対象として、約50cm四方のテストピット189箇所設定し掘り下げた。その結果、39箇所のテストピットから遺物が出土し、TP23からはピット状の遺構も検出された。出土遺物は平安時代(9C~10C)の須恵器・赤焼土器を中心とするが、若干中世陶器(珠洲系他)も出土している。これまでの調査から本遺跡は、さらに北方に広がる可能性を有する平安時代の集落跡と考えられる。



第38図 水原遺跡概要図



遺跡遠景（東から）



TP 98土層柱状図



TP 98土層断面



出土遺物（須恵器）



出土遺物（赤焼土器）

(15) ^{くまでじま}熊手島遺跡(平成元年度登録)

所在地 山形県酒田市大字熊手島

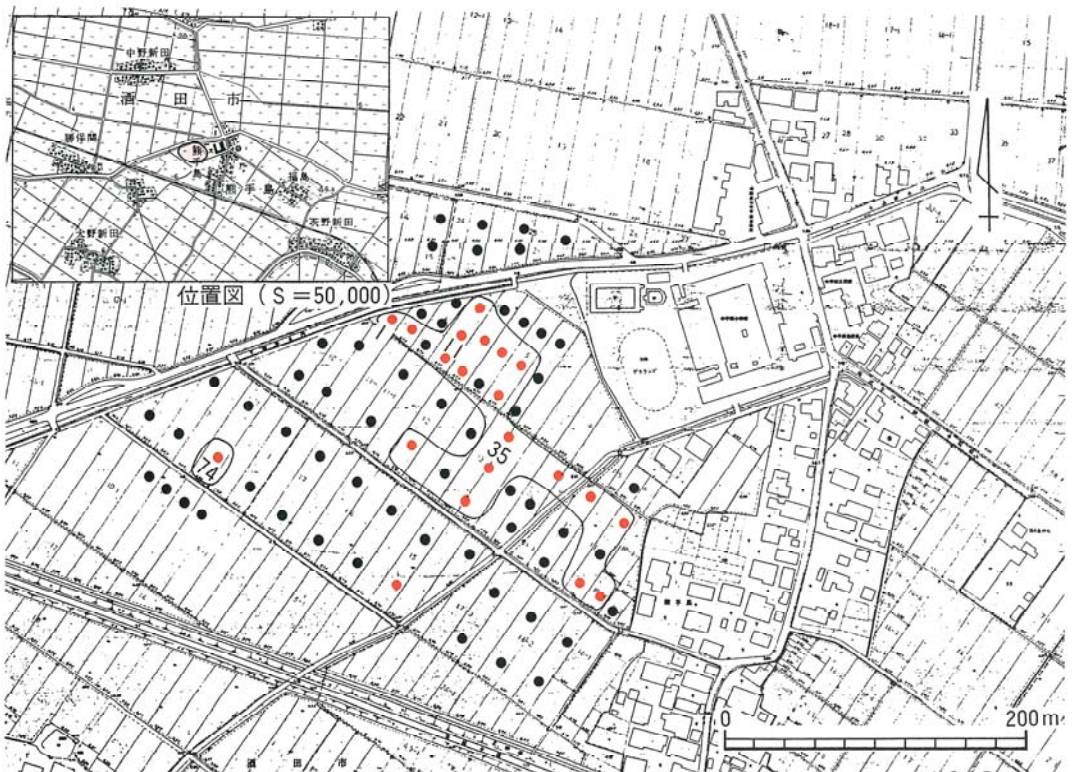
調査員 A調査 名和達朗 B調査 名和達朗 長橋 至

調査期日 A調査 平成2年10月15・16日 B調査 平成2年10月23・24日

調査の概要 遺跡は、酒田市熊手島地区所在の中平田小学校グラウンド西側一帯の水田に位置する。平成元年度の分布調査(A調査)で、平安時代の遺物散布が確認された新規発見の遺跡である。地形は、北及び西方に若干の傾斜を呈する沖積地で、遺跡の位置する範囲は少し高まりをもつ。標高は、4.7m前後を測る。

今回の調査は、平成3年度新規採択予定の県営ほ場整備事業・中平田西地区の計画に伴い実施したものである。

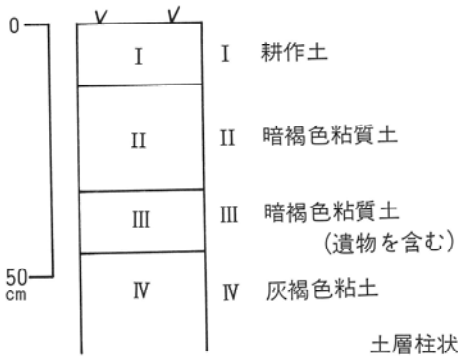
調査は、1m方形の大きさと事業実施計画範囲について81ヶ所の試掘を実施した。うち21ヶ所から遺物が検出され、深さは現水田面から25~30cm以上を測るものが多い。遺物は、TP11・35・74から比較的まとまった数量が出土した。TP11と35はグラウンド付近に近い場所であり、その一帯は試掘による遺物検出頻度の高い範囲である。TP74は、西側へ少し離れた場所で、周辺の試掘溝からも遺物の検出はみとめられず、地点的な確認である。出土遺物は、土師器・須恵器・赤焼土器である。



第39図 熊手島遺跡概要図



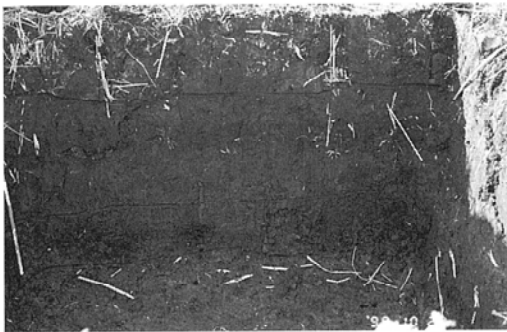
遺跡近景（南から）



土層柱状図



遺跡近景（南西から）



土層断面



出土遺物

(16) ^{さいかいぶち}西海淵遺跡(遺跡番号617)

所在地 山形県村山市富並字西海淵

調査員 阿部明彦・眞壁 建

調査期日 平成2年10月8日

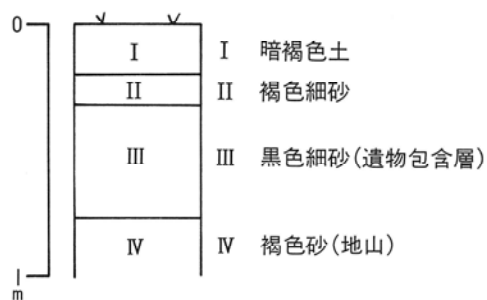
調査の概要 遺跡は富並川左岸の河岸段丘上に立地し、里部落北側、同中原部落西側の水田中に広がりを持つ。遺跡範囲は東西200m、南北230m程と推測されたが、このうち遺跡中心部と考えられる約10,000m²については平成2年度実施の県営ほ場整備事業(富並地区)に伴って発掘された。今回の分布調査は、ほ場整備事業が継続的に遺跡域の北側一帯へ延びる計画であることから、平成3年度予定事業と遺跡保護との調整に資する目的で行ったものである。従って、主たる調査の対象は既に発掘された調査区域の北側から当初遺跡北辺部と考えた地域、およびさらにその北東周辺域へと広げた範囲とし、そこでの遺構・遺物の所在を確認することが主眼となった。調査の結果、周囲より一段高い三角形に残る畑地部分の南側に良好な遺物包含層を確認し(TP1)、畑地北側および東側では基盤層が急激に下がって湿地帯となる様子等が捉えられた。すなわち、当初の推測通り遺跡北辺部分に当たることは確実である。但し、時期的には幾分後出のものが主体となるらしく、出土土器は殆ど大木9式前半期に属するものが中心であった。



第40図 西海淵遺跡概要図



遺跡近景（北から）



TPI土層柱状図



TPI土層断面



TPII土層断面



出土遺物

(17) 船見沢遺跡(平成元年度登録)

所在地 山形県酒田市飛島字勝浦甲

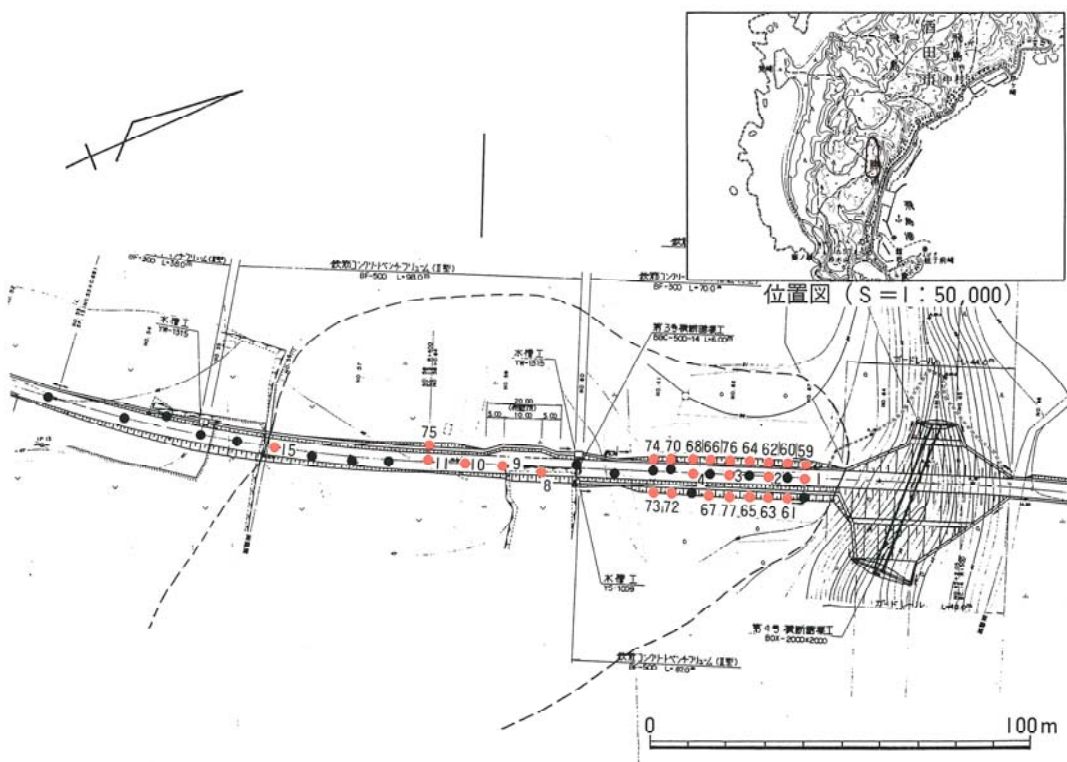
調査員 佐々木洋治 渋谷孝雄

調査期日 B調査 平成2年10月16・18日

調査の概要 遺跡は飛島港の定期連絡船発着所から北550mの標高48m台地上に立地する。遺跡の北を船見沢で限られ、南に隣接して葡萄崎遺跡がある。平成元年度の遺跡詳細分布調査で船見沢A、船見沢Bの二遺跡として登録したが、今回の試掘調査と表面踏査の結果から、連続する一遺跡として把握できたため、両者を一括して船見沢遺跡とする。

今回の調査は農免農道飛島地区が本遺跡内に建設されることとなったため、遺跡の範囲性格を明らかにして事業計画との調整を図る目的で実施した。路線は船見沢、葡萄崎、蕨山の各遺跡を縦断したり、接する状態で通過する予定となるため、船見沢から蕨山までの全区間に10~20mおきに試掘溝を設定して地山まで掘り下げた。また、情報の乏しい本遺跡では、この調査終了後に5mに1ヶ所の調査も行った。

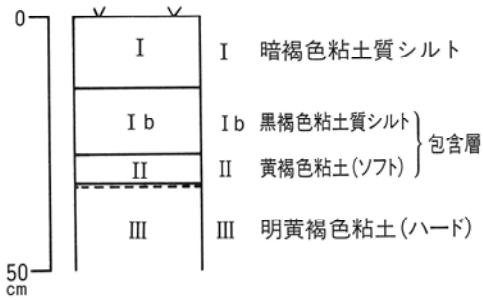
調査の結果、本遺跡内に設定した38ヶ所の試掘溝のうち25ヶ所で竪穴住居跡や柱穴等の遺構が検出され、縄文土器、石器等が出土した。路線にかかる部分は延長約150mで、約1,200㎡となる。このことから本遺跡は、縄文時代前期を中心とする集落跡と判明した。



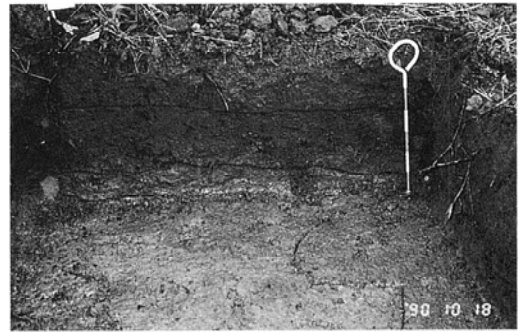
第41図 船見沢遺跡概要図



遺跡近景（南から）



T P 64土層柱状図



T P 64土層断面



T P 2 出土遺物



T P 62出土遺物

わらびやま
(18) 蕨山遺跡(遺跡番号 2703)

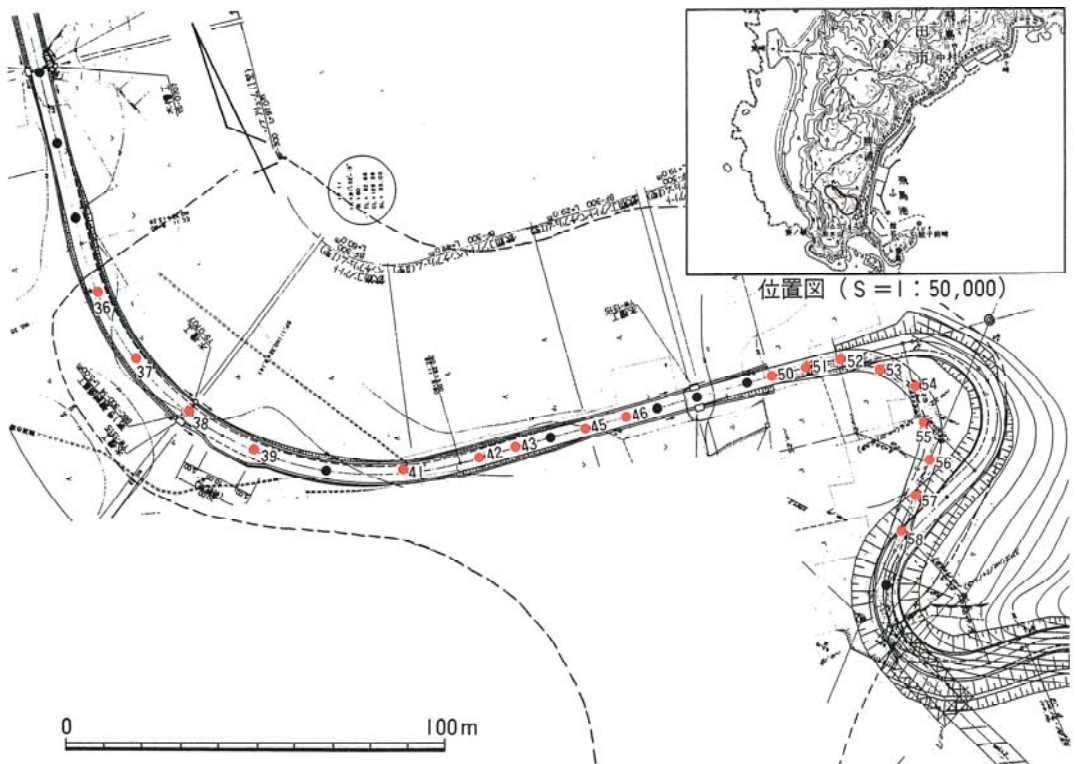
所在地 山形県酒田市飛島字勝浦

調査員 佐々木洋治 渋谷孝雄

調査期日 B調査 平成2年10月17日

調査の概要 遺跡は飛島港の定期連絡船発着所から西方200mの台地上に立地する。標高40mを測り、地目は畑地、荒蕪地である。本遺跡は昭和36年に柏倉亮吉氏を団長とする調査団によって発掘調査が行われ、縄文時代中期の大木76式、同筒上層6式、それに後期から晩期の土器が出土しており、柱穴も確認されている。現在でも夥しい土器、石器が散布しており、大規模な遺跡である様相を窺わせている。

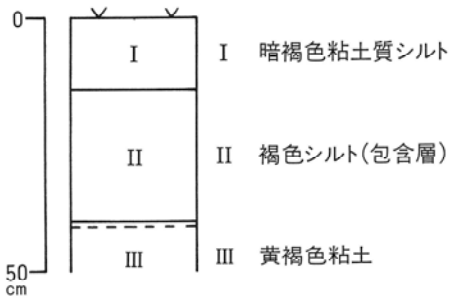
今回の調査は農免農道飛島地区の建設との調整を図る目的で実施した。船見沢から20mおきに実施した試掘調査では、飛島で唯一の流水のある宮谷の谷頭付近に設定したTP36(杭No33)から本遺跡の範囲内に入るものと考えられた。途中、一部地山までの攪乱が認められるものの、TP46付近まで縄文土器片・石器・剥片が数点出土し、TP50から58まではポリ袋1～3個の遺物が出土した。また、TP54では竪穴住居跡とみられる土色変化を確認し、TP36、38、41、50、54、57の各試掘溝では柱穴を検出した。縄文土器は大木8a式ほかの中期のものが多い。路線にかかる遺跡面積は約1,500㎡である。



第42図 蕨山遺跡概要図



遺跡近景（西から）



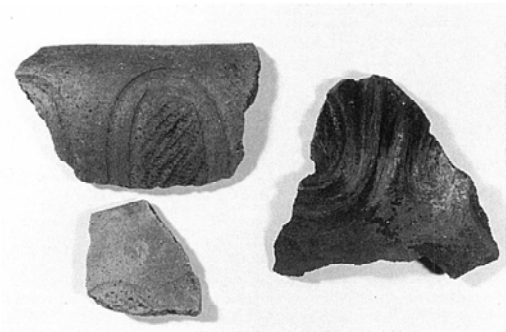
TP54土層柱状図



TP57土層断面



TP50出土遺物



TP54出土遺物

(19) ^{よこやま}横山遺跡(遺跡番号817)

所在地 山形県北村山郡大石田町大字横山

調査員 渋谷孝雄・阿部明彦

調査期間 平成2年12月10日

調査の概要 遺跡はJR東日本大石田駅の西方約2km、最上川左岸の横山部落から西方約1kmに位置し、標高は65~70mを測る。遺跡の立地する一帯は、東に向かう緩斜面が舌状に張り出す台地で、地目は畑地・杉林等である。

今回の遺跡詳細分布調査は平成3年度に予定される北村山地区広域営農団地農道整備事業との調整に資する目的から実施したもので、調査対象は農道新設予定地部分に限定した。

調査では農道新設予定地区内での遺構の分布・遺物の保存状況等確認から、計画のセンター杭を基準とする1×1mの試掘坑を17箇所設定し、うち16箇所について試掘している。

調査の結果、対象域のやや北東寄りに位置するTP13・II層から縄文土器の底部、炭化物などが検出され、散発的な土壌等遺構の存在が確認された。ただし、その他の試掘坑からは遺物および遺構の発見はない。

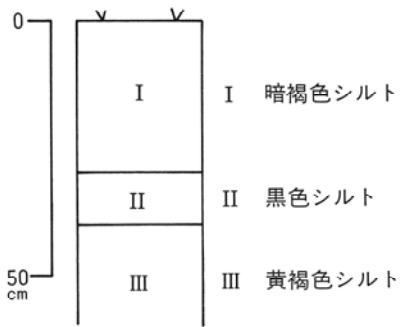
なお、試掘調査と並行して行った表面踏査から、舌状台地の先端より幾分か手前北西部分に主として平安時代にかかわる土器類の小散布地点が確認される。



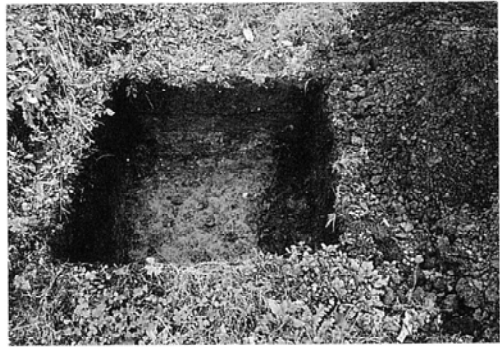
第43図 横山遺跡概要図



遺跡近景（東から）



TPII土層柱状図



TPII土層断面



TPI3土層断面



出土遺物

おしきり
(20) 押切遺跡(平成元年度登録)

所在地 山形県天童市大字高木字押切

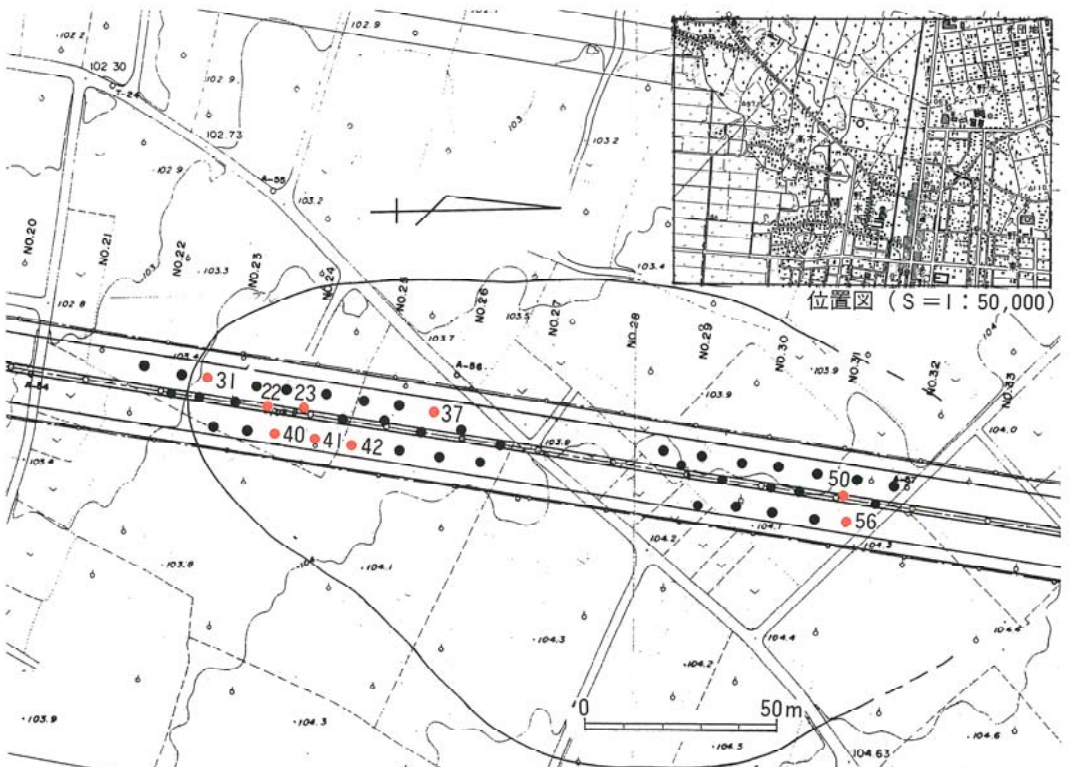
調査員 名和達朗 斉藤主税

調査期日 平成2年11月6・7日

調査の概要 天童市街北部は、乱川扇状地に入り、果樹畑地帯を形成する。遺跡は、平成元年度にこの一帯の分布調査(A調査)を行った際、平安時代の遺物散布が確認された新規のもので、同扇状地を西流する押切川左岸及び、JR奥羽本線西側の畑地に位置する。地形では、扇状地先端部付近に立地する。近くには、湧水との関連を示す古井戸の地名もみとめられる。標高は、104mを測る。

今回の調査は、この一帯に主要地方道山形天童線道路改良の計画が進められることに伴い実施したものである。

調査は、1m方形の大きさで計画路線幅について、45ヶ所の試掘を実施した。うち10ヶ所から遺構・遺物が検出され、深さは現畑地面から10~81cmと幅がある。遺構は、T P 56からピットが深さ22cmで検出された。遺物は、比較的南側に多く、T P 41で深さ46cm検出である。遺跡の範囲は、遺構・遺物の分布内容から、本遺跡の南に位置する古井戸遺跡と連続する可能性が考えられる。出土遺物は、土師器・須恵器・赤焼土器である。



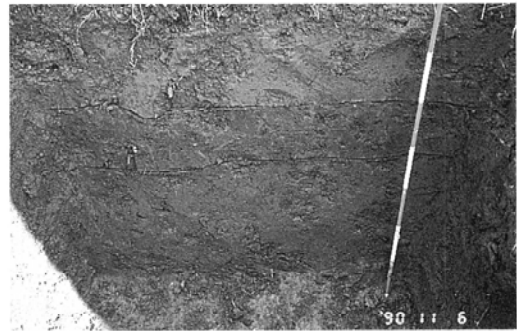
第44図 押切遺跡概要図



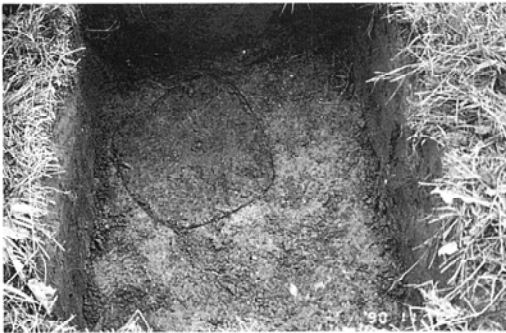
遺跡遠景（南から）



TP 39土層柱状図



TP 31土層断面



TP 39ピット検出状況



出土遺物

(21) 古井戸遺跡(平成元年度登録)

所在地 山形県天童市大字久野本字古井戸

調査員 名和達朗 斉藤主税

調査期日 平成2年11月5・7日

調査の概要 天童市街北部は、乱川扇状地に入り、果樹畑地帯を形成する。遺跡は、平成元年度にこの一帯の分布調査(A調査)を行った際、平安時代の遺物散布が確認された新規のもので、同扇状地を西流する押切川左岸及び、JR奥羽本線西側の畑地に位置する。地形では、扇状地先端部付近に立地する。古井戸の地名も湧水との関連が考えられる。標高は、102mを測る。

今回の調査は、この一帯に主要地方道山形天童線道路改良の計画が進められることに伴い実施したものである。

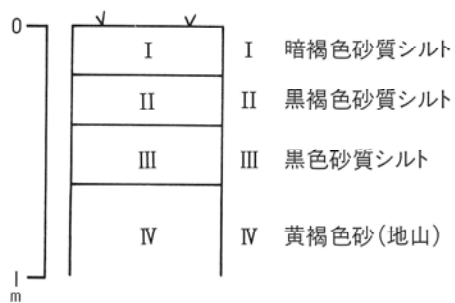
調査は、1m方形の大ききで計画路線幅について、18ヶ所の試掘を実施した。うち5ヶ所から遺物が検出され、深さは現畑地面から20~47cmを測り、TP2では、深さ20cmで検出された。本遺跡の北側は、押切遺跡に近接する位置にあり、また、試掘結果では、平成元年度のA調査で想定した範囲よりも少し北へ広がることから、両遺跡が同一遺跡にまともる可能性が考えられる。出土遺物は、須恵器・赤焼土器である。



第45図 古井戸遺跡概要図



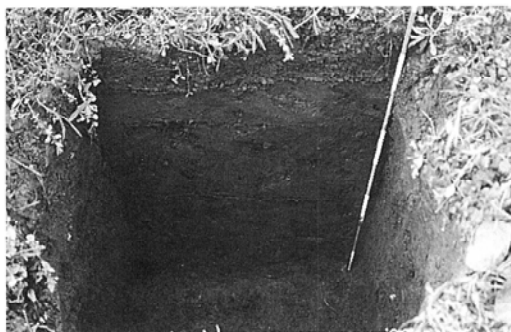
遺跡近景（北から）



TP 2 土層柱状図



TP 2 土層断面



TP 7 土層断面



出土遺物

ひらのやまこやあとぐん
(22)平野山古窯跡群第12地点遺跡(昭和63年度登録)

所在地 山形県寒河江市大字柴橋字高松、木ノ沢、西村山郡大江町大字柴橋字木ノ沢

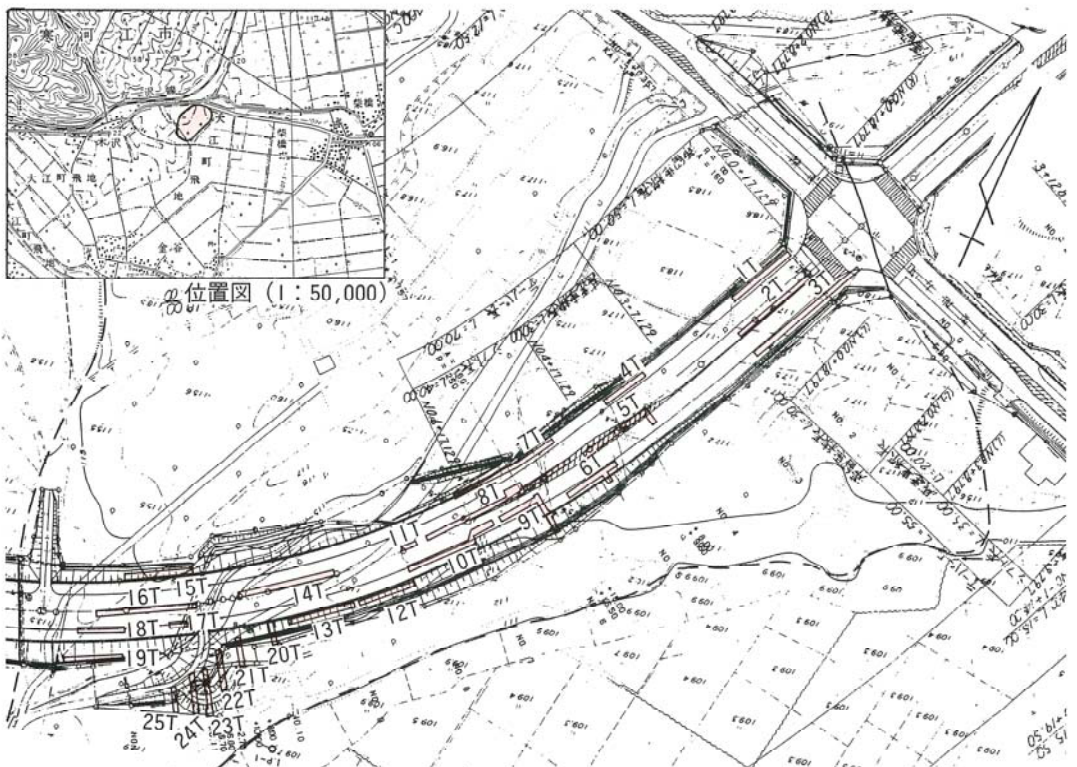
調査員 佐藤庄一、野尻 侃、渋谷孝雄

調査期日 B調査 平成2年4月19・20日 平成2年8月20～30日

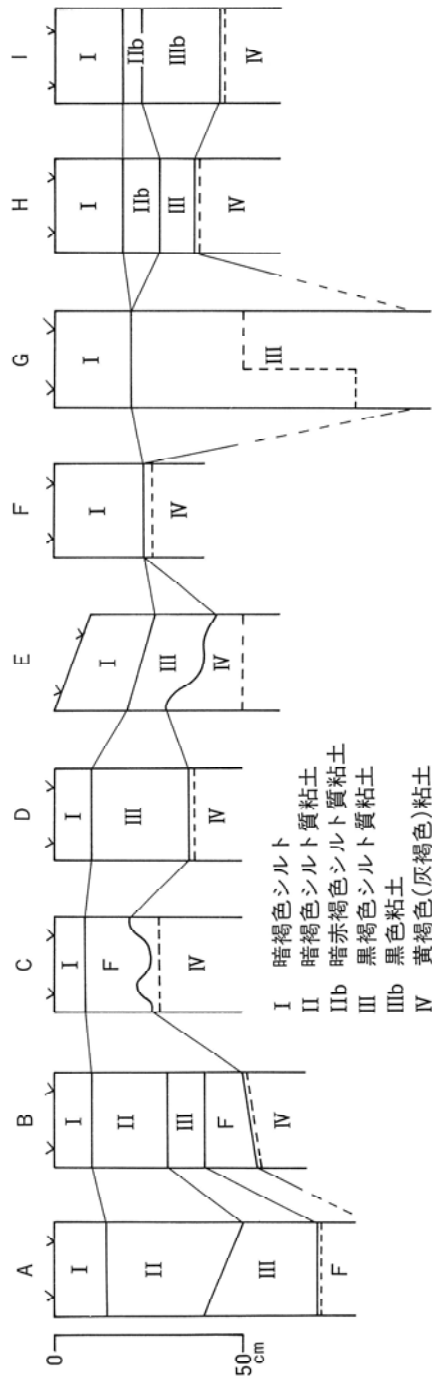
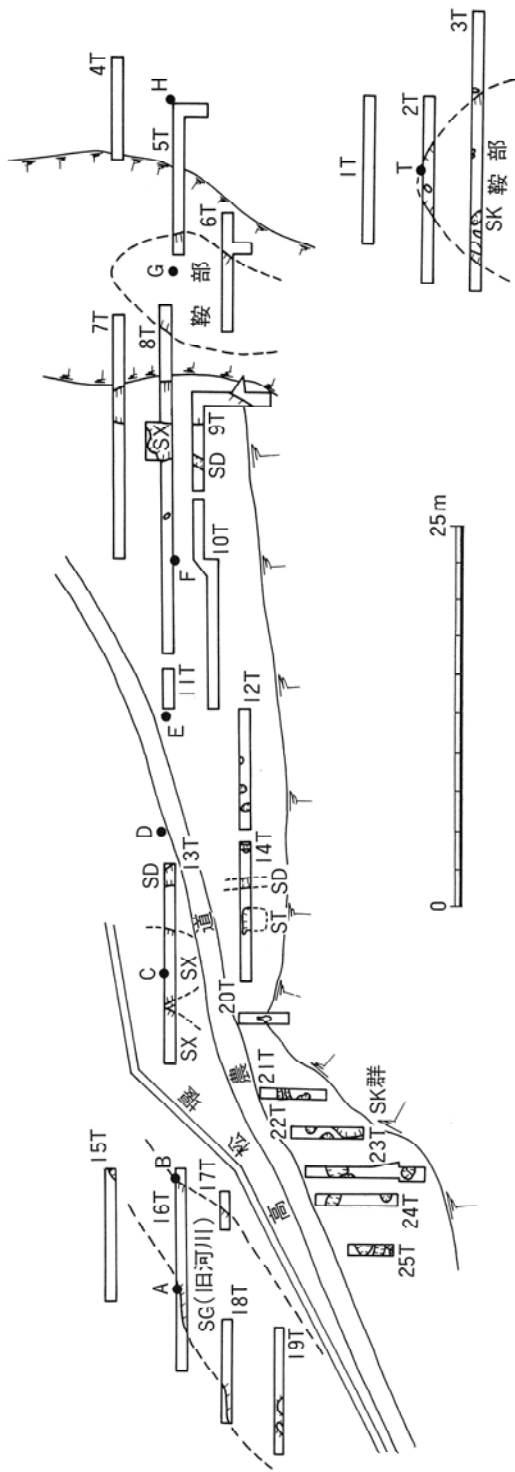
調査の概要 遺跡はJR左沢線柴橋駅の東方1.2kmに位置し、標高112～118mの丘陵に立地する。地目は果樹園、畑地、水田であり、遺跡内には、昭和2年に建立した「史蹟 祝部式土器窯址」の石碑が建てられている。

4月の調査は、国道287号道路改良事業との調整のため、1×1mの試掘溝19ヶ所を設定した調査で、そのうちの18ヶ所で遺構や遺物が検出された。この結果を踏まえて事業主体の山形県土木部と協議を重ねた結果、平成4年度に緊急発掘調査を行い記録保存とすることで合意したが、調査と工事の日程調整のためには、なお資料不足であった。このため、重機を投入したトレンチ調査で、路線内の遺構、遺物の分布状況をより詳細に把握する必要があると判断し、8月下旬の調査が実施された。

幅1.6mの25本のトレンチ調査で、遺跡北東部では粘土採掘坑とみられる土壌等が検出され、7～14トレンチでは竪穴住居跡等の平安時代の集落に関わる遺構が、そして、斜面部の20～25トレンチでは窯跡に関係する遺構が検出された。この他、河川跡も検出された。



第46図 平野山古窯跡群第12地点遺跡概要図



第47図 平野山古窯跡群第12地点遺跡遺構概略図、土層柱状図



遺跡遠景（南から）



1T~3T（北から）



3T遺構検出状況（北から）



4T~9T調査状況（南から）



6T調査状況（北から）

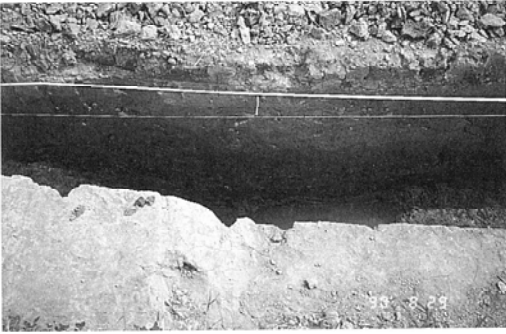
図版51 平野山古窯跡群第12地点遺跡(1)



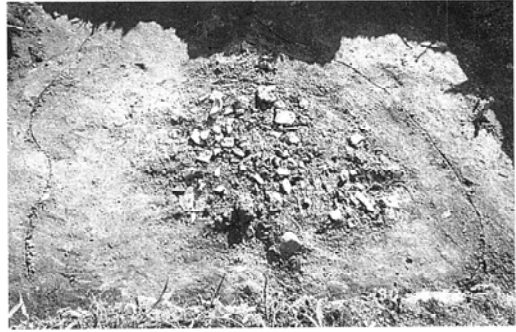
8 T, 10T 調査状況 (北西から)



13T 竪穴住居跡検出状況 (西から)



16T 旧河川跡調査状況 (西から)



23T 土壌検出状況 (北から)



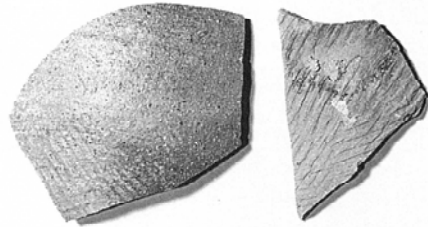
25T 遺構検出状況 (東から)



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)



出土遺物 (3)

(23) ^{たかはた}高島城跡(昭和63年度登録)

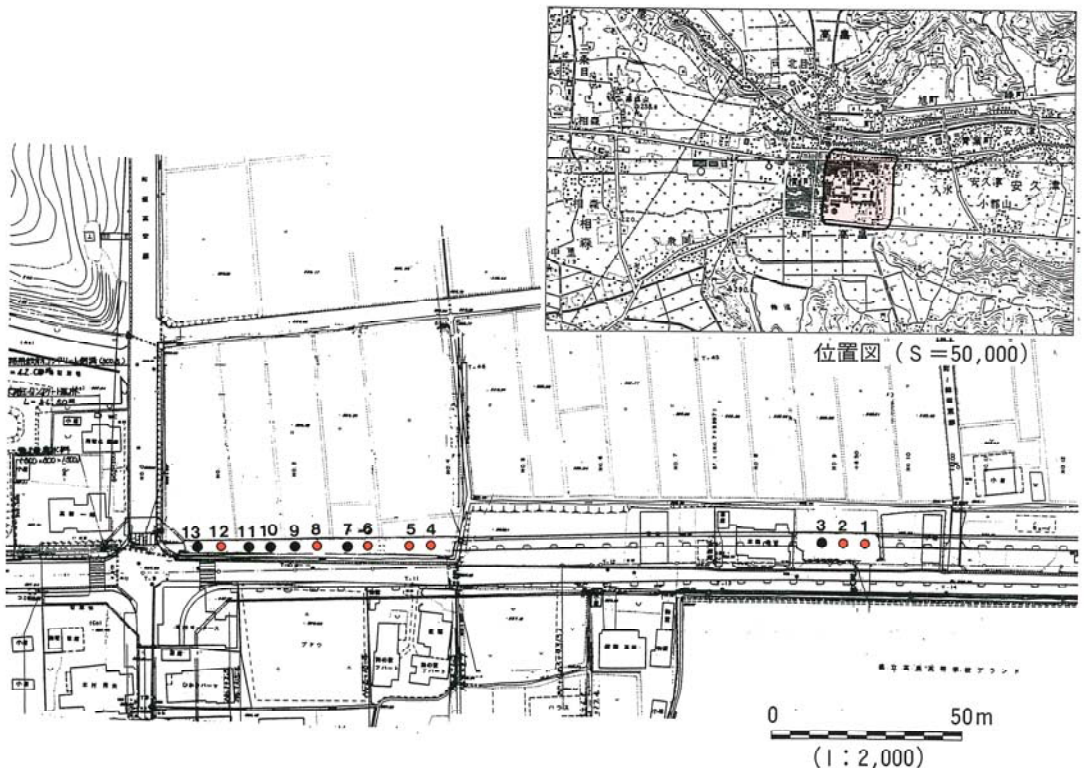
所在地 山形県東置賜郡高島町大字高島

調査員 佐藤庄一・安部 実

調査期日 B調査 平成2年11月15日

調査の概要 遺跡は昭和53年作成の県遺跡地図には記載されなかったが、昭和63年度の分布調査報告書(16)に城館跡として登載された。城は承安年間(1171年～)築城と伝えられ、高島小学校を中心とした城域はつり鐘状の道路として残っている。

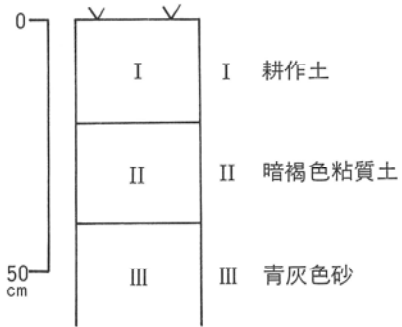
今回の試掘調査は国道399号改良工事との調整に資するためにおこなった。調査は1×2m矩形の試掘穴を13箇所ほった。試掘坑1・2・4～6・8・12の7箇所で遺物の出土があった。遺物は縄文時代の土器と石器、奈良平安時代の土師器と須恵器、時期不明の磁器である。TP10～12の南端で溝状遺構と考えられる落ち込みが確認された。土層の堆積状況は試掘坑ごとに異なり、安定した堆積状況ではない。今回調査した地区では高島城跡の時期を示す遺構と遺物は検出されなかった。近辺の水田は昭和43年頃に耕地整理が行われたという地元民の話であった。しかし試掘坑の土層観察によれば、上面20cmほどの耕作土以下の人為的土砂の移動は観察されなかった。相田兼男氏の宅地脇の池を掘る際に土器類が出土したそうであり、実見の結果は須恵器の坏であった。



第48図 高島城跡概要図



高島城跡近景（東から）



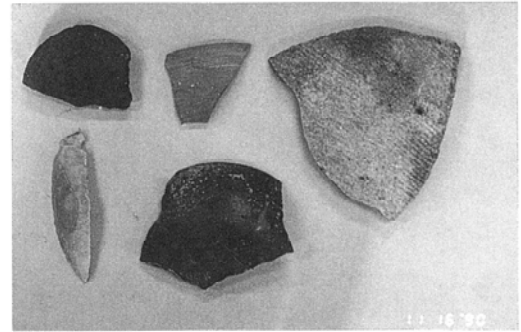
土層柱状図



TP10土層断面



TP12土層断面



出土遺物

つみだ
 (24) 堤田遺跡(平成元年度登録)

所在地 山形県西置賜郡小国町大字足野水字堤田

調査員 渋谷孝雄

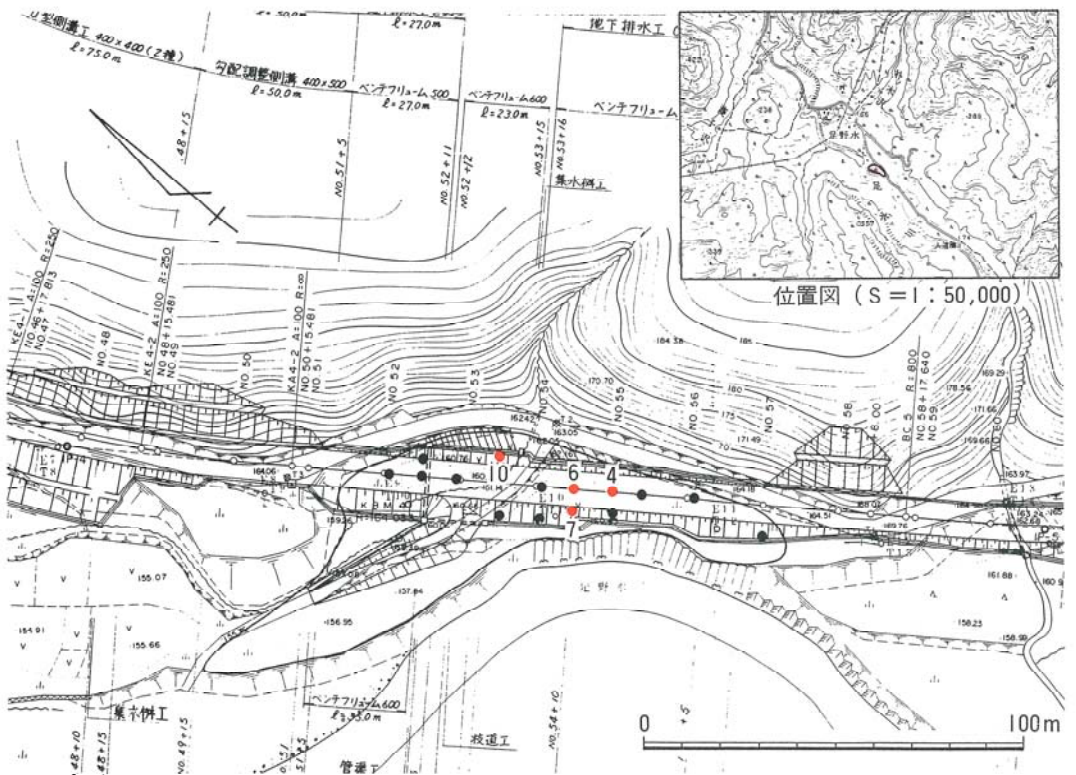
調査期日 B調査 平成2年12月4日

調査の概要 遺跡は足野水集落の南東約300mに位置する。足野水川の右岸段丘上に立地し、地目は畑地、荒蕪地となっている。平成元年度の遺跡詳細分布調査において、縄文土器片、石器の散布が確認され、登録された。

今回の調査は県道下新田・土尾線の凍雪害防止工事により、本遺跡の北東部が路線に入ることとなったため、事業計画との調整を図る目的で実施した。

遺跡の範囲は地形的にみて、東西160m、南北15~40mの狭い範囲内に限定される。試掘調査は計画路線内に合わせて15カ所を設定し、地山まで掘り下げて遺構の検出と遺物の採取を行った。

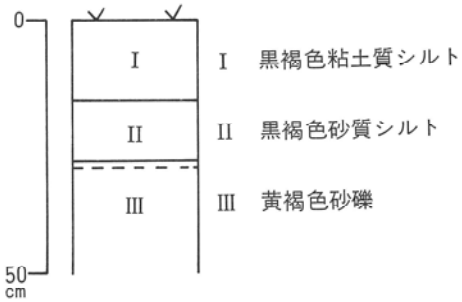
調整の結果、TP4で剥片が1点、TP6で縄文前期の土器片がポリ袋に1個出土し、TP7で溝状遺構、そしてTP10で竪穴住居とみられる土色変化が確認された。遺構確認面である地山までの深さは15~22cmと浅く、土器が出土したTP6では層厚16cmの表土直下に厚さ12cmの包含層が認められたが、その他の試掘溝では明確な包含層はなかった。



第49図 堤田遺跡概要図



遺跡近景（西から）



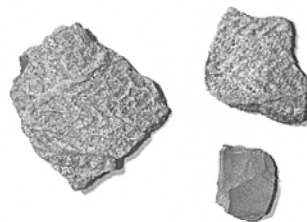
TP6 土層柱状図



TP6 土層断面



TP10遺構検出状況（南から）



出土遺物

からすかわ
(25) 烏川 1～5 遺跡群 (平成 2 年度 新規発見)

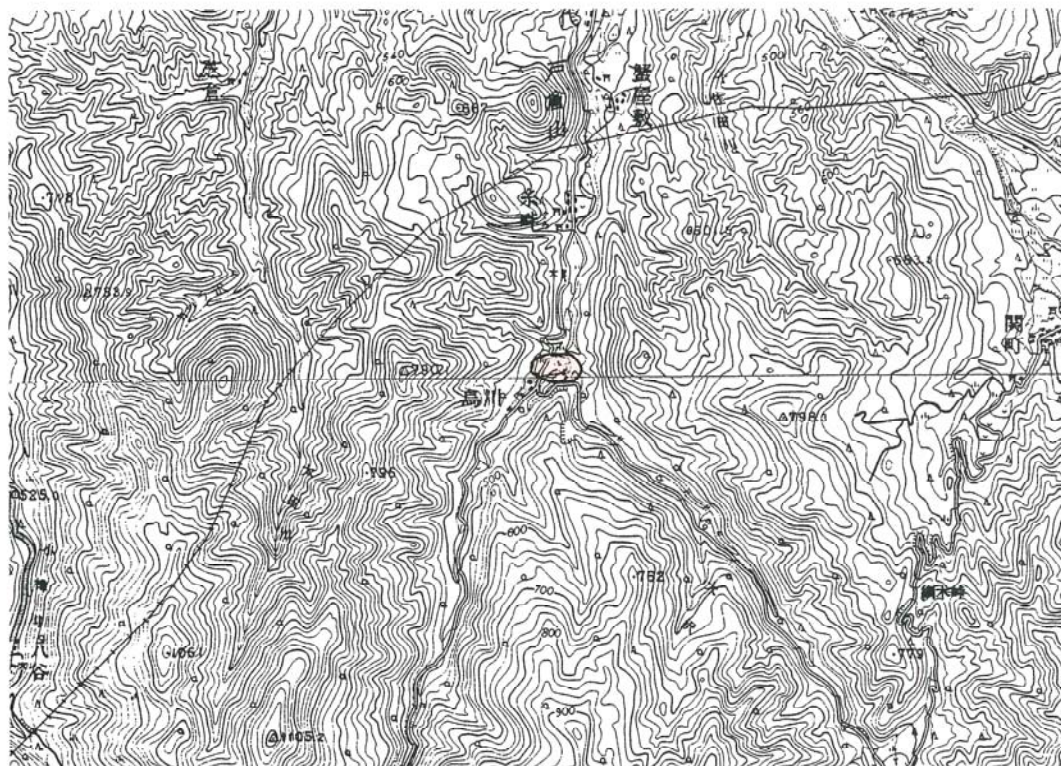
所在地 米沢市大字梁沢砥沢・烏川北・古壇・糸畔向

調査員 阿部明彦・須賀井新人

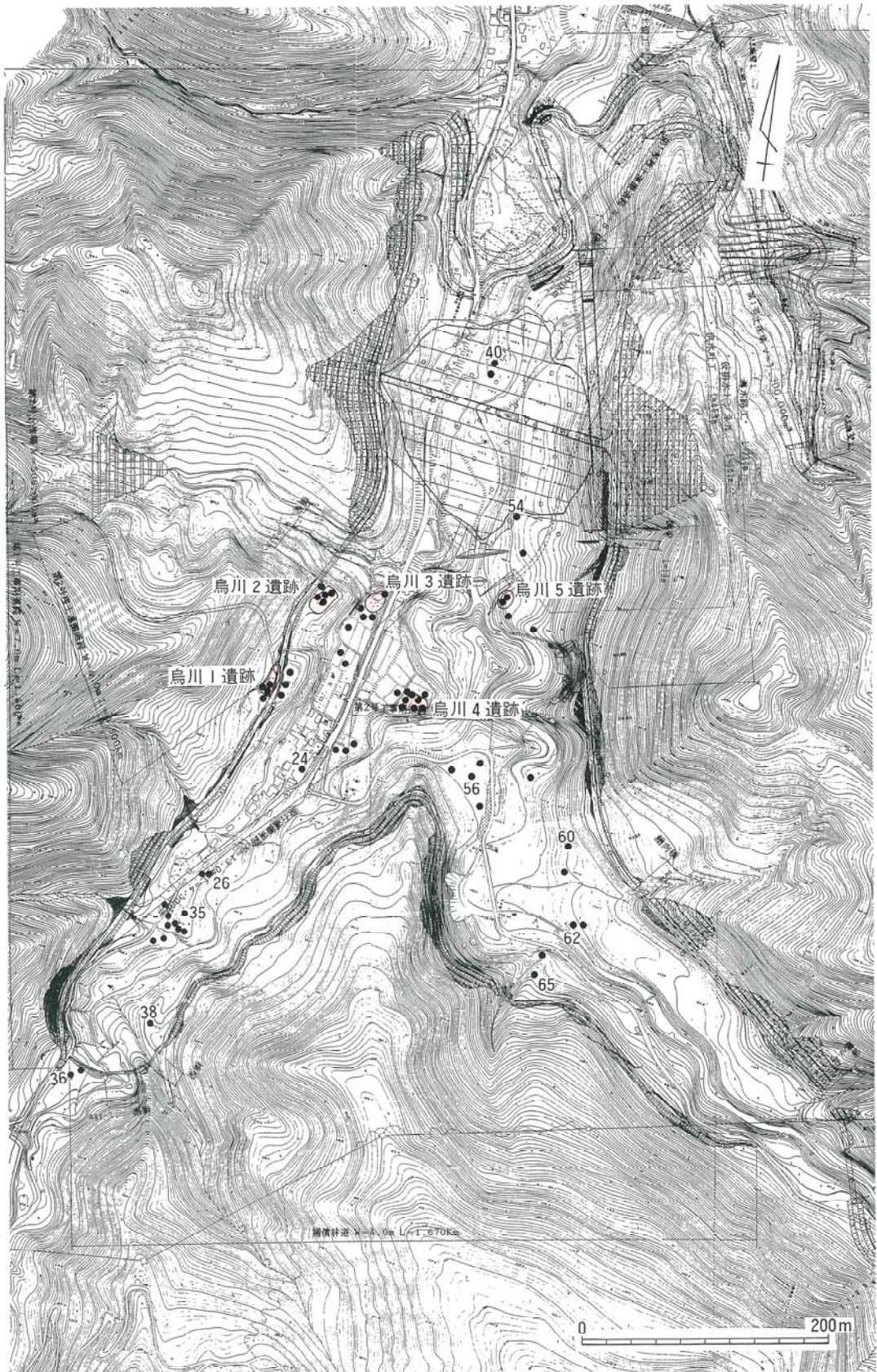
調査期日 平成 2 年 11 月 5～16 日

調査の概要 米沢市大字梁沢字烏川地区は米沢市街の南南西約 10km、綱木川と烏川の合流する谷あいの地域である。この狭隘な河岸段丘ペリの山裾に茅葺の曲屋や小さな田畑がはりつく典型的山村の一帯に、最上川水系鬼面川総合開発計画の一環として多目的ダム「綱木川ダム」の建設が計画され、平成 2 年度から本格的に着手された。そのため、山形県教育委員会では事前に事業側と調整を行って、遺跡保護に資する目的から遺跡詳細分布調査を重ねたところである。しかし、集落周辺の一部を除いては大方が山林や荒地となっていたため、通常の分布 A 調査 (表面踏査) だけではその所存把握が不可能であり、地形等から判断される適地を順次試掘する方法で、対象地区内で遺跡存否を確認する手だてとした。試掘箇所は合計で 65 箇所である。

調査の結果、集落側にある烏川左岸の高・中・低位の各段丘面に 4 地点、およびその対岸の低位面に 1 地点の計 5 地点の遺物包蔵地を確認した。これらはいずれも新規発見遺跡である。以下では、これらを烏川 1～5 遺跡と各命名して概要を記す。



第50図 烏川遺跡群位置図



第51図 烏川遺跡群全体図

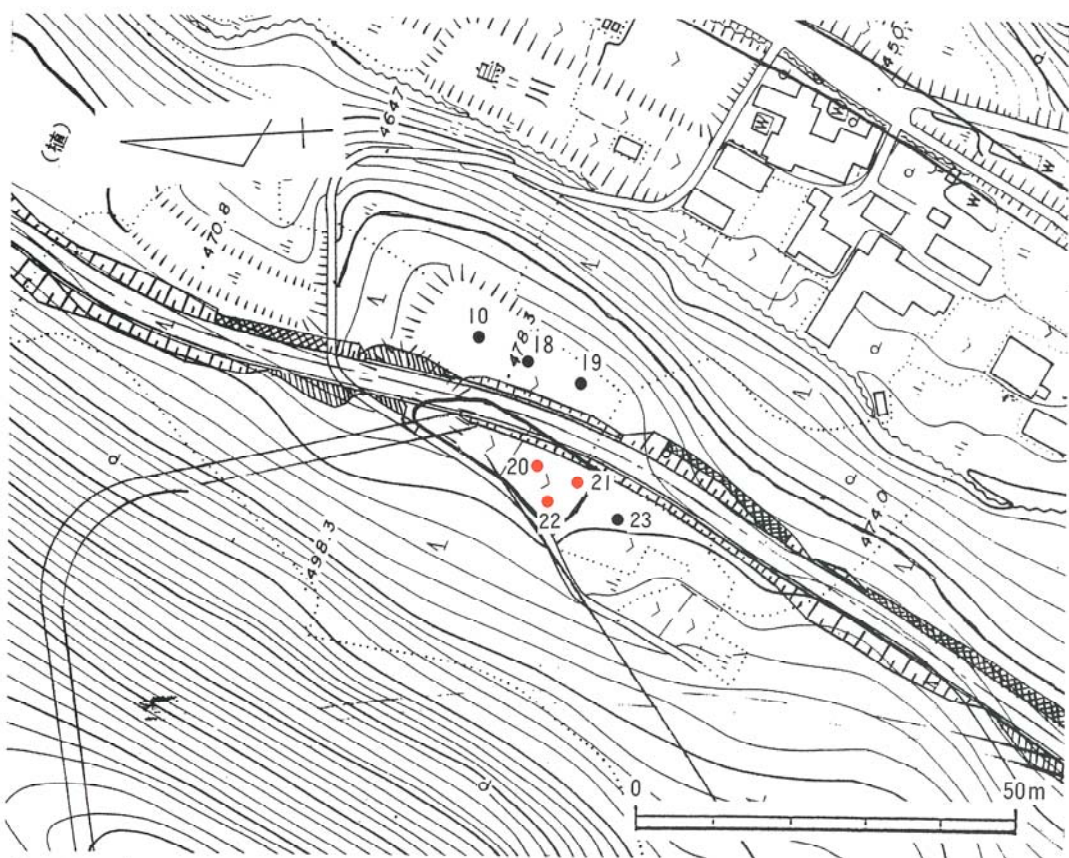
烏川1遺跡 大字梁沢字砥沢の高位段丘上に立地し、3箇所のテストピットより遺構・遺物を検出した。範囲は地形的要因から小規模で東西10m×南北20m程と考えられる。時期は土器等の出土がなく不明であるが、剥片等から見て縄文時代の所産と推測される。

烏川2遺跡 大字梁沢字砥沢に所在、沢によって解析された高位段丘北東端部に立地する。範囲は烏川1遺跡同様小規模で、東西12m×南北24m程と捉えられる。時期は腐植土直下出土の土器等から縄文時代前期前葉期(大木2b式)と判断される。

烏川3遺跡 大字梁沢字烏川北に所在、中位段丘に立地する。位置的には烏川2遺跡の直下にあたり(標高450m)、比高差28mがある。遺物は石器剥片5点および表採品の石器剥片3点に限られ、土器の出土はない。範囲は東西13m×南北17mとごく小規模である。

烏川4遺跡 大字梁沢字古壇に所在、低位の東に張り出す段丘端部に立地している。試掘により台地先端部分のテストピットから縄文時代後・晩期の土器類を比較的多く検出できたが、一帯は開田時のブルドーザーによる削平が著しく、かなりの範囲で削平を受けた模様である。範囲は他の地点同様東西18m×南北15m程度と極めて小規模である。

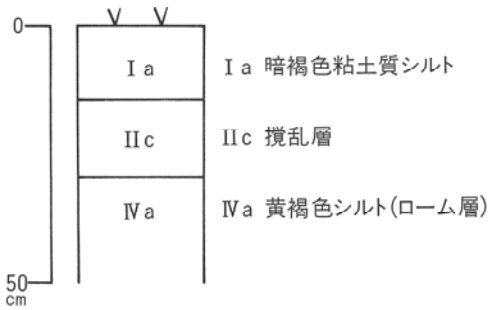
烏川5遺跡 大字梁沢字糸畔向所在、烏川右岸の低位段丘面上に位置し、地元では通称「丸山」と呼ぶ塚様の高まり(東西10m×南北20m規模)が遺跡域にあたる。遺物は表土下20~40cmの包含層に認められ、土器出土から縄文時代後期中葉のものとして判断される。



第52図 烏川1遺跡概要図



遺跡近景（東から）



T P21土層柱状図



T P20土層断面



T P21検出ビット状遺構



出土遺物

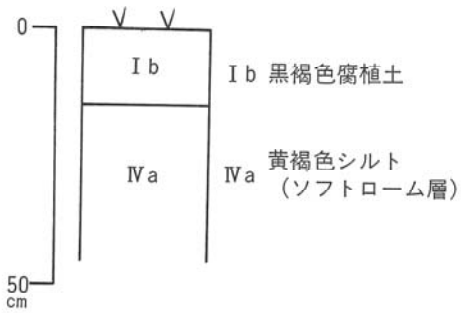


第53図 烏川2遺跡概要図



図版56 烏川2遺跡(1)

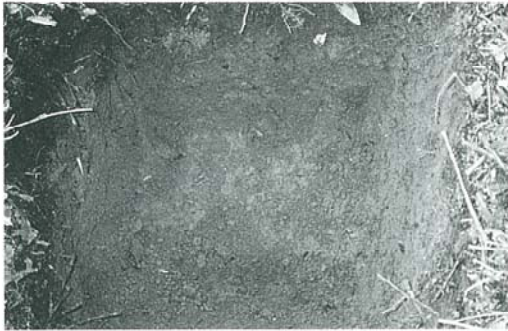
遺跡近景(北東から)



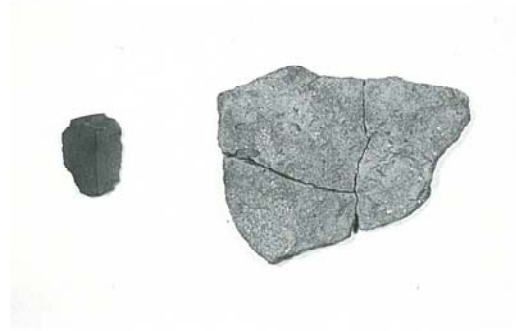
T P45土層柱状図



遺跡遠景 (北東から)



T P45土層断面



出土遺物

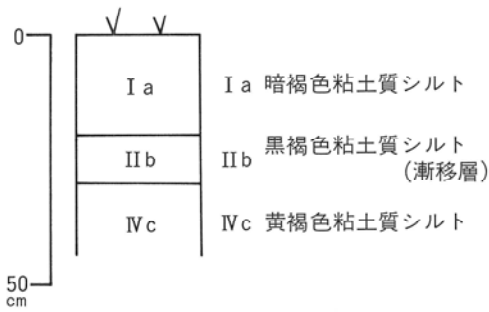
図版57 烏川遺跡 (2)



第54図 烏川3遺跡概要図



遺跡近景（北から）



TPII土層柱状図



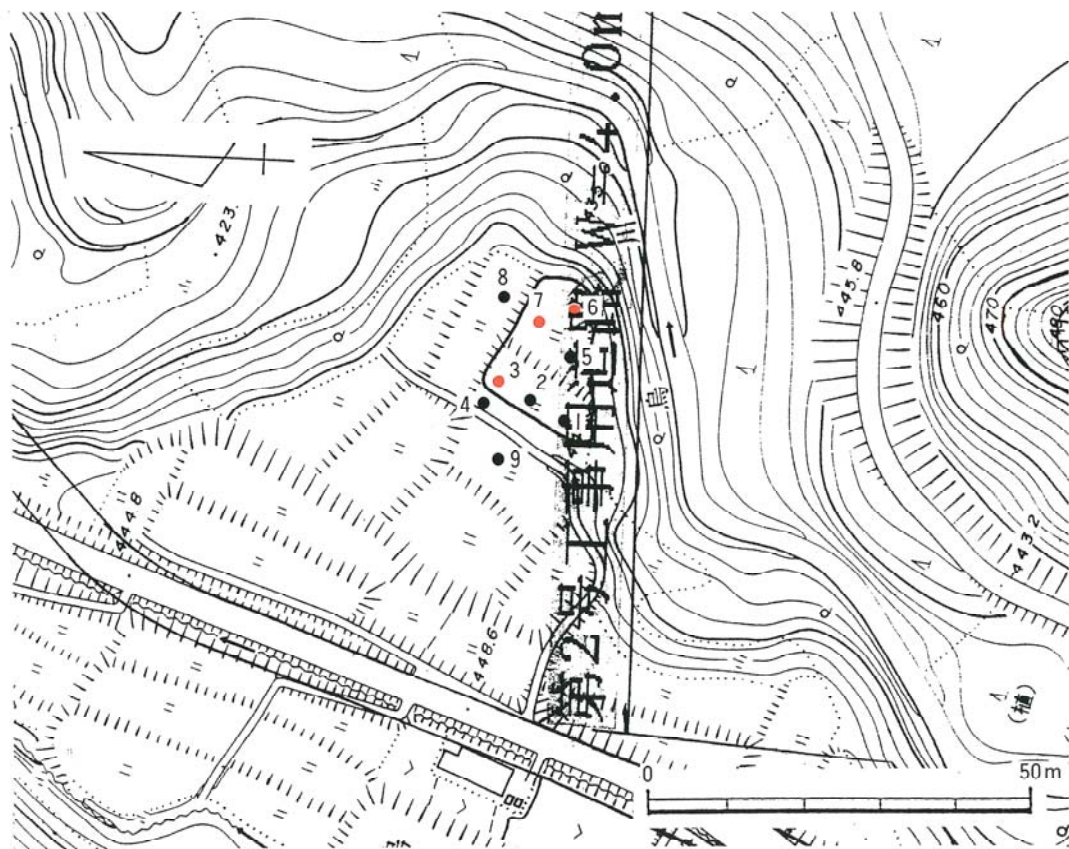
遺跡近景（南から）



TPII土層断面



出土遺物

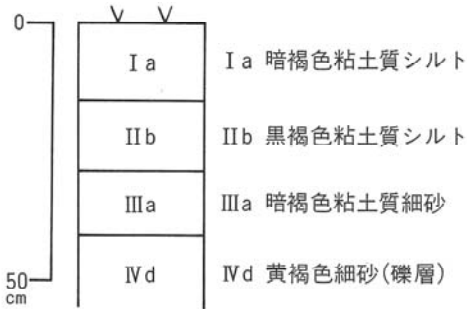


第55図 烏川4遺跡概要図



図版59 烏川4遺跡(1)

遺跡近景(西から)



TP 6土層柱状図



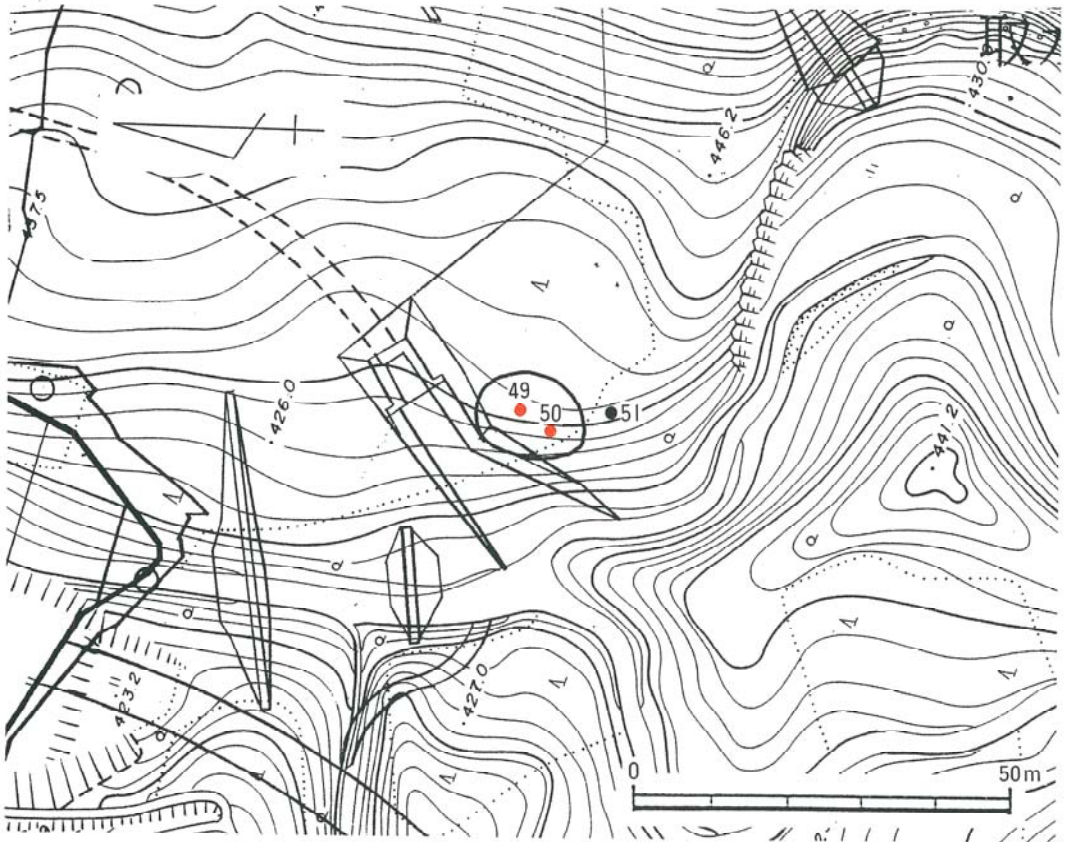
TP 6土層断面



出土土器

出土石器

図版60 烏川 4 遺跡(2)



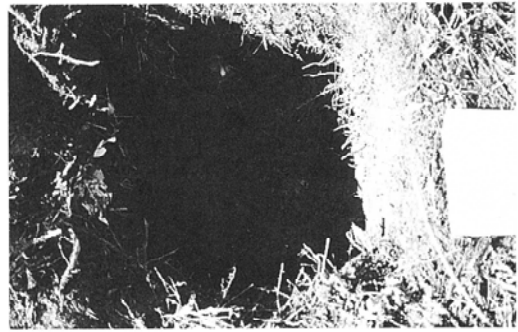
第56図 烏川 5 遺跡概要図



遺跡近景（南東から）



T P49土層柱状図



T P49土層断面



出土土器



出土石器

(26) 渋江遺跡(遺跡番号160)

所在地 山形県山形市大字渋江字田中他

調査員 渋谷孝雄・安部 実

調査期日 B調査 平成2年11月9 12月18日～20日

調査の概要 今回の調査は中小河川改修(馬見ヶ崎川)との調整に資するために行った。当初遺跡地図にある地点の西岸を踏査・試掘(1～3地点)したが、遺物の散布や出土はなかった。遺跡地図の地点と包蔵地調査カードの記載内容とが異なることが判り、カードの記載内容に従い川の東岸を踏査・試掘した。2m四方の試掘坑をここでは21箇所掘った。10・13・14・16地点の6箇所から遺物と遺構が検出された。地表下1.4～1.8mに近世の遺物包含層が確認された。炭化物を多量に含み、出土した陶磁器も焼けて煤けていた。さらには壁土と考えられる焼け土も出土しており、建物の消失にかかわる遺物包含層と考えられる。

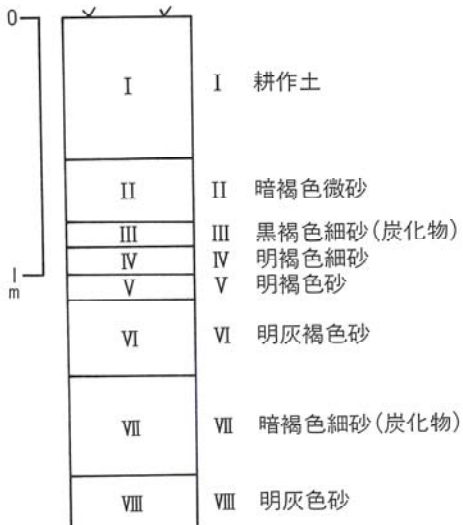
諏訪神社の東方にある坂本吉次氏の畑地で昭和19年防空壕を掘ったさい遺物が出土し、現在同家に保管されている。実見したところ平安時代の須恵器の汁器類であった。近所を踏査した結果、平安時代の素焼きの土器破片が表採された。



第57図 渋江遺跡概要図



渋江遺跡遠景（南から）



T P24溝状遺構



出土遺物

3 記録保存調査・立会い調査の概要

(1) 猪野沢横台遺跡(遺跡番号703)

所在地 山形県東根市大字猪野沢字横台40外

調査員 佐藤正俊 眞壁 建

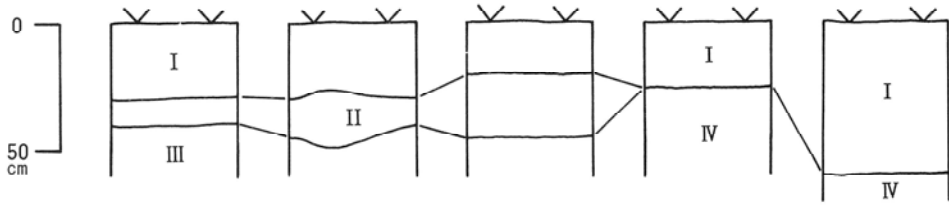
調査期日 平成2年11月5日～9日(5日間)

調査の概要 本遺跡は東根市南西部の国道48号線沿、猪野沢地区の北西部に位置する。乱川左岸の段丘上に立地し、西側で猪野沢川によって限られている。遺跡の立地する段丘は、乱川の低位段丘面であり、後背に中位・上位の段丘面がみられ、標高は約180mを測る。地目は果樹地(ブドウ)・畑地・荒地となっている。遺跡の範囲は、推定東西150m・南北100mである。

今回の調査は、一般県道田麦野行沢線改良事業にかかるため平成元年度の分布試掘調査の結果に基づいて、事業側と協議のうえ計画路線内の約200㎡の地区を記録保存調査したものである。調査区は、遺跡の西端と北東側に道路センター杭を基線として5m一単位とするグリッドを設定し、センター杭No.24をX軸50・Y軸50と呼称し、トレンチ掘を主に遺構・



第58図 猪野沢横台遺跡概要図

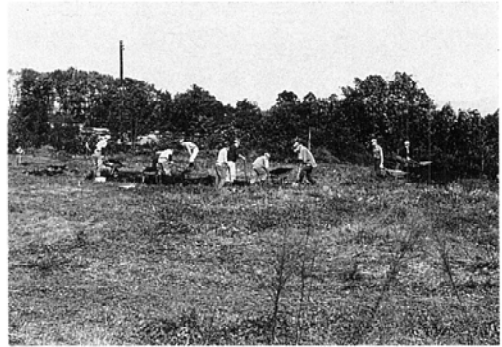


I 黒褐色土
 II 黒色微砂 (遺物包含層)
 III 黒褐色微砂 (礫層)
 IV 黒褐色微砂 (含黄褐色砂)

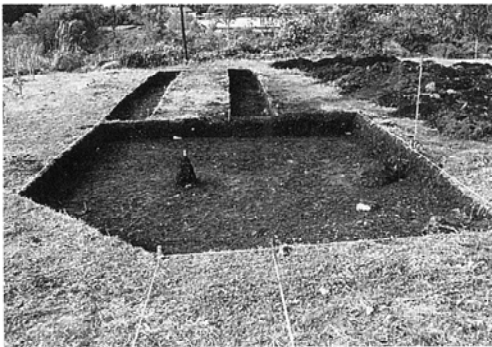
第59図 猪野沢横台遺跡土層柱状図



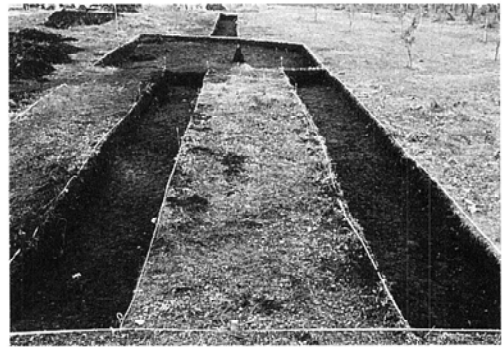
遺跡近景 (南から)



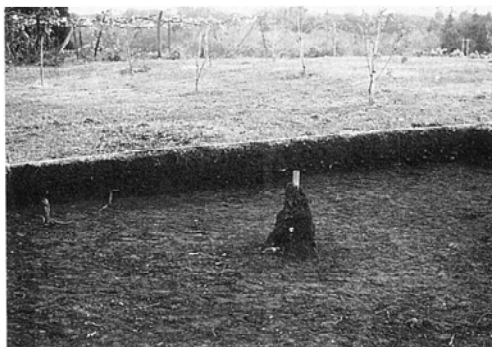
粗掘調査 (西から)



調査状況 (南から)



調査状況 (北から)



南北土層セクション (東から)



東西土層セクション (南から)

図版63 猪野沢横台遺跡(1)

遺物が集中する箇所を拡張して作業を進め、遺跡の北東側を中心に調査を実施したものである。調査の面積は、遺跡西端と北東側を合わせて143㎡である。

層序は、西端部では地表下24～31cmで黄褐色土で砂礫が混じる地山になり、遺物包含層は、認められず、遺物も発見されない。調査区の北東側では、黄褐色地山層が地表下15～30cmで平坦となり、南側になると地表下44～62cmと地山層が深くなり、傾斜し鞍部となっている。遺物包含層は、黒色土の微砂質で17～28cmの厚さで、50～50グリッド周辺のみ検出され推積している。なお、調査の南側については、平成元年度の分布試掘調査の結果、遺構・遺物等が検出されていないため、調査対象地区から外した。

遺構は、今回の調査では検出されず、遺物も50～50グリッド周辺地のⅡ層より出土したもので、縄文時代の土器片ポリ袋6袋・石剣1・フレイク等4点が出土している。
出土遺物 今回出土した遺物は、縄文時代のみで早期・中期・後期・晩期の時期である。

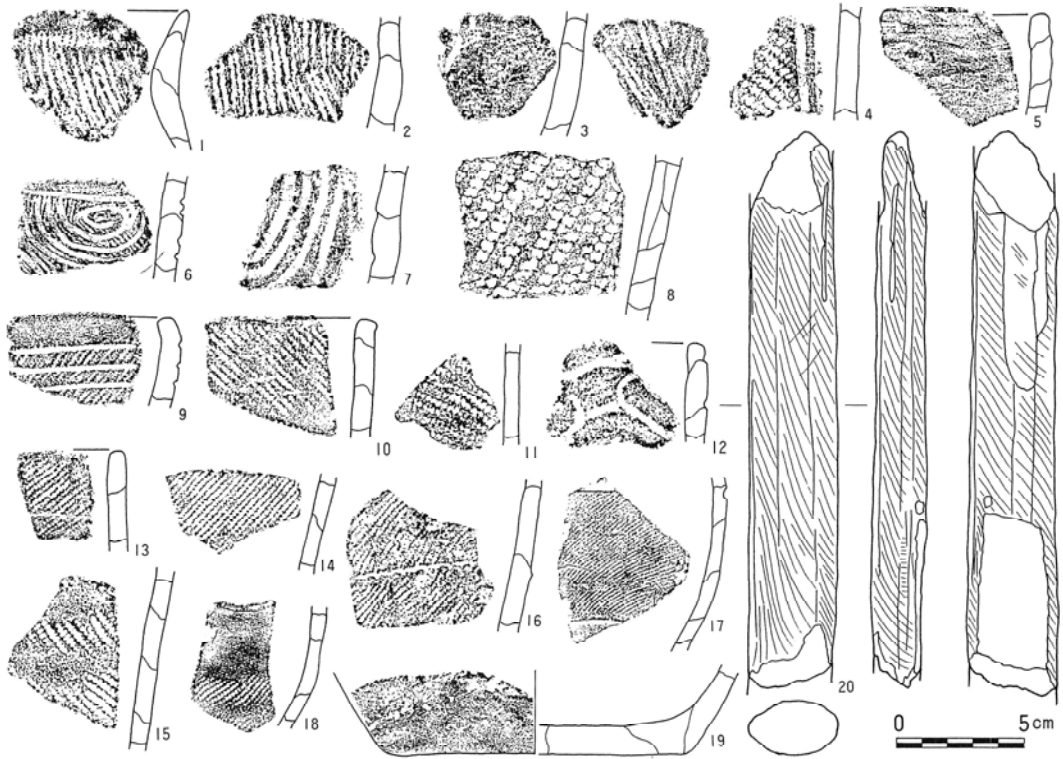
出土土器(第60図1～19 図版63)

- A 類 早期 1は口縁部が外反し、1・2とも表面に回転撚糸文が施されている。3は裏面に貝殻条痕文がみられ、胎土に若干繊維が含まれる。
- B 類 中期 4は地文を縦位方向の斜縄文を施し、粘土紐貼付の両縁を沈線で施す。
- C 類 後期 6・7は沈線により渦巻状の文様を描き、9は口縁下に平行沈線がみられ、12は口縁が波状になり三叉文が施されている。5は口縁で表面をヘラで調整し無文となる。8は斜位方向に縄文を、10・11は横位方向に縄文を施している。
- D 類 晩期 17・18は壺形になり横位に縄文を施し、研磨調整がみられる。13～15は晩期特有の横位方向の縄文が施されている。13は口縁部で小型深鉢形土器の破片で、16は結束の綾絡となる。19は深鉢形の粗製土器の底部破片で荒く調整している。

出土土器(第60図20 図版63)

石 剣 晩期 先端と基部が欠損し、現存する長さ22cm・幅3.3cm・厚さ1.6cmである。両面や刃部等側面が面取りされ、良く研磨されいづれもの面でも磨痕が認められる。出土土器から縄文時代晩期大洞BC式に比定される。

ま と め 調査の結果、縄文時代の遺物のみ検出されたのみで、調査区は遺跡の東端と考えられ、遺跡の中心部は西側畑地とみられる。土器片の時期は、A類早期1・2梨木畑式、3莚山式併行、B類4大木8b式、C類後期6～8宝ヶ峰式、9～12新地式、D類13～19大洞BC式にそれぞれ比定あるいは併行する。



第60図 猪野沢横台遺跡拓影・実測図



出土土器

石剣

図版64 猪野沢横台遺跡(2)

(2) 玉川^{たまがわ}D遺跡(遺跡番号 1.812)

所在地 山形県東田川郡羽黒町大字玉川字袋樋235外

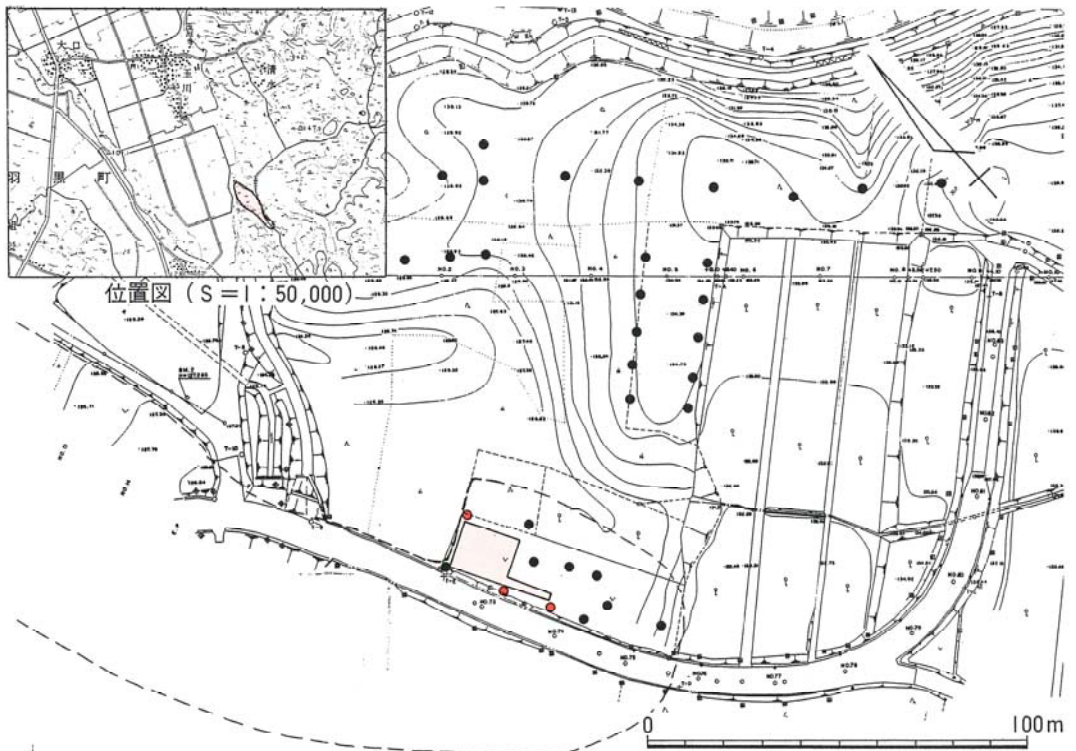
調査員 佐々木洋治 渋谷孝雄

調査期日 B調査 平成2年7月11・12日 (調査 平成2年12月2～6日)

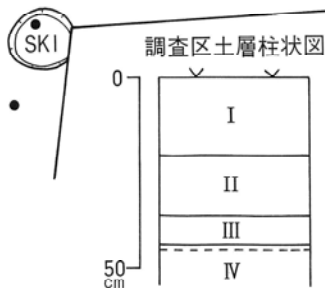
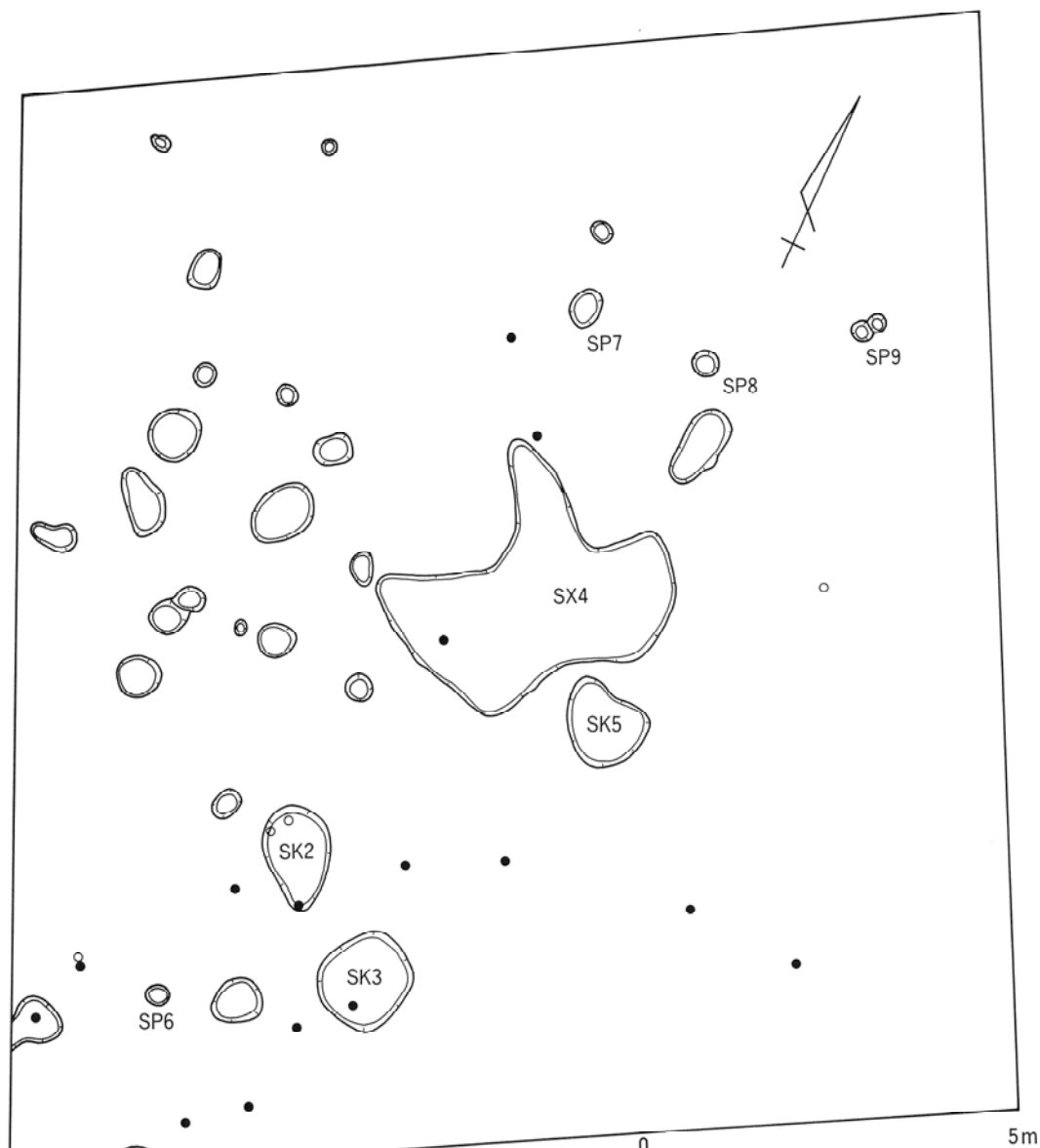
調査の概要 遺跡は玉川集落の南東1.5kmに位置し、標高132mの泥流台地上に立地する。地目は畑地、山林である。昭和57年度に一般農道整備事業(玉川地区)に関連して試掘調査と小規模な記録保存調査が行われ、竹管文を主体とした縄文時代中期初頭の北陸系の土器や石器が出土し、地形観察等から遺跡の範囲は東西170m・南北140mに及ぶものとして修正された。

今回、県営ため池等整備事業(玉川ため池)により、農道北東部の広い範囲の土取りが実施される計画となったため、7月に範囲確認の試掘調査を行い、12月に記録保存が必要な地区の調査を実施した。

7月の範囲確認調査では農道の北東部の幅約13mまでが遺跡内に入ることが確認され、12月には、この部分を対象として約200㎡の発掘調査を行った。調査の結果、径1m前後で深さ10cm前後の不整形な土壌4基、落込み1基、明確な柱穴が4基、浅いピットが22基検出され、土器片が17点、石筥等の石器が3点出土した。土器は縄文時代中期に属する。



第61図 玉川D遺跡概要図



- I : 暗褐色シルト
- II : 黒褐色粘土質シルト
- III : 暗褐色シルト質粘土
- IV : 黄褐色粘土 (地山)

- : 土器
- : 石器

- SK1 : 黒褐色粘土質シルト (炭化物を含む)
- SK2 : 黒褐色粘土質シルト (暗褐色、黄褐色粘土の小ブロックと炭化物を含む)。
- SK3 : SK2と同じ。
- SX4 : 暗褐色粘土質シルト (黒褐色シルト、黄褐色粘土粒を含む)。
- SK5 : 黒褐色シルト質粘土 (黄褐色粘土ブロックを含む)。
- SP6 : 暗褐色シルト質粘土 (炭化物を若干含むがほぼ純粋)。
- SP7 : SP6と同じ。
- SP8 : 黒褐色粘土質シルト。
- SP9 : 暗褐色シルト。

第62図 玉川D遺跡検出遺構



遺跡近景（東から）



調査区全景（西から）

図版65 玉川D遺跡(1)



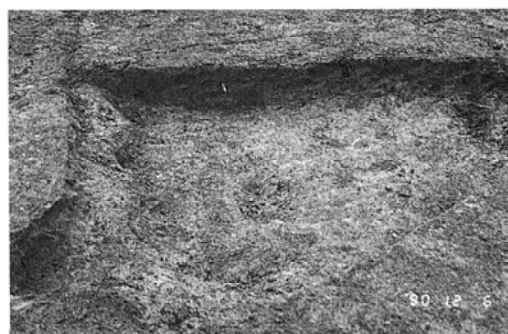
土層断面



遺構検出状況 (西から)



遺構精査状況 (西から)



SK5 土層断面



SP7 土層断面



出土土器



出土石器



採集遺物

(3) ^{ひがしだ}東田遺跡(平成元年度登録)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字庄泉字東田

調査員 長橋 至 須賀井新人

調査期日 平成2年7月30日～8月3日

調査の概要 本遺跡は、平成2年度にほ場整備で遺構・遺物の集中する地区のうち、面的に破壊をされる部分について緊急発掘調査を実施した。今回の立会調査は、遺跡範囲のうち、かん排水路にかかり、深く掘削される部分について実施した。調査は、約1.3m幅でトレンチ状に計画部分を重機によって表土を削ぎ、続けて、人力による面整理を行った。全体でA～Lトレンチの12本、総延長2.405m(約3.127㎡)を測る。これらのうち、遺構・遺物の検出されたものについて簡単に概要を記述する。

Bトレンチ 遺跡南東端部で溝状遺構1基が検出された。トレンチ内での最大幅7m、検出面からの深さ30cmを測る。覆土は2層に分けられ、溝底直上より遺物が出土した。赤焼土器坏(第67図1・2・5)須恵器壺頸部片(第67図3・4同一個体、内面緑釉)の他、約1箱分の遺物の出土をみた。

Dトレンチ 遺物は未検出。地山直上より底部回転ヘラ切りの須恵器(第67図6・7第68図8・9)が出土した。この地点は、他地点に比し、やや古い時期の遺物の出土が目立つ。図示した4点のうち2点には「神」の墨書が認められる。

Eトレンチ 溝状遺構SD2、土壇SK3、柱穴2基が検出された。Dトレンチ同様、底部回転ヘラ切りの須恵器主体である。2点に墨書が認められる(第68図10・11)

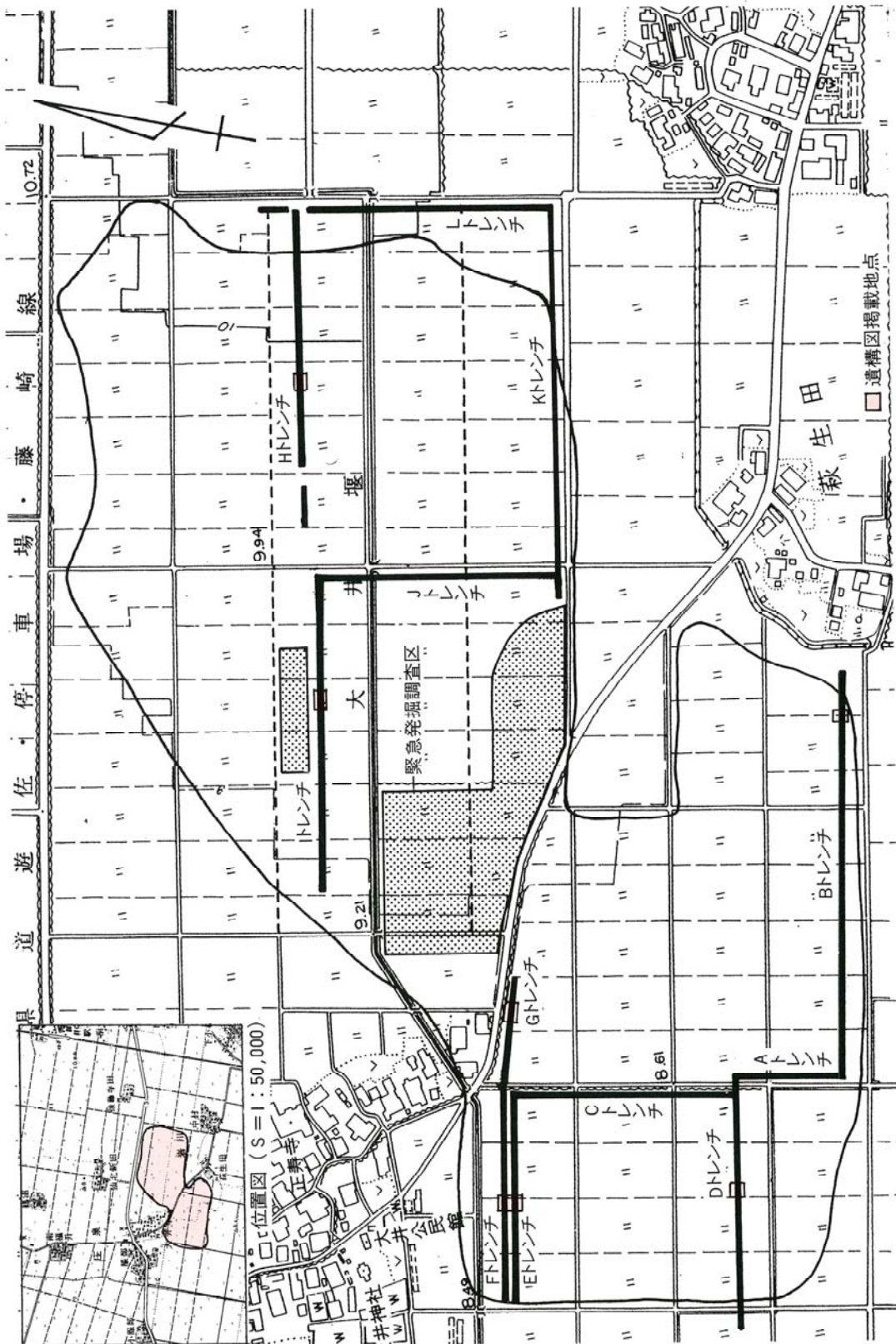
Fトレンチ 溝状遺構2基(SD5・6)、柱穴1基が検出された。遺物は赤焼土器坏(第68図13)、須恵器(第68図17・墨書・底部回転ヘラ切り)の他、SD5より土錘(第68図15)、砥石(同16)が出土した。

Gトレンチ 緊急調査実施地区に隣接する。幅1m程の溝状遺構(SD8)が検出された。遺物はこの覆土中より須恵器・赤焼土器が0.5箱出土したが、いずれも小片である。

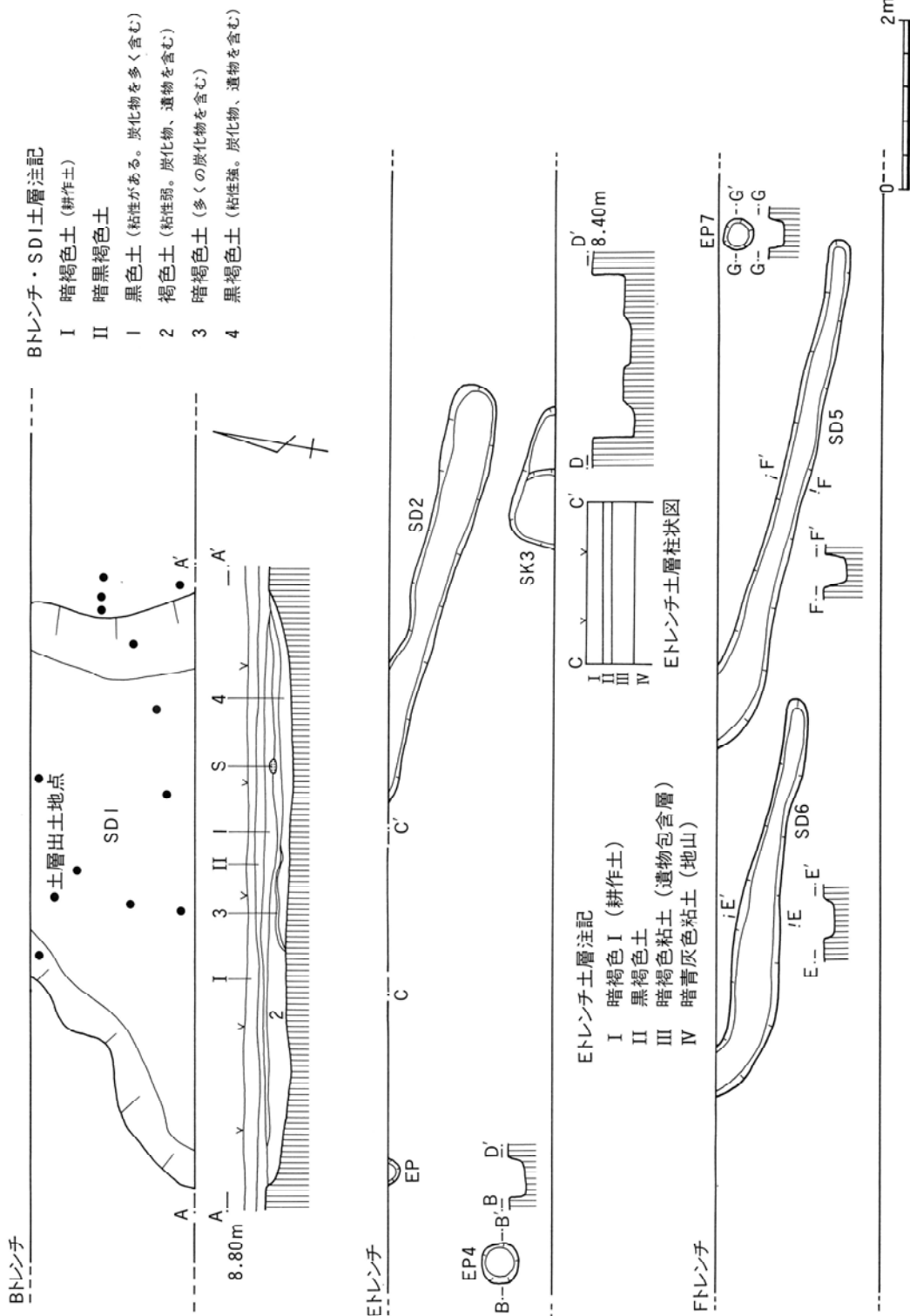
Hトレンチ 溝状遺構・柱穴・性格不明落ち込み遺構が検出された。遺物は、包含層及び覆土中よりGトレンチ同様、小片が約0.5箱程出土した。なお、Iトレンチでは、内面黒色処理の土師器(第69図18)、内・外面カキ目調整の施された土師器壺(第69図19)が出土した。

Jトレンチ 溝状遺構・性格不明落ち込み遺構が検出された。遺物は赤焼土器坏の他、青磁1点(第69図23、龍泉窯)が出土した。

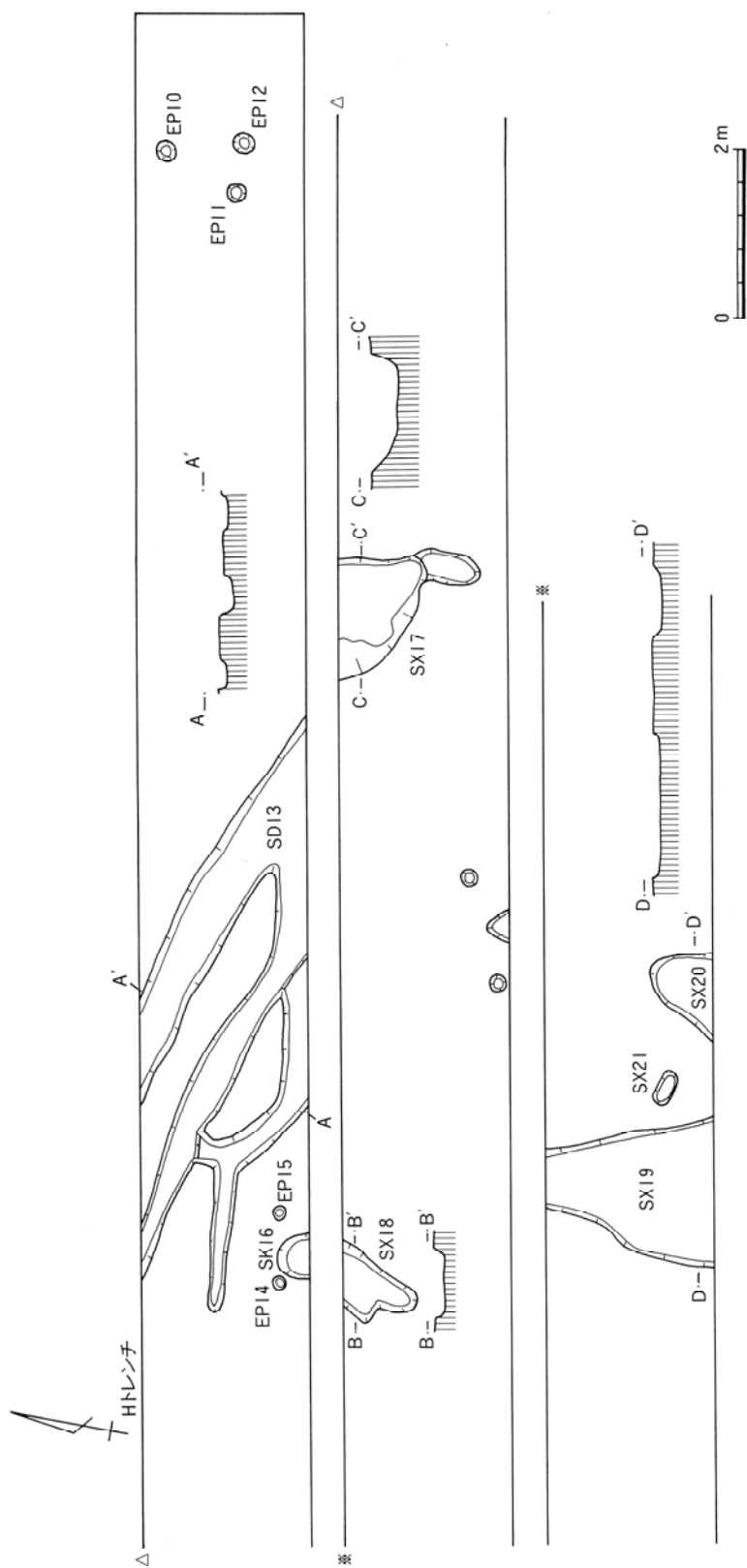
以上、概略を示した。出土遺物より、3時期に区分される。I:9世紀前半～II:9世紀後半 II:13世紀。地点的にはD・Eトレンチが当遺跡内で古い時期にあたる。



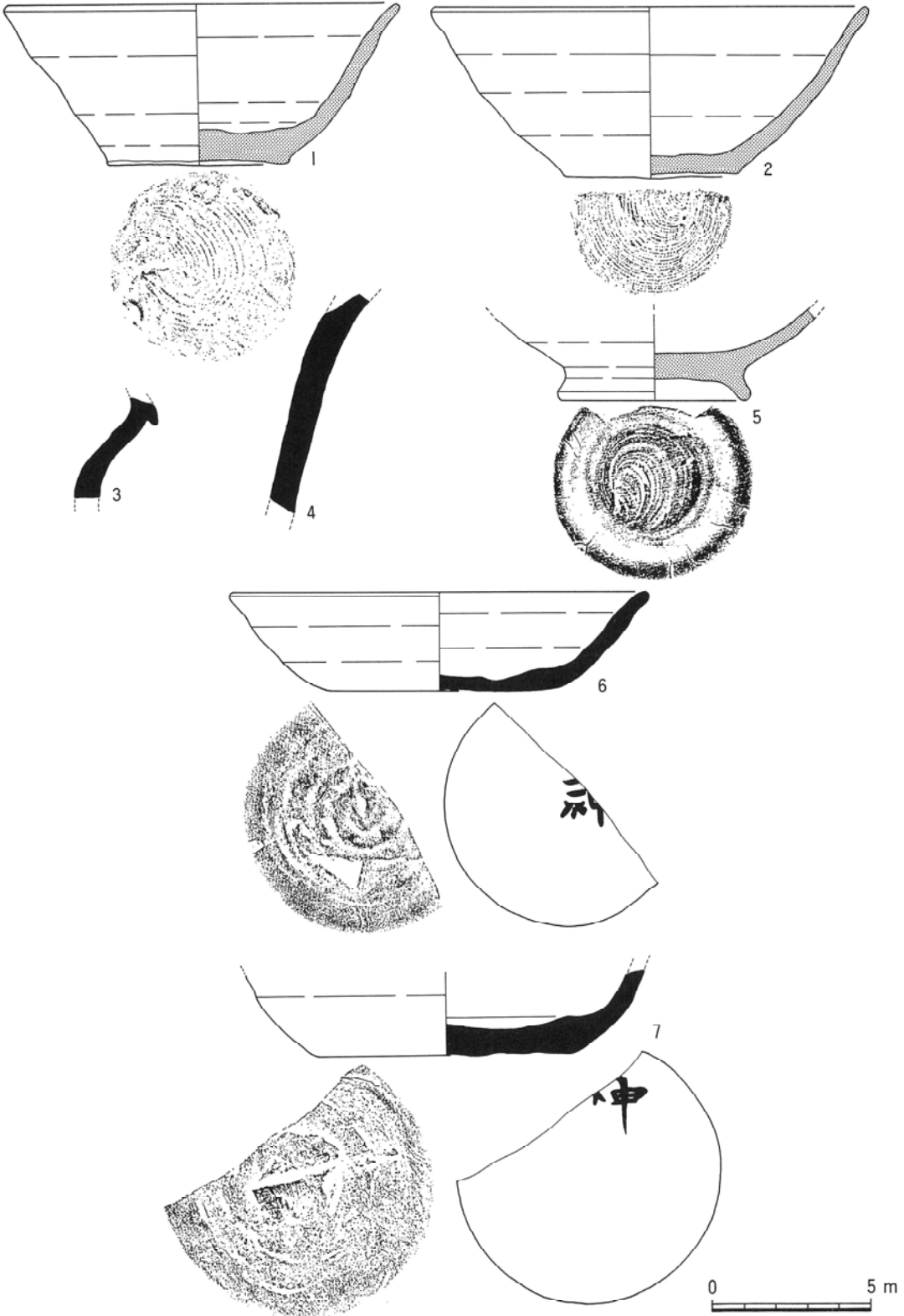
第63図 東田遺跡概要図 (S=1:5,000)



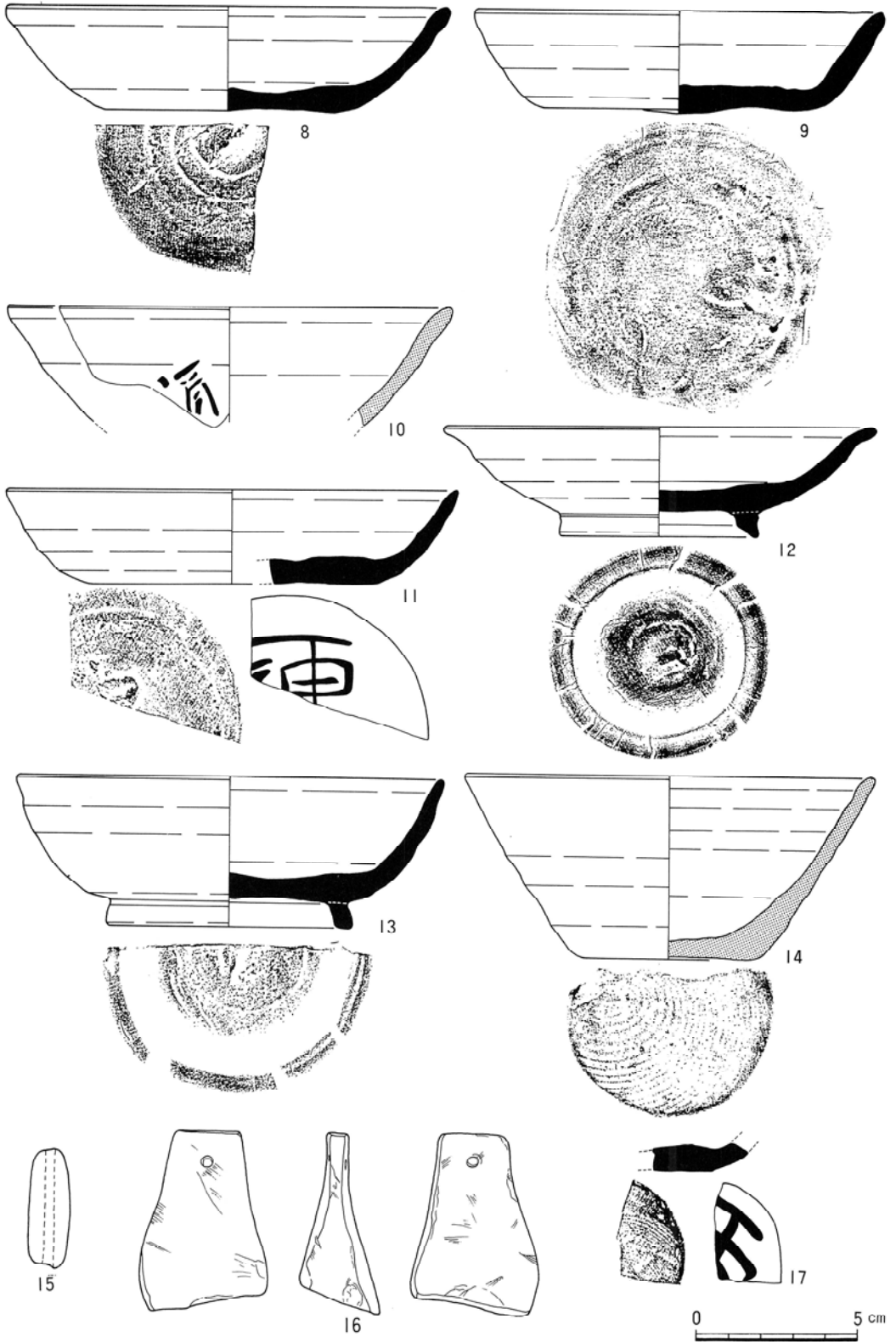
第64図 東田遺跡トレンチ実測図 (I)



第65図 東田遺跡トレンチ実測図(2)

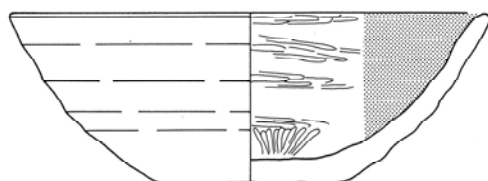


第67図 東田遺跡出土遺物 (1)



第68図 東田遺跡出土遺物（2）

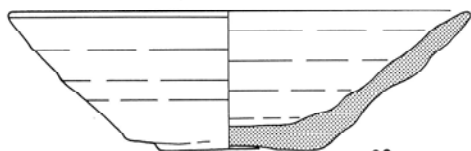
8・9：Dトレンチ 10～13：Eトレンチ 14～17：Fトレンチ



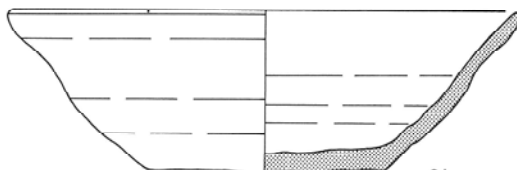
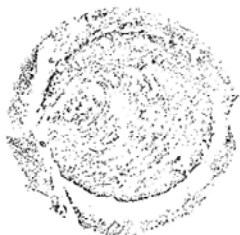
18



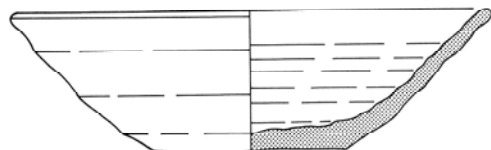
19



20



21



22

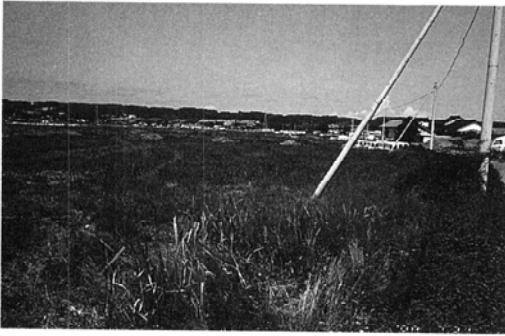


23

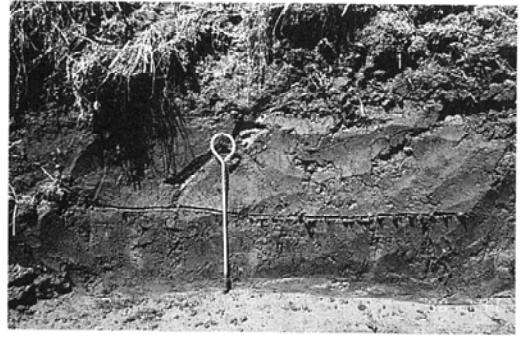


第69図 東田遺跡出土遺物 (3)

18・19：Iトレンチ 20～23：Jトレンチ



遺跡近景（北東から）



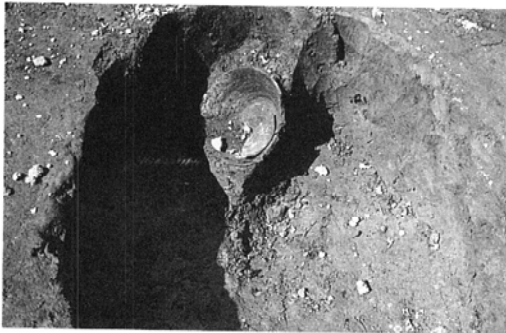
土層断面（Aトレンチ）



Bトレンチ（SD1）



Cトレンチ（柱穴）



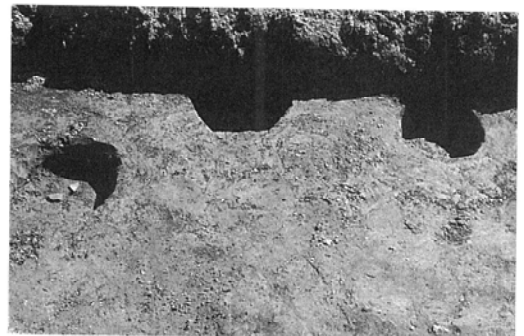
Dトレンチ遺物出土状況



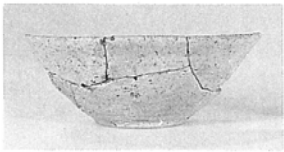
Fトレンチ（SD5・6）



Gトレンチ（SD8）



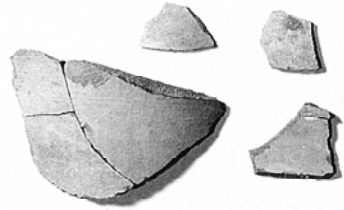
Hトレンチ（柱穴）



1



2



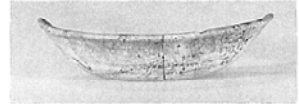
3



4



5



6



7



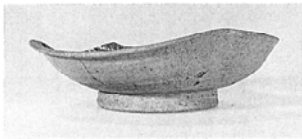
8



9



10



12



13



11



15



16



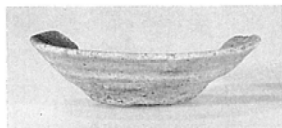
17



14



18



20



19



21



22



23

図版68 東田遺跡(2)

(4) ^{やまのべ}山辺北条里遺跡(県遺跡番号356)

所在地 山形県東村山郡山辺町大字大寺

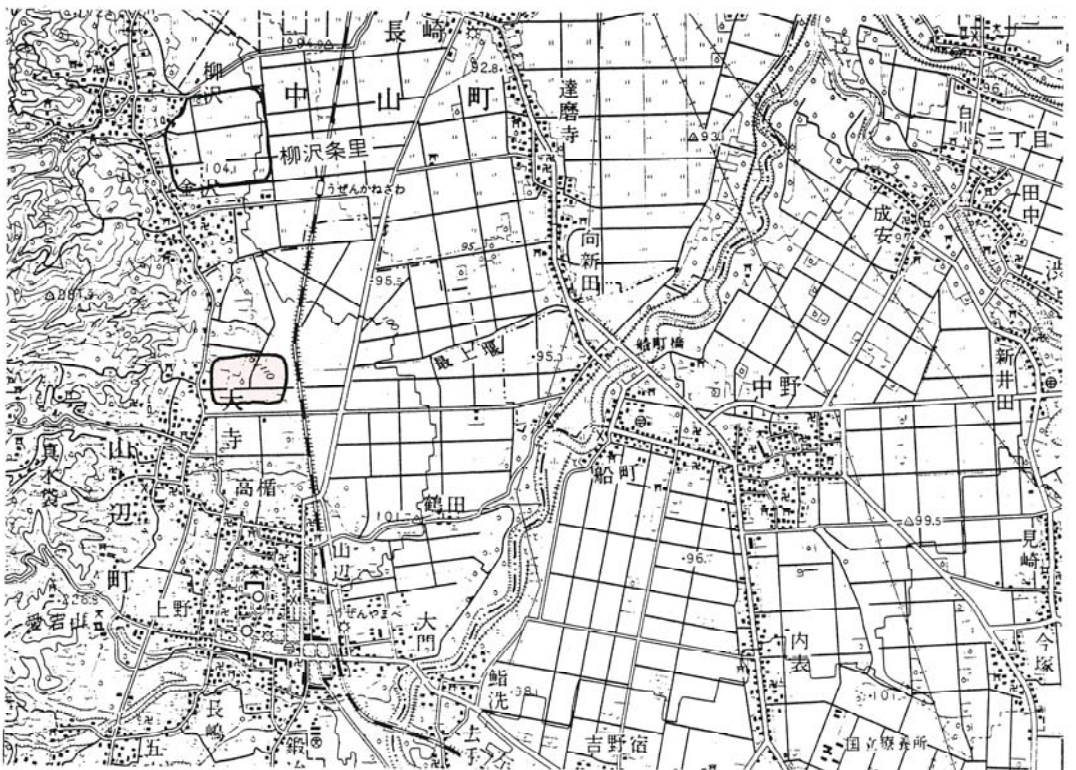
調査員 佐藤庄一・阿部明彦・須賀井新人

調査期日 平成2年9月25日～27日

調査の概要 山辺北条里遺構は須川の西岸、市街地の北方約1.3kmの水田と果樹畑等の入り組む山麓線付近に位置し、東西480m×南北340m(東西4町、南北3町)程の規模が推測される。山形盆地の西縁域では中山町の西部から山形市の西部に至る山裾沿に柳沢条里、山辺南条里、大曾根条里などの各条里遺構が断続的に存在し、早くから古代に於ける条里制施行やこれらと集落とのかかわり他の関点で注目されてきた経緯がある。

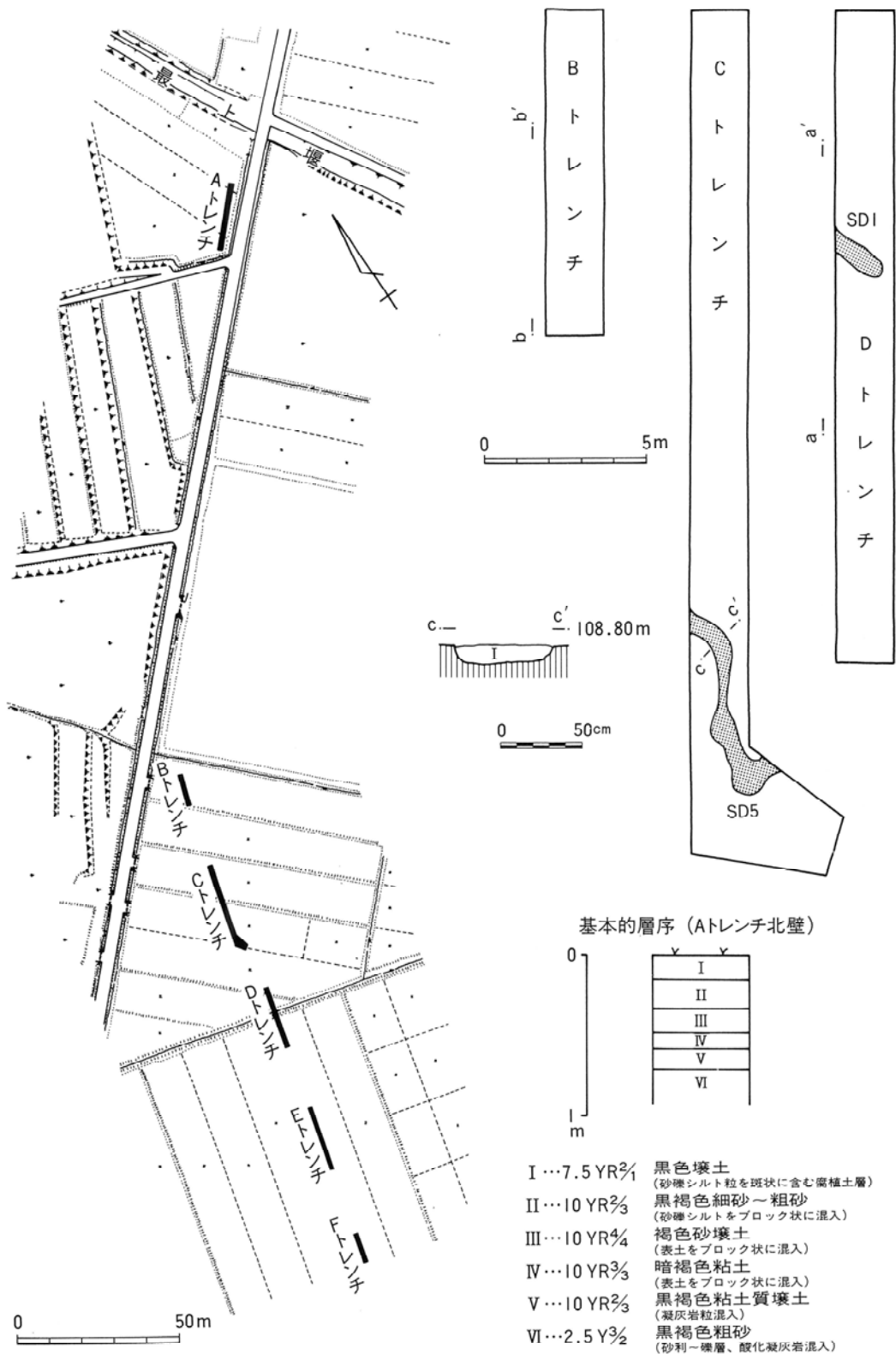
今回の分布調査は条里域に計画された線的な農免農道整備事業区域内における記録保存を主眼とし、当該地区での遺構・遺物の確認と検出およびその記録を目的としたものである。上記の事から、調査では農道予定地の中心線に沿う2×10mのトレンチ6箇所を設定し、それぞれ面下げと面整理を行って埋没条里畦畔の有無他についての精査を実施した。

調査の結果、B・C・D・Eとした各トレンチで溝跡・畦畔状の遺構幾つかを検出し、現水田面下にも旧水田とこれに関連する遺構の存在が確認された。しかし、各遺構の所属時期を推測させる土器等遺物の出土が皆無であり、どの程度遡るものなのかは不明である。



第70図 山辺北条里位置図

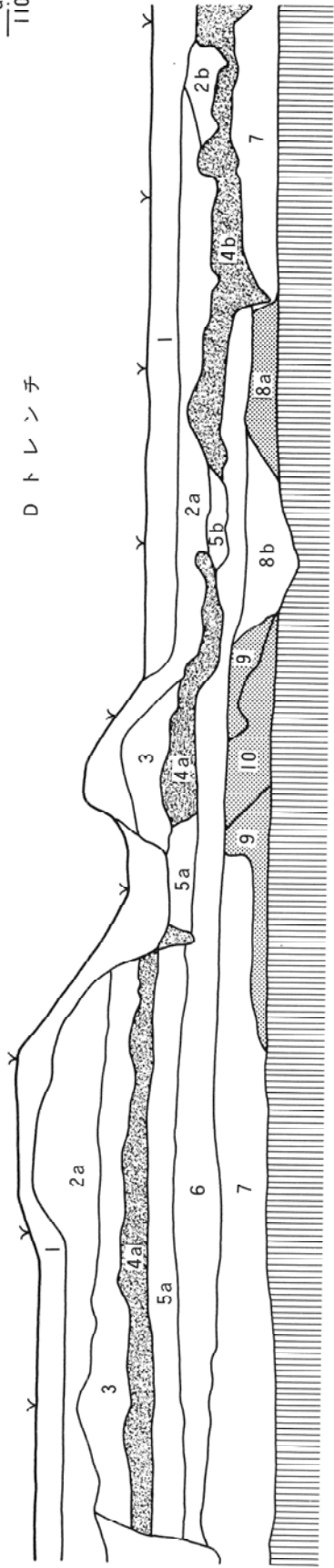
(S = 1 : 50,000)



第71図 山辺北条里概要図

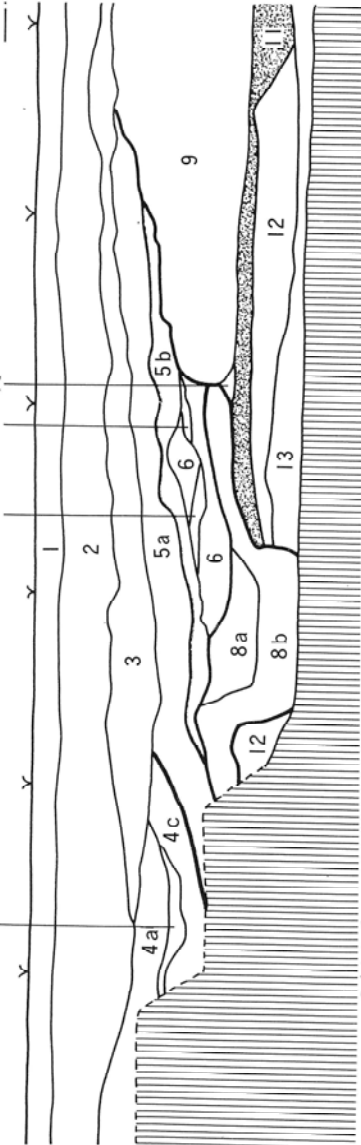
a' —
110.20m

D トレンチ



b' — 107.60m

B トレンチ



- D トレンチ
- 1 ... 2.5Y% 黒褐色壤土
 - 2a... 10YR% 黒色粘土質壤土 (凝灰岩粒をばらばらに混入する礫乱層)
 - 2b... // (凝灰岩粒にすこぶる含む)
 - 3 ... 2.5Y% 黒褐色粘土質壤土 (凝灰岩粒をばらばらに含む)
 - 4a... 10YR% 黒褐色粘土質壤土 (粘性がかなり強い、炭化物をやや含む)
 - 4b... // (葉かくやや砂っぽい)
 - 5a... 10YR% 黒褐色壤土 (粗砂を全体に斑点状に混入)
 - 5b... // (4bと10YR%の褐色粗砂をブロック状に混入)
 - 6 ... 7.5Y% 黒色粘土質壤土 (緻密でよくしめる、粗砂をまばらに含むがほぼ均一的)
 - 7 ... 10YR% 黒色粘土 (酸化鉄を溶解し全体的にやや赤っぽい)
 - 8a... 7.5Y% 黒色粘土質壤土 (凝灰岩ブロックを多量に混入する礫層)
 - 8b... // (8aと9を混入する礫乱層) (SD1溝跡)
 - 9 ... 10YR% 黒褐色砂壤土 (凝灰岩ブロックにすこぶる含む、3bをブロック状に含む礫層)
 - 10 ... 7.5Y% 黒褐色細砂 (凝灰岩ブロックを含む礫層)
- B トレンチ
- 1 ... 2.5Y% 黒褐色壤土
 - 2 ... 7.5Y% 黒色粘土質壤土
 - 3 ... 2.5Y% 黒褐色粘土質壤土 (固くしめる、部分的に砂質を呈する。2を雲状に混入)
 - 4a... 10YR% 黒褐色粗砂 (凝灰岩粒をまだら状に混入)
 - 4b... // (均一層)
 - 4c... // (礫を混入)
 - 5a... 2.5Y% 黒褐色粗砂 (2を全体に混入、酸化鉄をばらばらに混入)
 - 5b... // 暗オリーブ褐色粗砂 (2を全体に混入、酸化鉄をばらばらに混入)
 - 6 ... 2.5Y% 暗オリーブ褐色粗砂 (全体に灰色を帯びる)
 - 7 ... 2.5Y% 黒色粗砂 (凝灰岩を多量に混入)
 - 8a... // 黒色粗砂 (凝灰岩を多量に混入)
 - 8b... // (5Y% オリーブ黒色を帯びる)
 - 9 ... 粗砂 - 砂利 - 礫の漸移層 (SD4溝跡)
 - 10 ... 5Y% 灰オリーブ色シルト
 - 11 ... 2.5Y% 黒色壤土 (やや粘土質、未分解有機物、炭化物を含む)
 - 12 ... 9に同じ
 - 13 ... 5Y% オリーブ黒色粗砂

第72図 B・Dトレンチ土層断面図



Dトレンチ土層断面



遺跡近景 (西から)



調査風景



Fトレンチ (南から)



Aトレンチ層序

(5)野瀬遺跡(平成元年度登録)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字北目字野瀬

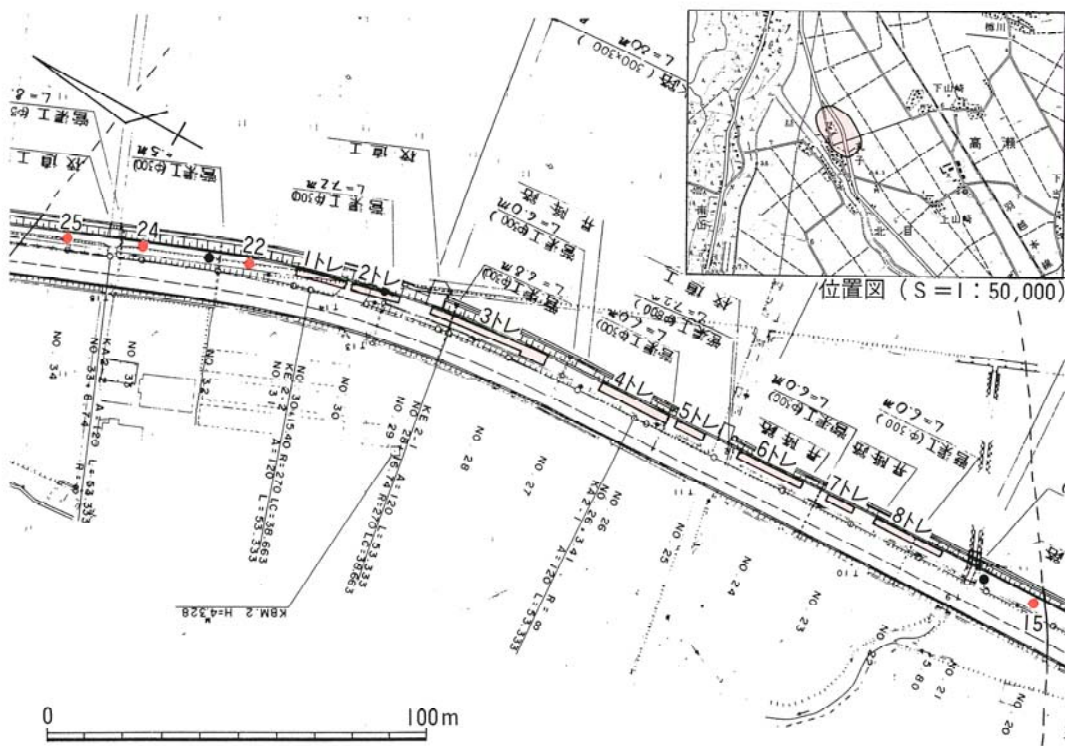
調査員 渋谷孝雄

調査期日 B調査 平成2年6月15日 立会い調査 平成2年9月27日

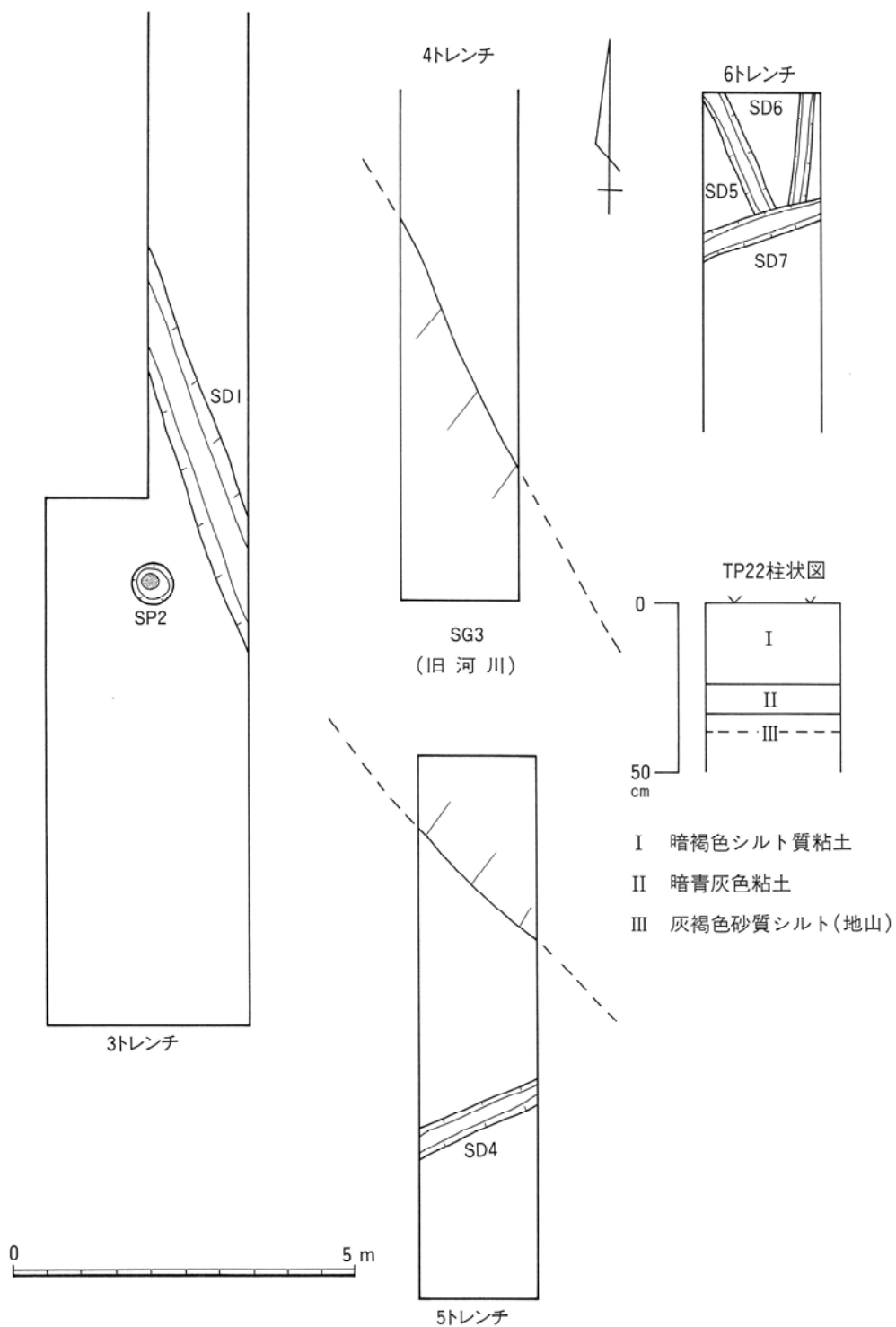
調査の概要 遺跡はJR羽越本線遊佐駅の北北西約3.7kmに位置し、丸子集落の北に隣接する。ほぼ平坦な沖積地に立地し、地目は大半が水田である。平成元年度の遺跡詳細分布調査において発見・登録された。

今回の調査は国道345号線道路改良に伴う範囲確認調査、及び立会い調査である。当区間の工事は現道拡幅工事であり、6月の試掘調査では、約15mおきに計28ヶ所の試掘溝を設定して地山まで掘り下げ遺構の確認と遺物の採取を行った。その結果、杭No.20～34までの区間で遺構や遺物の存在が認められたが、拡幅予定部分の幅5mのうち、西側の現道寄りについては、地山まで攪乱が及んでいることが確認された、この資料をもとに事業主体の山形県土木部と協議を行い、遺構・遺物の保存状況が比較的良好と判断された、団地内東側について、立会い調査を実施して記録保存とすることで合意をみた。

立会い調査の結果、平安時代の溝跡が5条、柱穴1基が検出され、4トレンチから5トレンチにかけて、平安時代の土器を含む旧河川も検出された。



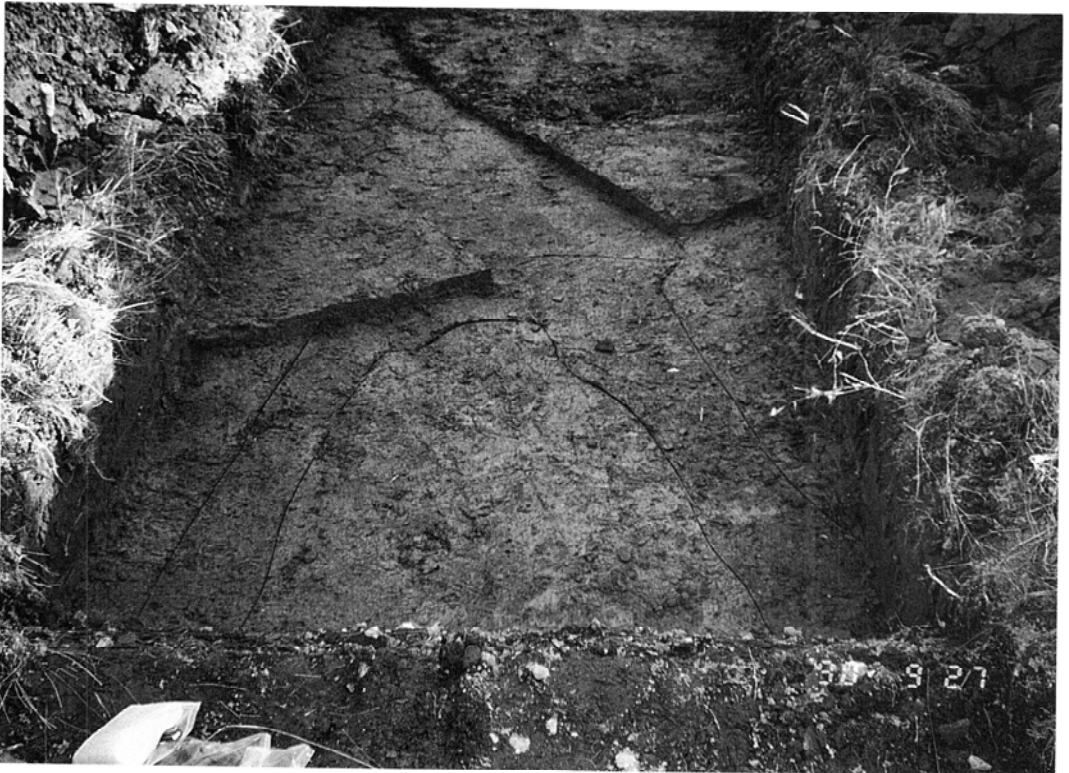
第73図 野瀬遺跡概要図



第74図 野瀬遺跡遺構概略図

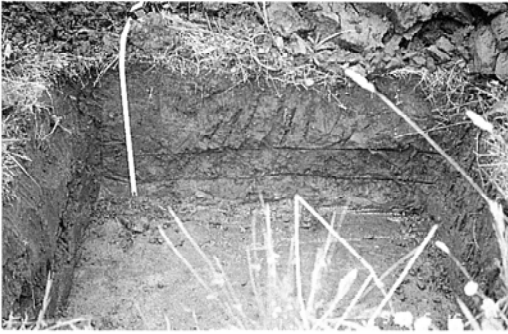


遺跡遠景（東から）



遺構検出状況（北から）

図版70 野瀬遺跡(1)



土層断面



3 トレンチ遺構検出状況 (南西から)



5 トレンチ溝検出状況 (南から)



旧河川検出状況 (南から)



旧河川跡調査状況 (西から)



出土土器 (1)



出土土器 (2)



出土土器 (3)

(6) ^{ひらね}平根遺跡(遺跡番号 1.108)

所在地 山形県最上郡戸沢村字寺台3、406-30外

調査員 渋谷孝雄

調査期日 立会い調査 平成2年5月28日

調査の概要 遺跡はJR陸羽西線古口駅の南方約7.8kmに位置し、北に面した標高193~200mのゆるやかな傾斜をもつ台地上に立地する。周知の遺跡であったが、平成元年度に実施した遺跡詳細分布調査の試掘の結果、遺跡の位置及び範囲について訂正を行った。8ヶ所の試掘調査の結果、1ヶ所の再堆積層から、異形石器、石鏃等の石器が数点出土したものの、プライマリーな層準には遺物は認められなかった。以上のことから、一般県道肘折古口(T)線の事業実施については、工事着工時の立会い調査で対処することになり、今回の調査が実施された。

遺跡内では現道の拡幅工事となるため、拡幅予定地内に2×35mの1トレンチ、1.5×30mの2トレンチを配し、重機で慎重に土を削いで調査を進めた。その結果、1トレンチ、2トレンチとも35~40cmの再堆積層の下に旧表土、二次堆積パミス、黒色砂質シルトと続き、地山の肘折パミスと層準が確認された。2トレンチの最上位の再堆積層から2点の切片が出土したものの、旧表土以下からの遺物の出土はなく、遺構も認められなかった。



第75図 平根遺跡概要図

にゅうどうばた
(7)入道畑遺跡(昭和63年度登録)

所在地 山形県西置賜郡大字足野水字入道畑

調査員 渋谷孝雄

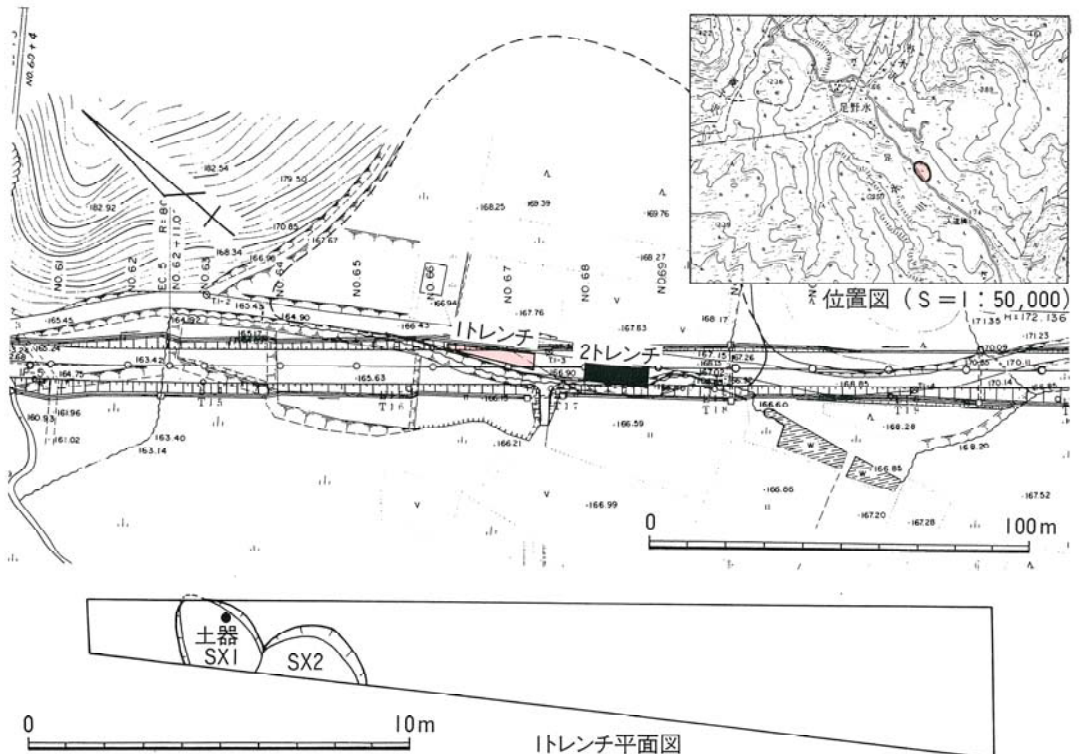
調査期日 立会い調査 平成2年10月2・3日

調査の概要 遺跡は足野水集落の南東約500m、堤田遺跡の南東500mに位置する。足野水川の右岸段丘上に立地し、地目は畑地、山林である。昭和63年度の遺跡詳細分布調査において、土器片と剝片の散布が確認され、翌平成元年度にも表面踏査が行われている。

今回の調査は県道下新田・土尾線の凍雪害防止工事により、遺跡にかかる部分で現道拡幅の工事が行われることとなったため、工事によって新たに破壊される恐れのある部分について、工事着工時の立会い調査を行って記録保存に資するために実施された。

調査区は概要図に示した2ヶ所で、北西側を1トレンチ、南西側を2トレンチとして、表土を重機で除去した後、手掘りで遺構の検出、精査を行った。

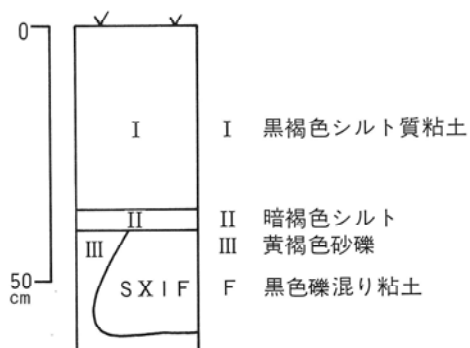
その結果、2トレンチでは表土直下が礫層となり、遺構、遺物とも未検出であり、1トレンチの南半部分も同様な状況であったが、1トレンチの北部において、性格不明の落込み2基を検出、精査し、縄文土器片や剝片・石核等が整理箱にして一箱分出土した。土器は縄文時代後期に属し、石器は鉄石英を母岩とする剝片、石核が主体を占めた。



第76図 入道畑遺跡概要図



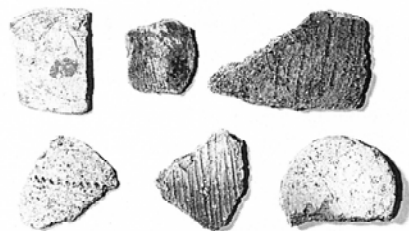
遺跡近景 (西から)



土層柱状図



SXI・2完掘状況 (西から)



出土土器



出土石器

(8)木戸^{きど}遺跡(平成2年度 新規発見)

所在地 山形県山形市大字上桜田字木戸355外

調査員 佐藤庄一 佐藤正俊

調査期日 A調査 平成2年6月28日～29日

B調査 平成2年10月4日～6日

立会い調査 平成2年12月11日～13日

調査の概要 遺跡は山形市街地南東隅に位置し、上桜田集落から中桜田集落にかけての扇状地扇端に広がっている。遺跡のすぐ南側を馬立川が西流し、東北約500mの山裾には柏山と耕源寺が遺跡をみおろすように立っている。周辺一体の地目は、ほとんどが畑地ないし水田で、標高は198～206mを測る。

今回の調査は、本遺跡を含む21haの地域に東北芸術工科大学(仮称)が建設されることになったため、事前に事業予定地全域の表面踏査と試掘調査を実施したものである。なお、本事業は山形市も関係するため、調査は山形市教育委員会と合同で実施している。

A・B調査 事業予定地全域の表面踏査を2日間行った結果、寺下・木戸・高新田の3地区で遺物の表面採集がなされ、また団子森地区でも地元の方の聴き取りから遺跡の可能性が予測されたため、計4地区について10月にB調査を実施した。117ヶ所について坪掘りをしたところ、寺下・高新田・団子森の3地区からは遺構や遺物がまったく検出されず、遺跡はないものと判断される。表面踏査時の数片の遺物は、山際からの流出と考えられる。

木戸地区については、40ヶ所の坪掘り区のうち南寄りの6地点から微量の遺物が発見されたため、木戸遺跡(遺物包蔵地)として新規登録した。遺跡範囲は約4,700m²である。

立会い調査 東西80m、南北60mの遺跡範囲に、当初幅2,4m、長さ40～50mのトレンチを南北方向に4本設定し、遺跡全体の内容把握を試みた(第77図)。その結果、遺構や遺物の検出が第3トレンチの中央付近に限定されたため、つぎにその部分を約240m拡張し、精査を行った。第1・2トレンチは後世の削平が著しい。

検出遺構 今回の調査によって検出した遺構は、竪穴住居跡1棟・土壇3基・性格不明の落ち込み遺構2基の合わせて7ヶ所である。遺構はいずれもIV層の角礫を含む暗黄褐色粘質土を掘り込んでおり、IV層地直上面でプランが確認された。また遺跡周辺が段々の畑に整地されているため、段の上面側は後世の削平が著しく、遺構の段の下面側に集中して検出された(第78図)。以下順に検出した遺構について説明する。

ST6住居跡は、精査区の西壁中央部に位置し、検出径は南北3.6m、東西1.9mを測る。平面は略円形を呈し、壁の高さは、7～15cmである。床面はほぼ平坦で、貼床は認められない。柱穴は5個検出され、支柱穴と思われるものは深さ20cm前後としっかりしている。住居跡の東南寄りに直径35cm、深さ14cmの浅い落ち込みがみられ、その周囲を角礫がとり

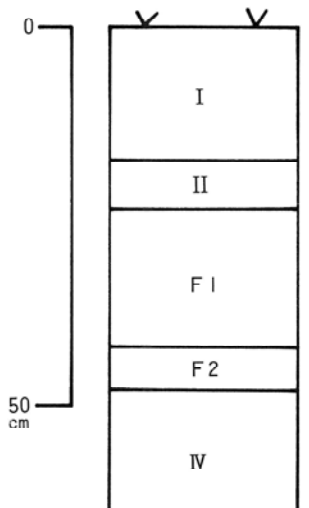


第77図 木戸遺跡概要図

囲んでいる。焼土や炭化物は認められなかったが、角礫には熱を受けた痕跡のあるものが数点認められ、炉の可能性も有する。遺物は覆土2層から縄文土器片が1点と磨石片が1点出土したのみである。ただしB調査の段階で、住居跡の中央付近から縄文土器がさらに2点出土している。やや厚手で渦巻状の貼付文が施されていることから、時期は縄文時代中期大木8b式期頃と推定される。

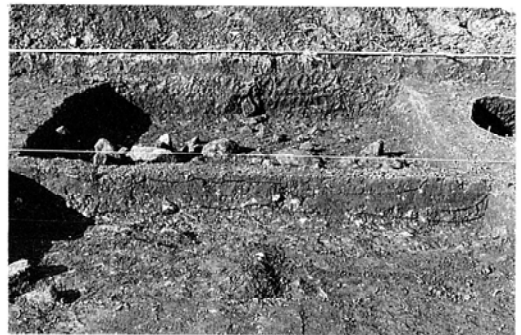
SX5落ち込み遺構は、精査区の西壁南端に位置し、検出径は南北3.1m、東西2.8mを図る。平面は不整の方形を呈するが、壁の立ち上がり不明瞭な部分も有り、堅穴住居跡とは断定しがたい。柱穴は6個検出されたが、深さはいずれも8cm前後と浅い。遺物は覆土3層から搔器1点と石器剥片1点が出土した。土器の出土がなく、時期は不明である。SK7土壇は、直径1.4mの円形を呈し、深さは7cm前後と浅い。覆土から縄文土器片が5点出土している。いずれも摩耗が著しく正確な時期は判断しにくい、縄文時代中期後半頃のものとして推定される。

SK1・3・4土壇とSX2落ち込み遺構からは、明瞭な遺物は出土しなかった。SK1土壇は、長径2.4m、短径1.8mの楕円形を呈し、深さは約40cmあり、壁の立上がりも明瞭である。SX2落ち込み遺構は長径3.8mの長方形を呈するが、壁の立上がりは明瞭でない。



- I 褐色耕作土
- II 濁褐色粘質微砂
- F1 黒褐色微砂
- F2 暗褐色砂質土
- IV 暗黄褐色粘質土

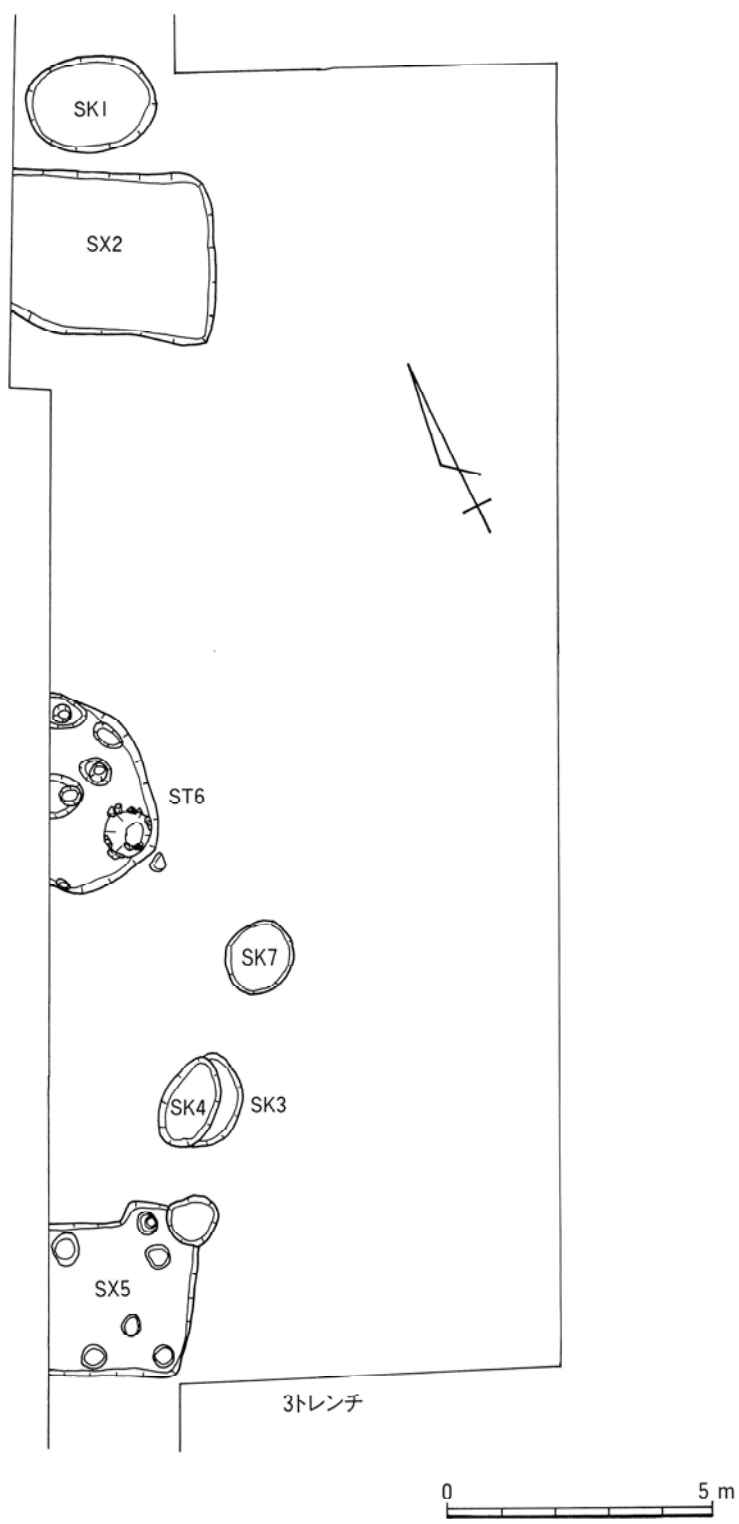
ST6 土層柱状図



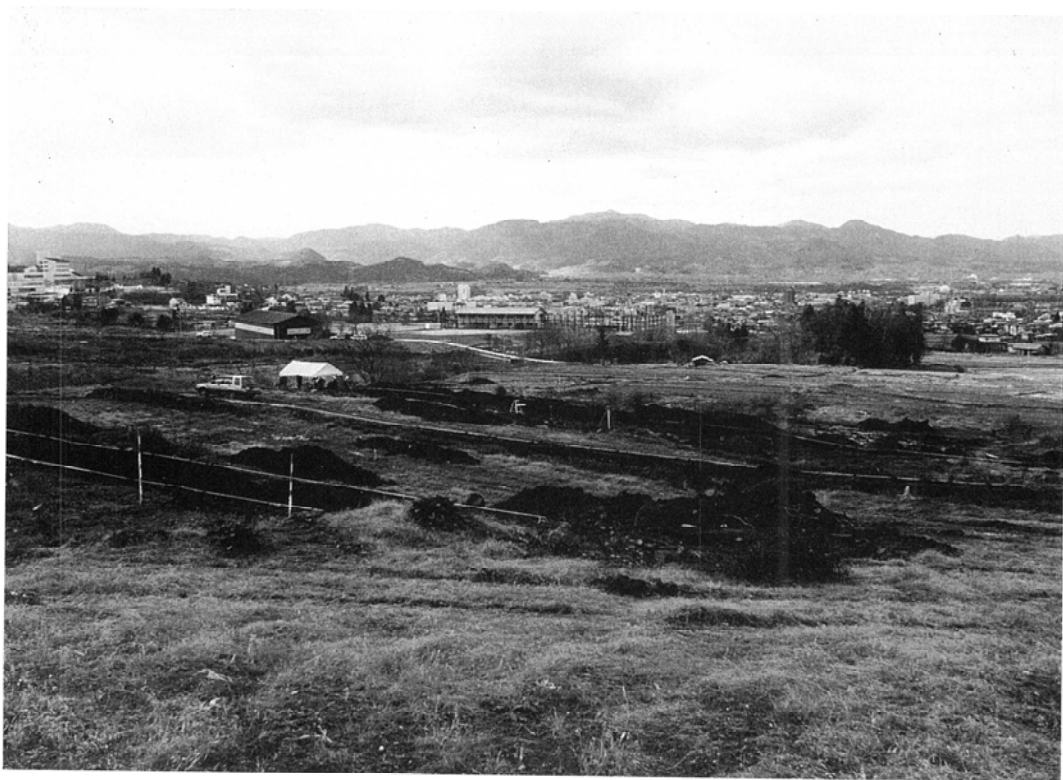
トレンチ土層断面



住居跡土層断面



第78図 木戸遺跡遺構配置図



木戸遺跡調査状況（東から）



同上 ST6住居跡（南から）



木戸遺跡遠景（西から）



精査区近景（南から）



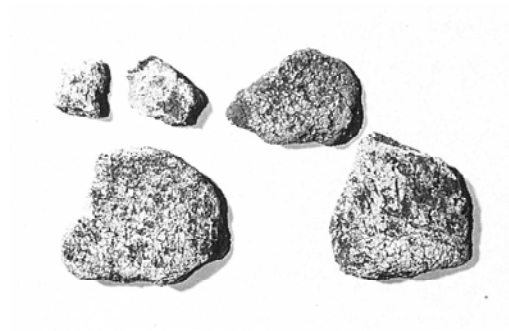
SK1. S×2 全景



S×5 全景



縄文土器（ST6）



縄文土器（SK7）



搔器（S×5）



剥片（S×5）

III まとめ

平成2年度遺跡詳細分布調査は、平成3年度以降に予定されている開発事業計画に先行して遺跡の所在・範囲・性格を明らかにし、開発事業計画との調整をとることを目的とするもので、一部記録保存のための小規模な発掘調査と立会い調査を実施した。

調査遺跡は128箇所(127遺跡)を数え、うち41遺跡は新たに発見され、登録した遺跡である。また、B調査の結果、抹消した遺跡は5遺跡であり、統合した遺跡が1箇所、A調査やB調査により、遺跡の範囲、位置、遺跡名の訂正が必要となった遺跡は35遺跡を数える。以下に、そのリストを掲げてまとめとする。

1 新規発見遺跡

① 苦竹原遺跡	飽海郡遊佐町大字当山字苦竹原	平安時代
② 中地蔵遺跡	山形市大字山寺字中地蔵	縄文時代 平安時代
③ 五百刈遺跡	寒河江市中郷字五百刈	縄文時代
④ 金俣I遺跡	飽海郡遊佐町大字吉出字金俣	縄文時代
⑤ 金俣J遺跡	飽海郡遊佐町大字吉出字金俣	縄文時代
⑥ 金俣K遺跡	飽海郡遊佐町大字吉出字金俣	縄文時代
⑦ 懐の内E遺跡	飽海郡遊佐町大字吉出字懐の内	縄文時代
⑧ 蔵台遺跡	飽海郡八幡町下青沢字蔵台1-38外	縄文時代
⑨ 山楯2遺跡	飽海郡平田町大字山楯字北山	縄文時代
⑩ 山楯3遺跡	飽海郡平田町大字山楯字北山	縄文・弥生・平安時代
⑪ 山楯4遺跡	飽海郡平田町大字山楯字北山	平安時代
⑫ 山楯5遺跡	飽海郡平田町大字山楯字北山	平安時代
⑬ 山楯6遺跡	飽海郡平田町大字山楯字北山	縄文時代・平安時代
⑭ 山楯7遺跡	飽海郡平田町大字山楯字北山	縄文時代
⑮ 山楯8遺跡	飽海郡平田町大字山楯字北山	縄文時代・平安時代
⑯ 東千作遺跡	西置賜郡白鷹町大字佐野原字東千作	縄文時代
⑰ 赤土場遺跡	西置賜郡白鷹町大字佐野原字赤土場	縄文時代
⑱ 白岩館跡	寒河江市白岩字楯	中・近世
⑲ 植木場一遺跡	南陽市大字宮崎字植木場一、地藏堂外	奈良・平安時代
⑳ 烏川1遺跡	米沢市大字梁沢字砥沢	縄文時代
㉑ 烏川2遺跡	米沢市大字梁沢字砥沢	縄文時代
㉒ 烏川3遺跡	米沢市大字梁沢字烏川北	縄文時代

②③	烏川4遺跡	米沢市大字梁沢字古檀	縄文時代
②④	烏川5遺跡	米沢市大字梁沢字糸畔向	縄文時代
②⑤	木戸遺跡	山形市大字上桜田字木戸	縄文時代
②⑥	サツテロ2遺跡	西村山郡西川町大字間沢字サツテロ	縄文時代
②⑦	金谷遺跡	上山市大字金谷	平安時代
②⑧	樋渡遺跡	山形市大字富神台字樋渡	縄文時代
②⑨	藤治屋敷遺跡	山形市大字中野字藤治屋敷	平安時代
③⑩	馬洗場A遺跡	山形市大字中野字馬洗場	平安時代
③⑪	馬洗場B遺跡	山形市大字中野字馬洗場	平安時代
③⑫	向河原遺跡	山形市大字渋江字向河原	平安時代
③⑬	影沢北遺跡	天童市大字高揃字松葉、影沢北	古墳、奈良時代
③⑭	中袋遺跡	天童市大字高揃字中袋2233、2225外	平安時代
③⑮	壇の前遺跡	西置賜郡小国町大字杉沢字壇の前	縄文時代
③⑯	水無沢A遺跡	西置賜郡小国町大字大滝字水無	縄文時代
③⑰	水無沢B遺跡	西置賜郡小国町大字大滝字水無	縄文時代
③⑱	前田A遺跡	西置賜郡小国町大字綱木箱口字稲場一・二	縄文時代
③⑲	前田B遺跡	西置賜郡小国町大字綱木箱口字稲場二外	縄文時代
④⑩	前田C遺跡	西置賜郡小国町大字綱木箱口字沢田二	縄文時代
④⑪	古屋敷遺跡	西置賜郡小国町大字綱木箱ノ口字古屋敷一	縄文時代

2 抹消遺跡

①	竹ノ花遺跡	飽海郡遊佐町大字当山字竹ノ花	平成2年3月『分布調査報告書(17)』
②	1番割遺跡	飽海郡遊佐町大字直世字一番割	同 上
③	南川向遺跡	飽海郡遊佐町大字直世字南川向	同 上
④	下山崎遺跡	飽海郡遊佐町大字北目字下山崎	同 上
⑤	大多遺跡	酒田市大字大多新田	同 上

3 統合遺跡

①	船見沢遺跡	船見沢A遺跡と船見沢B遺跡	平成2年3月『分布調査報告書(17)』
---	-------	---------------	---------------------

4 範囲、位置、名称の訂正を要する遺跡

①	小山崎遺跡	範囲の訂正	昭和53年3月『山形県遺跡地図』
②	舟森遺跡	範囲の訂正	同 上
③	枅川遺跡	範囲の訂正	同 上
④	中田浦遺跡	範囲の訂正	平成2年3月『分布調査報告書(17)』

⑤	地蔵田遺跡	範囲の訂正	同	上
⑥	宮ノ下遺跡	範囲の訂正	平成元年3月『分布調査報告書(16)』	
⑦	宮田楯遺跡	範囲の訂正	平成2年3月『分布調査報告書(17)』	
⑧	三田遺跡	範囲の訂正	平成元年3月『分布調査報告書(16)』	
⑨	袋冷遺跡	範囲の訂正	同	上
⑩	飛島遺跡	範囲の訂正	平成2年3月『分布調査報告書(17)』	
⑪	葡萄崎遺跡	範囲の訂正	平成2年3月『分布調査報告書(17)』	
⑫	蕨山遺跡	範囲の訂正	同	上
⑬	野沢館跡	範囲の訂正	昭和53年3月『山形県遺跡地図』	
⑭	竜沢山遺跡	位置の訂正	同	上
⑮	小出沢A遺跡	範囲の訂正	平成2年3月『分布調査報告書(17)』	
⑯	小出沢B遺跡	位置の訂正	同	上
⑰	大櫻遺跡	位置の訂正	昭和53年3月『山形県遺跡地図』	
⑱	横山遺跡	範囲の訂正	同	上
⑲	玉川D遺跡	範囲の訂正	昭和58年3月『分布調査報告書(10)』	
⑳	金俣A遺跡	位置の訂正	昭和62年3月『分布調査報告書(14)』	
㉑	金俣B遺跡	範囲の訂正	同	上
㉒	金俣D遺跡	範囲の訂正	同	上
㉓	金俣F遺跡	範囲の訂正	同	上
㉔	懐ノ内B遺跡	範囲の訂正	同	上
㉕	懐ノ内C遺跡	範囲の訂正	同	上
㉖	平岡楯跡	位置の訂正	昭和53年3月『山形県遺跡地図』	
㉗	赤松楯跡	範囲の訂正	同	上
㉘	大浦台遺跡	範囲の訂正	同	上
㉙	畑田遺跡	範囲の訂正	平成2年3月『分布調査報告書(17)』	
㉚	中野遺跡	範囲の訂正	同	上
㉛	八反稻干原遺跡	名称の訂正(旧シク遺跡)	同	上
㉜	渋江遺跡	位置の訂正	平成元年3月『分布調査報告書(16)』	
㉝	龍神沼遺跡	位置の訂正	昭和53年3月『山形県遺跡地図』	
㉞	千野遺跡	位置の訂正	同	上
㉟	綱木沢向遺跡	位置の訂正	同	上

山形県埋蔵文化財調査報告書 163 集
分布調査報告書 (18)

平成 2 年度以降農林・土木事業他関係遺跡

国営農地開発事業烏海南麓地区関係遺跡

東北横断自動車道酒田線関係遺跡

埋蔵文化財基礎調査

平成 3 年 3 月 29 日 印刷

平成 3 年 3 月 30 日 発行

発行 山形県教育委員会

印刷 山形印刷株式会社
